

令和元年度版  
**京都市の学校評価システム**

平成30年度実施状況

——「自らを振り返り」「互いに高め合う」——

令和元年9月

京都市教育委員会

# 目 次

## I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方 .....	2
2 重点項目 .....	5
3 実施状況 .....	5
4 学校評価関係年表 .....	14

## II 学校での取組事例

1 京都市立開晴小中学校 .....	19
2 京都市立七条第三小学校 .....	39
3 京都市立七条中学校 .....	57

# I 京都市の学校評価システム

## 1 京都市における学校評価の考え方

本市では、「学校運営の組織的・継続的な改善」、「保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり」、「教育活動の質的向上」等を目的に、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都市方式」での学校評価を実施している。

制度の導入にあたっては、平成13年度に校長会との共同プロジェクトを立ち上げ、学校評価の試行実施を開始した。その後、2年間の議論と実践をもとにプロジェクトのまとめ「今、学校にもとめられているもの」を発行すると同時に「京都市学校評価ガイドライン」を策定。学校と家庭・地域が、お互いが足りないところを補い合い、高め合う双方向の信頼関係を築くことを目指す学校評価を平成15年度から全校で実施した。

### ○その後の経過

H16年	全校での評価結果の公表
H18年12月	学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会の設置
H19年4月	「京都市学校評価ガイドライン（平成15年度版）」の改訂（第2版）
H19年6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行
H19年7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 (学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正)

この間、学校評価活動を深化させながら、PDCAサイクルによる「学校評価システム」の着実な浸透を図ってきた。また、国においても、学校評価に関する法令の改正が行われ、「学校による自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」も努力義務化された。

こうした状況を踏まえ、平成21年6月には、次の4点を柱とした「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」を策定し、学校評価の充実に努めている。

### (1) 学校評価をみんなのものにする

各学校では、全教職員が学校教育目標だけでなく、その具現化に向けた実践に対する評価項目・指標・評価結果を共有し、「自己評価」を今後の教育活動の改善に結び付けている。また、保護者・地域の方々による「学校関係者評価」やそれらの評価結果の公表を行っている。こうした取組を通して、学校評価は、教職員はもとより、保護者・地域の方々も含めた「自分ごと」となり、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学校生活を「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

### (2) 当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては、教職員や学校関係者が、よりよい学校づくりを進める当事者としての意識を持って評価することを基本としている。このため、学校関係者による評価においても「学校の自己評価結果に対する評価」に加え、「学校の課題を把握し、課題解決に向けた支援策」についても協議していただくことにしている。

### (3) 自らを振り返り、互いに高め合う

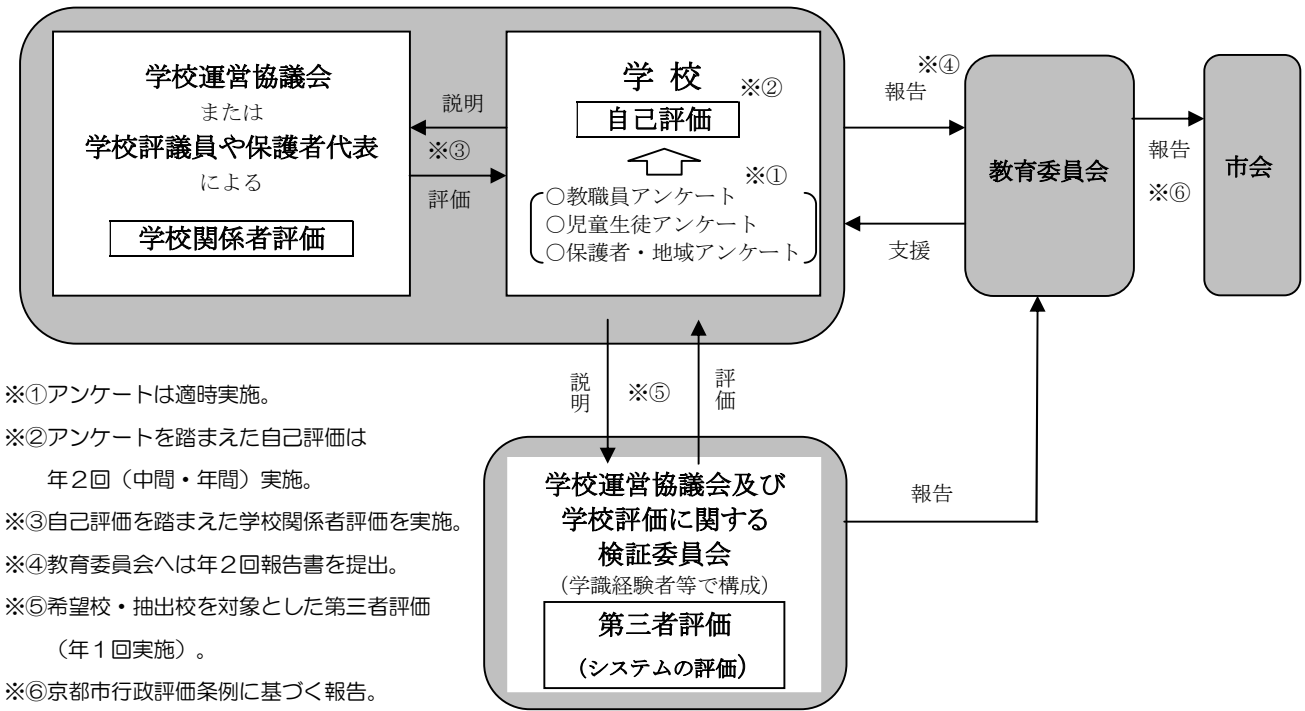
本市では、学校評価システムの導入当初から、保護者・地域等が学校を一方的に評価するのではなく、それぞれがそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」そして、「子どもたちは、自らの学習に向かう学びの姿勢を振り返る」など、「それぞれが自らを振り返る」という視点を持つことにより、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係の構築を目指し、取り組んでいる。

### (4) 学校の魅力を発見し、発信する

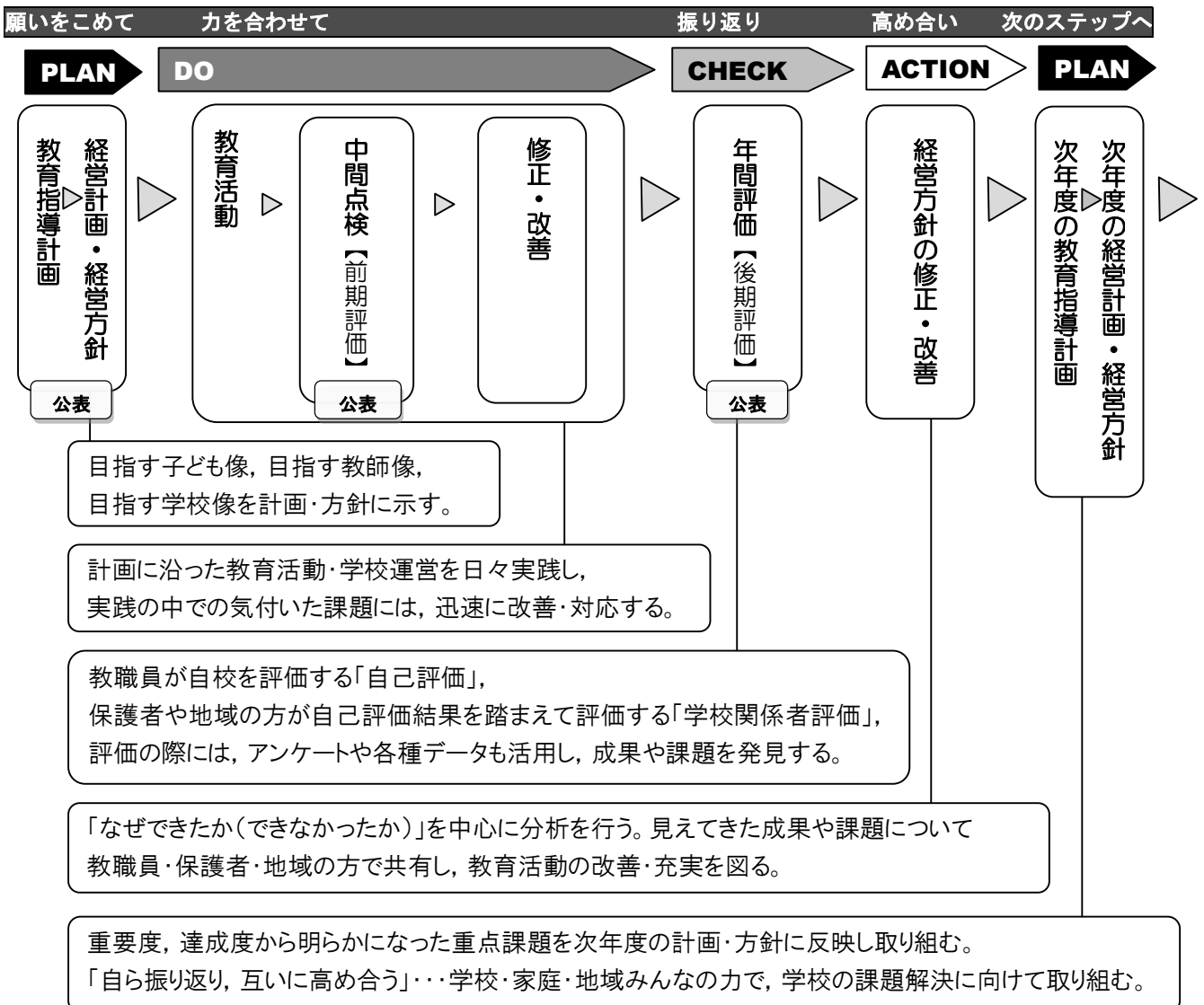
学校評価を実施することで把握した学校の課題を、その克服・改善に向けた取組に結びつけるためには、学校の魅力が見える評価手法を用いることが重要である。本市では、アンケート作成・集計・分析が可能な「学校評価支援システム」（本市独自作成）を導入し、自校の魅力や課題を把握しやすくしている。学校評価の結果の概要は、全学校がホームページで公開するとともに学校だより等でも保護者や地域に積極的に情報発信している。



《自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図》

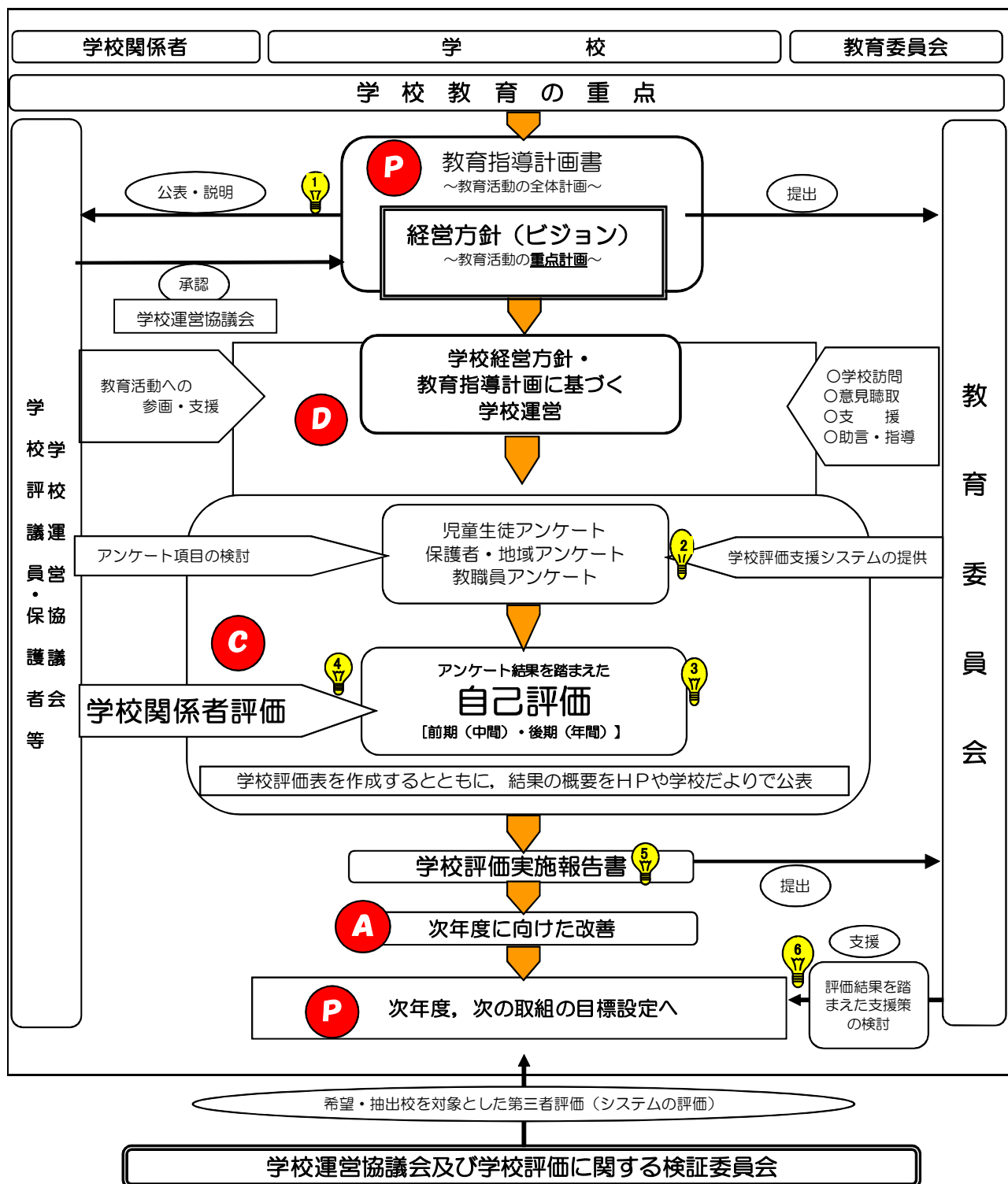


《PDCAサイクルに基づく学校評価の流れ》



# 学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に改善を図っています。



## ポイント

- 1 学校経営方針，学校評価年間計画，評価項目の策定，公表
- 2 学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ，評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と，課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告（年間2回）
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

## 2 重点項目

平成30年度は、これまでの取組の上に立って、学校評価の一層の充実を目指し、以下の4点を主な取組とした。

- (1) 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による学校訪問（第三者評価）の実施（1中学校ブロック3校及び、義務教育学校2校、計5校を訪問）。学校教育活動や学校評価、学校運営協議会の取組とともに、平成23年度から全中学校区で実践している小中一貫教育についての評価の充実を図るため、中学校ブロック単位での訪問に加え、平成30年4月に義務教育学校へ移行した小中一貫教育校の訪問を実施。
- (2) 児童生徒や保護者・地域、教職員を対象としたアンケートについて、各校がより効率的かつ多面的に評価・分析を行えるよう、教育委員会として、アンケートを作成・集計・分析するための「京都市版学校評価支援システム」を運用・支援。平成30年度にはシステムの改修や必要な機器の更新など、利便性の向上を図った。
- (3) 学校評価の充実に向け、各校で作成する「学校評価実施報告書」において、各校が設定する評価項目に加え、「学校教育において重視する視点」（本市の指針である「学校教育の重点」より）を評価項目に設定。全校で重点的に取り組むべき事項についての成果や課題の把握に努め、学校教育活動の充実を図るとともに、京都市としての取組の評価も行った。平成31年度分からは、「学校・園の働き方改革」を保護者・地域の御理解のもとに推進していけるよう、業務改善・教職員の働き方改革についての項目を追加。
- (4) 教職員・学校運営協議会委員等を対象にした研修会において、学校評価に関する説明を行い、学校評価の意義や活用方法について周知した。

## 3 実施状況

### (1) 「自己評価」の実施状況

全ての学校で、保護者、児童生徒へのアンケートを実施するとともに、それらをもとにした「自己評価（学校教育法施行規則第66条で平成19年から義務化）」を行った。結果については、各校の学校だよりやホームページ等で公表した。

### (2) 「学校関係者評価」の実施状況

「学校関係者評価（学校教育法施行規則第67条で平成19年から努力義務化）」については、全ての学校で、「学校運営協議会」又は「学校評議員が一堂に会する場」で、学校から「自己評価の結果」と「学校としての改善策」を説明したうえで、学校運営協議会委員や学校評議員から、意見だけではなく、子どもたちや学校の課題に対する支援策についても言及していただくこととしており、課題に即した支援の充実や取組の見直しが進められている。

具体的には、読み聞かせボランティア、地域見守り隊、総合的な学習の時間における地域ボランティア・保護者との連携の充実など学校としての取組や、読書に関する意識を高めるための親子読書といった家庭での取組、地域行事で子どもが活躍できるような地域での取組など、様々な活動における支援の充実に繋がっている。

### (3) 学校評価の実施にあたって

全ての学校に対し、「評価結果の公表方法及び内容の工夫」や「学校評価の効果」、「実施にあたっての課題」についてのアンケートを実施し、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。

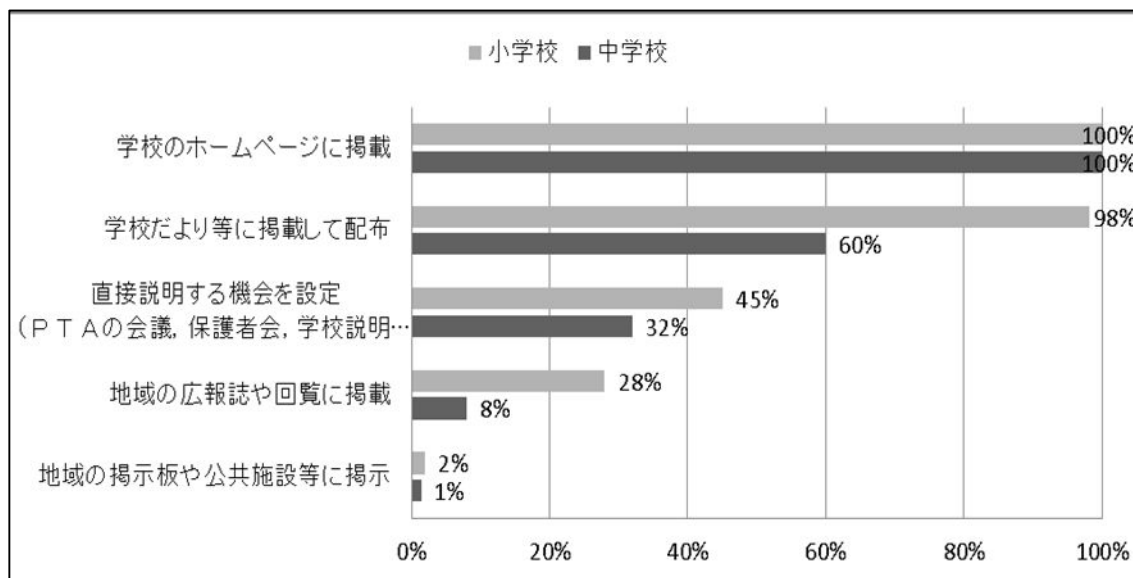
#### ア 公表方法や内容の工夫について

評価結果の公表については、全校で学校評価の結果をホームページに掲載し、さらに、学校だよりへ掲載したり、地域への回覧、学校運営協議会等の会議の場で直接説明する機会を設けたりするなど、複数の方法を活用することにより、それぞれの学校で保護者や地域の方々に対して積極的な発信を行っている。また、公表内容についても、評価結果の分析や課題等についての説明をはじめ、グラフ化したり、児童生徒・保護者・教職員それぞれのアンケートで同じ内容についての質問項目の回答を比較したりする等の方法で、分かりやすい発信に努めている。

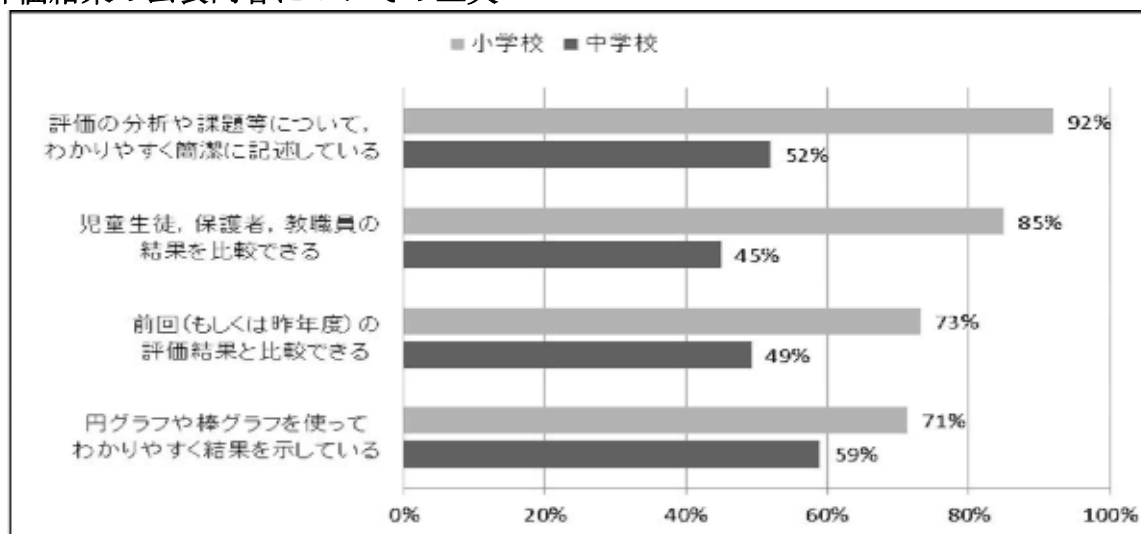
また、分析結果については、各中学校ブロック内の小学校・中学校間で共有するなど、義務教育9年間を連続した学びの場としてとらえる小中一貫教育の視点で各校の取組に活用されている。

今後、より多くの地域の方々に、学校の取組への理解や参画をしていただけるよう、PTAの会議や地域の回覧等の活用などの公表方法や、見やすく伝わりやすい図の活用など更なる公表内容の工夫を行う必要がある。

### 評価結果の公表方法についての工夫



### 評価結果の公表内容についての工夫

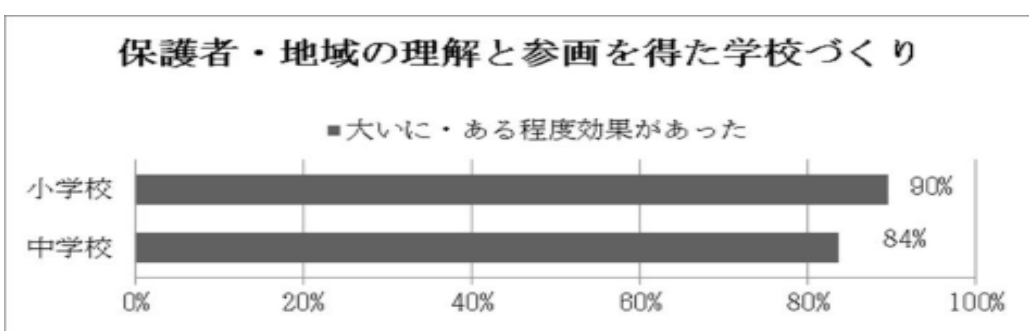
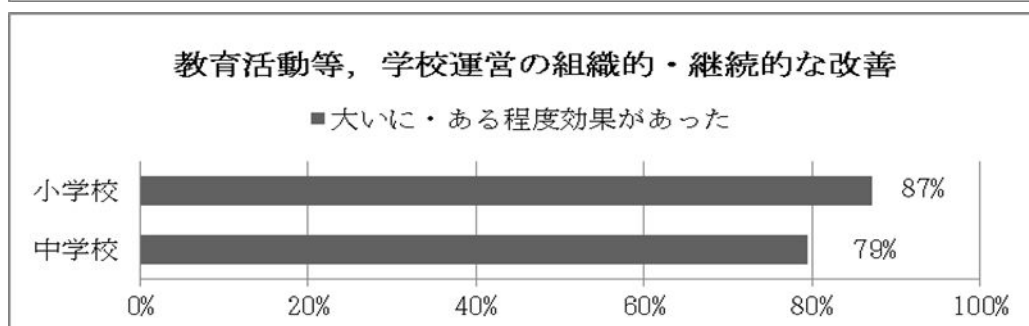
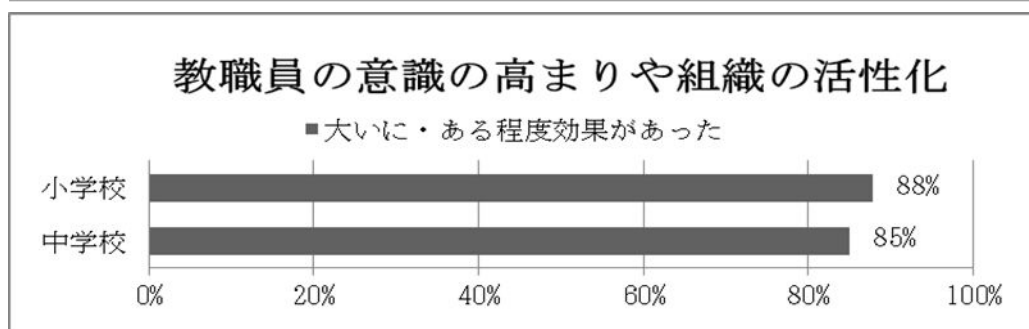
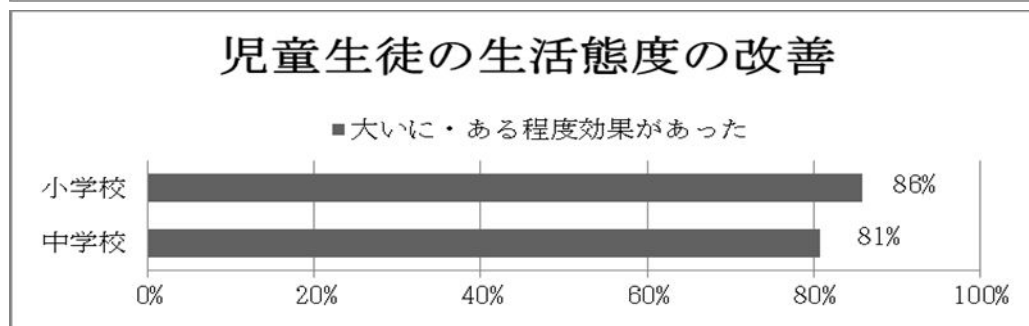
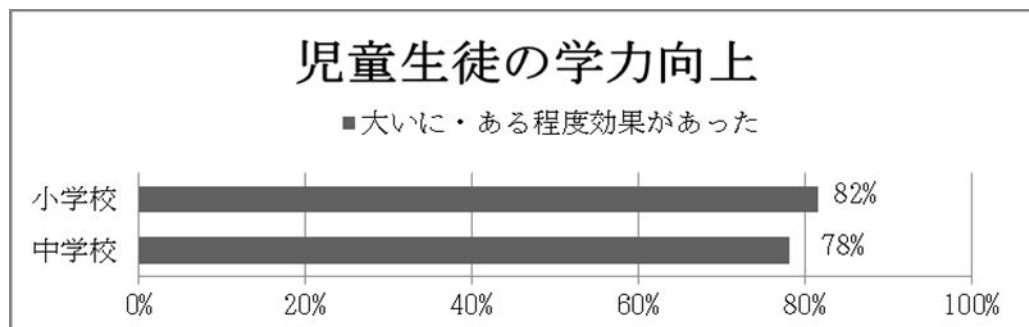


### イ 効果について

学校評価の効果については、児童生徒の学力向上や生活態度の改善、教職員の意識の向上・深化や組織の活性化、学校運営の組織的・継続的な改善、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりの各観点において、約8割を超える学校で効果があるとの結果が出ている。学校評価を通じて、学校・保護者・地域が連携・協働する体制が構築され、子どもたちの学びと育ちを支える仕組みが定着してきている。

また、学校評価を通じて明らかとなった諸課題を、職員会議等において教職員間で共有し改善に向けた協議を重ねるだけでなく、学校運営協議会や学校評議員との情報共有を通して、更なる協力・支援を得るなど、PDCAサイクルの中で保護者や地域、教職員が一体となって、課題解決に向けた取組が進められている。

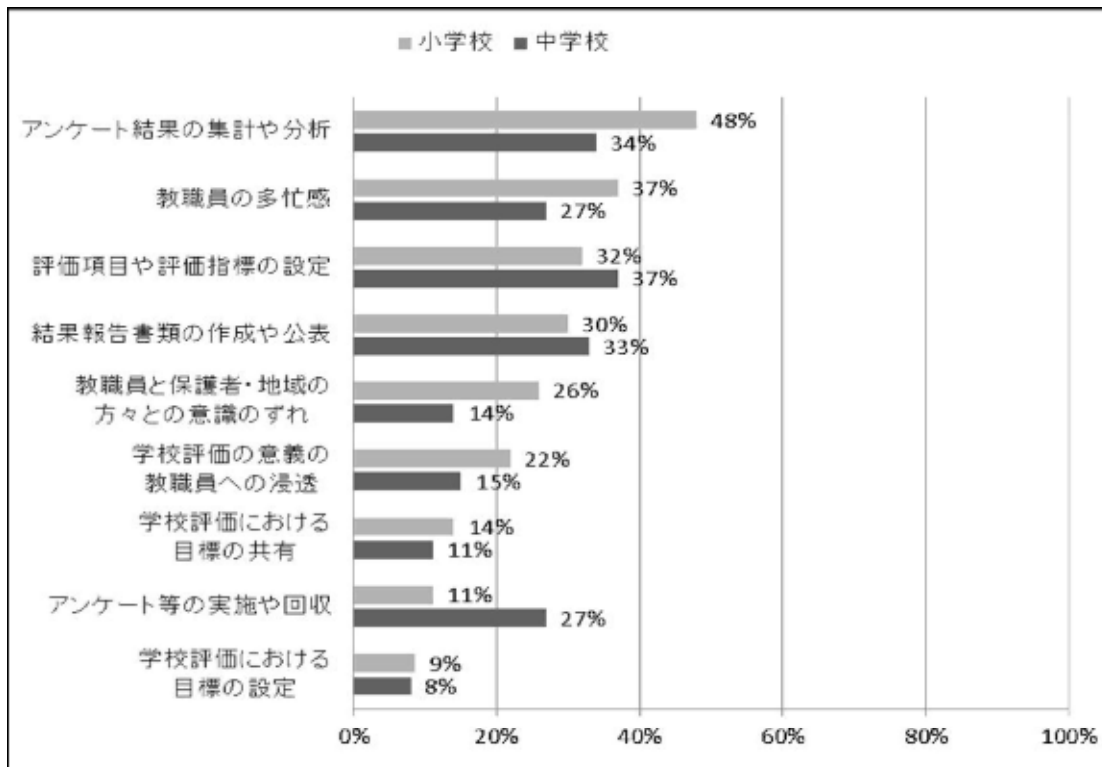
## 学校評価の効果について



## ウ 課題について

学校評価の課題については、アンケートの実施、集計や分析に係る報告書類作成の作業を煩雑と感じる学校が見受けられることから、平成26年度から導入している「学校評価支援システム」について、平成30年度にはアンケート帳票の分析時にエラーの発生が低減するようシステム改修を行うとともに、必要な機器を更新し、学校・教職員の更なる負担軽減に努めた。また、保護者アンケートの回収率が約8割にとどまっているため、今後も学校評価の意義や目的について保護者・地域との共通理解に努め、よりよい信頼関係のもとで取組を推進する。

## 学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



### (4) 「第三者評価」等の実施状況

#### ア 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」について

学校評価の各学校での実施状況を含め、本市が進める学校評価システムの客観性・信頼性を検証するとともに、第三者的な視点で学校運営や教育活動の質の向上に繋げるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下「検証委員会」という）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

#### 【検証委員会委員（30年度）敬称略・役職等は委員任命当時のもの】

安宅 信代	公募委員（羽束師小学校学校運営協議会委員）
○天笠 茂	千葉大学 特任教授
入江 嘉明	公募委員（榎原小学校学校運営協議会委員）
◎小松 郁夫	国立教育政策研究所 名誉所員
笠沙 知章	京都教育大学連合教職実践研究科 教授
西川 信廣	京都産業大学 教授
平林 幸子	京都中央信用金庫 副会長
吉岡 恵	P T A代表（京都市小学校P T A連絡協議会会計）

※ ◎は委員長，○は副委員長

（参考）平成30年度から、学校・教育委員会事務局代表はオブザーバーとして参加

## イ 平成30年度 検証委員会開催状況

### ①第1回会議

- ・日 時 平成30年10月22日（月）10：00～
- ・会 場 京都市教育相談総合センター こども相談センターパトナ 会議室
- ・委 員 小松委員長，天笠副委員長，安宅委員，入江委員，竺沙委員，西川委員，平林委員，吉岡委員
- ・議 題 学校評価及び学校運営協議会について  
検証委員会の学校訪問について

#### ・議事概要

(学校評価及び学校運営協議会について)

- 学校評価の項目は，各学校で自校の学校教育目標に基づいて設定しているが，その学校教育目標は京都市の共通した教育方針である「学校教育の重点」が基盤になっているため，ある程度全市で統一感のある評価項目となっていると言える。
- アンケートを取ることが目的とならないように，学校教育活動の活性化に繋がる評価項目を設定するなど工夫する必要がある。保護者のアンケート結果は厳しくなる傾向があり，子どもを対象としたものとは温度差がある。また，一般的にアンケートをすると結果は中間によりがちになる。
- アンケートは「このアンケート項目で何を明らかにするのか」を明確にしておかないと，形骸化する。回数を重ねると，子どもや保護者の感想を聞くだけになっていく。分析にクロス集計を導入するなどの工夫が必要ではないか。
- 国の流れとしては，当初，学校の内部評価であったものを，外部による評価を取り入れるなど徐々に拡張してきた経緯がある。制度はある程度安定すると形骸化してくるものであり，近年は，保護者アンケートをとることがすなわち学校評価であるようにとらえられてきてしまった反省もある。
- 評価のあり方，外部の意見の聞き方は，本来様々な手法があってもよいはず。保護者・地域の声を常に大事にする大前提のもと，例えばアンケートは2～3年に1回にするなどであってもよい。軸は，「先生自らが，自分たちの教育活動や学校を振り返る」ための評価であることである。いわゆる「アンケート疲れ」のような，本来の狙いを果たせないようなものにならないようにすべき。
- 学校運営協議会，また，「地域に開かれた学校づくり」にとっては，地域の担い手の円滑な世代交代や，後継者の育成が課題である。学校の中でも「在校生がコミュニティ・スクールを背負っていく意識」を育ててほしい。
- 地域への学校評価結果の公表方法について。まずは，学校の情報が地域の中にさりげなく入っていくような仕組みづくりが必要ではないか。その学校の情報の中に学校評価の内容を含めるかは，それぞれの地域と学校長の判断であろう。

### ②検証委員会による学校訪問

本市の学校評価システムが，学校現場において，学校運営上の課題解決に向けた手段としての確に機能しているかどうかを検証するため，学校訪問を実施した。平成30年度は，平成23年度から全中学校区で実践している小中一貫教育の観点を踏まえ，中学校区単位で3校への学校訪問を実施するとともに，平成30年4月に「義務教育学校」へ移行した小中一貫教育校のうち2校へ学校訪問を実施。計5校において，次のとおり校長・地域連携担当教員等へのヒアリング，授業参観等を実施して，カリキュラム及び授業以外の教育活動における子どもたちの姿からも学校の取組への評価をいただいた。

## <義務教育学校>

(ア) 開晴小中学校において実施

- ・日 時 平成30年10月26日(金) 9:00~14:30
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 入江委員, 平林委員
- ・内 容 開晴小中学校の取組

(イ) 東山泉小中学校において実施

- ・日 時 平成30年11月6日(火) 9:00~16:30
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 入江委員, 西川委員
- ・内 容 東山泉小中学校の取組

## <七条中学校区>

(ア) 七条小学校において実施

- ・日 時 平成30年11月12日(月) 9:00~13:00
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 安宅委員, 竺沙委員, 吉岡委員
- ・内 容 七条中学校区4校(七条小学校, 七条第三小学校, 西大路小学校, 七条中学校)の概要説明  
七条小学校の取組

(イ) 七条第三小学校において実施

- ・日 時 平成30年11月12日(月) 13:30~16:30
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 竺沙委員, 吉岡委員
- ・内 容 七条第三小学校の取組

(ウ) 七条中学校において実施

- ・日 時 平成30年11月28日(月) 9:00~14:30
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 安宅委員, 吉岡委員
- ・内 容 七条中学校の取組  
4校合同協議(七条小学校, 七条第三小学校, 西大路小学校, 七条中学校)

委員からは、「義務教育学校においては前期課程・後期課程間の連携や学校の運営などの面で苦労がある一方で、小中一貫教育の観点からは大きなメリットがあると感じた。」「中学校区でのビジョンが明確にされており、校長間の協議や学校運営協議会への説明も十分されていると感じた。」との評価をいただいた。

また、今後の課題としては、「一人一人の教職員にとっての学校評価の意義や目的が何であるか、教職員の授業力アップにつながる学校評価の在り方を問い直してみる必要がある」「前期課程と後期課程の教員が相互に連携して、児童や生徒に対して学習指導を展開するという小中一貫教育校のメリットを展開するための一層のカリキュラム・マネジメントや、アクティブ・ラーニングの視点に立った工夫が求められる」等の御意見をいただいた。

## ③第2回会議

- ・日 時 平成30年12月10日(月) 13:00~
- ・会 場 京都市教育相談総合センター こども相談センターパトナ 会議室
- ・委 員 小松委員長, 天笠副委員長, 入江委員, 竺沙委員, 平林委員, 吉岡委員
- ・議 題 京都市の学校教育の充実に向けて(学校訪問等も踏まえて)



## ・議事概要

(京都市の学校教育の充実に向けて(学校訪問等も踏まえて))

### 【小中一貫教育について】

<開晴小中学校・東山泉小中学校>

- 開晴小中学校は統合による開校8年目、東山泉小中学校は統合による開校5年目であるが、開校して5年を超えてくると学校独自の成果や課題が見えてくる。管理職が具体的に取組の改善を考える際に、学校評価を自校の実態や課題を把握するエビデンスとして活用していただきたい。アンケート結果に目が行きがちであるが、アンケート結果を土台としつつ、普段の学校の様子や空気感とも併せて捉えることが学校評価の上で重要だと考える。
- 校長会等で学校間での情報交換を行い、課題等を共有して義務教育学校ならではの9年間の小中一貫教育を推進してもらいたい。
- 施設一体型や併用型の小中一貫教育校は施設が新しいため他の学校より良く見える部分があるが、9年間の小中一貫教育の取組そのものは、他の中学校ブロックでもアレンジして活用されている。
- 子どもは、今自分が通っている学校のことを好きであり、施設一体型・併用型でも、連携型でも、自分の学校が好きならば生き生きと通ってくる。だからこそ、連携型ならば連携型で、校長は「現状を活かして何ができるのか」を考えていかねばならない。

<七条中学校区>

- 1中3小学校という中学校ブロックであるが、わかりやすくインパクトのある言葉で、ブランドビジョンを明確にされており良かった。
- とりわけ若年者が多い教員構成の学校では、授業力の向上が課題の一つ。その中で、指導のテクニックだけでなく、授業のあり方について、ベテランから若手へ伝達する機会があるべきではないか。そのためには、中学校区としての強みを生かして、1校だけで完結してしまうのではなく、ブロックの学校全体で情報や思いをやり取りしてはどうか。
- 小学校の取組が中学校に連続していかないことが課題であるが、学校に課題意識があることは安心である。

### 【今後の検証委員会の方向性等について】

- 学校は、学校評価を通して教育委員会で掲げる重要な施策について点検し、教育委員会に結果を共有していくべき。法令的にも学校は教育委員会に報告義務がある。教育委員会も、設置者として、現場の生の声を具体的に施策に反映させてもよいのではないか。
- 不登校やいじめ等の教育課題については学校評価にはなじみにくいが、具体的な取組の部分については、学校として説明できるよう努めてもらいたい。
- 学校評価や学校運営協議会について、何のための学校評価であるのかという意義や、検証委員会での意見などを広報していくことが必要である。

## (5) 学校評価支援システムの運用

### ア 概要

平成26年度に導入した「京都市版学校評価支援システム」は、本市の新たな情報環境や情報機器に対応し、かつ機能面においても、アンケートの作成・集計・分析・データ管理を一つのシステムメニューに統合し、分析結果のグラフをより見やすくする等の改善を加えた本市独自のシステムである。導入以降も、学校からの要望を踏まえ、「アンケート結果の学年・組での絞り込み機能」や「他校と共通のアンケートをとれる機能」等の機能を追加し、アンケート作成や集計、結果分析をより効率的かつ多面的に実施できるよう改善している。さらに、平成30年度には、必要な機器の整備や、結果分析において、回収したアンケートのスキャン時のエラー発生率を減らすなど、利便性の向上に向けてシステム改修を実施し、各校で活用されている。

## イ 活用状況

学校評価支援システムを活用している学校は、全小・中・小中学校の約8割となる187校である。そのうち、学校評価支援システムを活用し、「重要度」と「実現度」との両方を聞き、自校の魅力や課題を分析出来るニーズ調査型アンケートを74校で実施している。学校評価支援システムが、学校の実情に応じて適宜安定的に活用されているといえる。今後も、ニーズ調査型アンケートによる調査・分析を活用しながら、各校が課題解決に向けて取り組めるよう、丁寧な運用支援を行っていききたい。なお、学校評価支援システムを活用せずにアンケートを実施している学校においても、約8割の学校が評価の分析や課題等について簡潔に記述したり、円グラフや棒グラフを使ってわかりやすく結果を示したりするなど工夫をしている。

### 参考1. 学校評価支援システムを活用してアンケートを実施している学校の状況

アンケートの実施状況	小学校		中学校		合計	
	実施校数	実施校数 /全小学校数	実施校数	実施校数 /全中学校数	実施校数	実施校数 /全小中学校数
「重要度」と「実現度」を聞くニーズ調査型アンケートの実施	50	30.5%	24	32.9%	74	31.2%
「実現度」のみを聞くアンケートの実施	76	46.3%	37	50.7%	113	47.7%
合計	126	76.8%	61	83.6%	187	78.9%

※小中学校（義務教育学校）の前期課程は小学校、後期課程は中学校に含む。

### 参考2. 「重要度」と「実現度」を聞く「ニーズ調査型」アンケートの例

◆ 挨拶について								
以下の項目について、「どのくらい重要だと思うか(重要度)」と、「実現できていると思うか(実現度)」をそれぞれお答えください。								
	重要度				実現度			
	重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出ている	あまり出ない	出来ていない
1 自ら進んで挨拶をすること	○	○	○	○	○	○	○	○
2 相手の気持ちを思いやって接すること	○	○	○	○	○	○	○	○

### 参考3. ニーズ調査型（魅力・課題発見型）分析の例

学校評価支援システムでは、アンケートの中で各項目の重要度と実現度を同時に聞くことにより、学校の魅力・課題を自動的に分析することができる。

質問項目	▲ 重要度 ▼	▲ 実現度 ▼	▲ ニーズ度 ▼
子どもが適切な言葉づかいをすること	7	1.1	48.3
子どもが丈夫な体をつくろうとすること	3	1	21
子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	4.9	5	14.7
子どもが他人を思いやり、親切にすること	7	5	21
子どもが楽しく学校に通っていること	7	5	21
子どもが将来の夢や希望について考えること	7	1.1	48.3
子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	2.9	2.9	14.8
子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	4.9	4.9	9
学校が、いじめのない学校づくりに取り組んでいること	7	7	7
学校が、人権を大切にされた教育活動を行うこと	7	7	7
学校の教育方針が保護者に伝わっていること	5.7	3.5	25.7
学校日より、学校ホームページで、学校の日常の様子を伝えること	6.9	3.4	31.7

■ は、重要度が高い項目

■ は重要度が高く、実現度が低い項目。この項目を重点課題に位置付けるなど、回答に表れた願いを学校の取組に反映させることができます。

■ は、実現度が低い項目

## 学校評価支援システムにおけるニーズ調査型の分析の見方

以下の計算方法で、システム内で自動計算し、表またはグラフ等で分析結果として表示。

### ※重要度及び実現度の計算方法

4段階評価の回答内容を、以下の数値に置き換えて、全回答者の平均値を算出。(最大値は7, 最小値は1)

「とても重要である」/「とても出来ている」・・・7

「やや重要である」/「やや出来ている」・・・5

「あまり重要でない」/「あまり出来ていない」・・・3

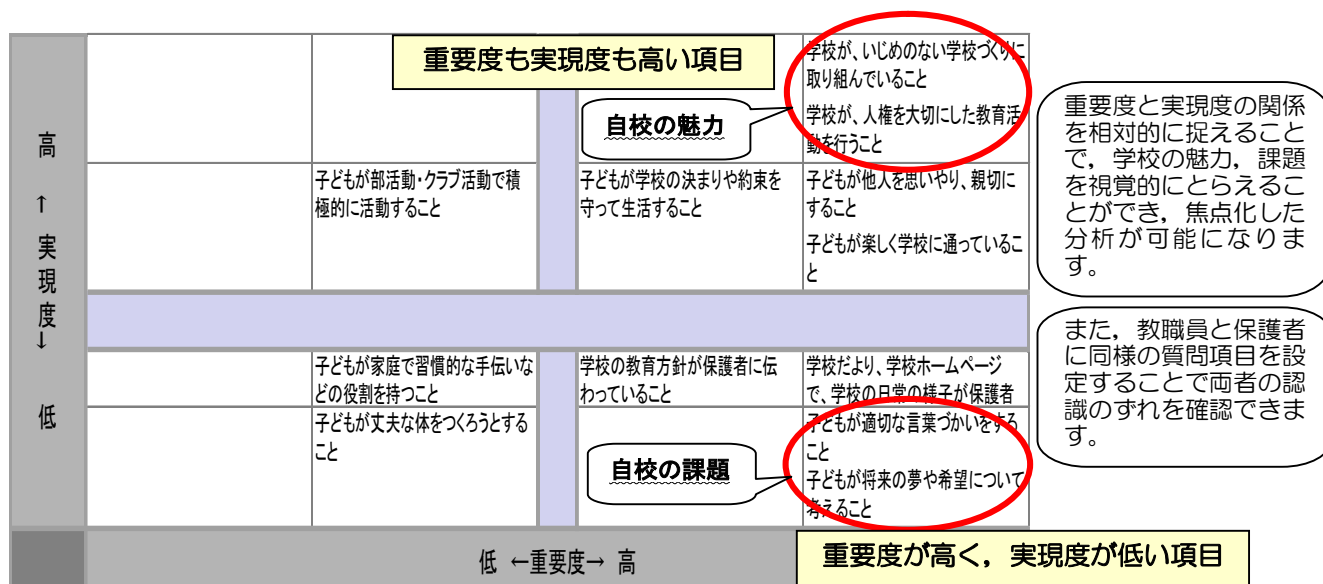
「重要でない」/「出来ていない」・・・1

- ・重要度及び実現度がともに、7に近い数値であるほど、評価者が重要だと考えており(重要度)、評価者が実施出来ていると考えている(実現度)ことを示す。
- ・重要度が高く、実現度が低い場合は、評価者が重要だと考えているが(重要度)、評価者が実施出来ていないと考えている(実現度)ことを示す。

### ※ニーズ度の計算方法

重要度と実現度の結果を乗して算出。(最大値は49, 最小値は1) 計算式「重要度×(8-実現度)」  
 数値が高い(重要度が高く、実現度が低い)項目は、自校の課題となり、数値が低い(重要度が高く、実現度が高い)項目が、自校の魅力となる。(ただし、重要度が低く、実現度が高い項目は、自校の魅力とまでは言い難いが、達成できている項目と分析出来る。)

- ・重要度が7, 実現度が1の場合 「 $7 \times (8 - 1) = 49$ 」となる。  
重要度は高いが、実現度が低いので、最大値である49となり、自校の課題と分析出来る。
- ・重要度が7, 実現度が7の場合 「 $7 \times (8 - 7) = 7$ 」となる。  
重要度が高く、実現度も高いので、自校の魅力(すでに達成できている)と分析出来る。



## (6) 「学校評価実施報告書」の充実

更なる学校評価の充実に向けて、各校で作成する学校評価実施報告書において、教育委員会で定める「学校教育の重点」に記載している「学校教育において重視する視点」を引き続き評価項目に設定した。全校で重点的に取り組むべき事項についての成果や課題の把握に努め、学校教育活動の充実を図るとともに、京都市としての取組の評価も行った。平成31年度分から、「学校・園の働き方改革」を保護者・地域の御理解のもとに推進していけるよう、業務改善・教職員の働き方改革についての項目を追加した。

## (7) 学校評価に関する学校運営協議会関係者向け研修会での周知

学校運営協議会の委員等を対象とした研修会(平成30年10月16日開催, 約260名参加)において、「開かれた学校」として、学校運営の中に地域の声を反映していくための「学校運営協議会」のあり方や位置づけ、「学校評価」における学校関係者評価について改めて説明を行った。地域とともにある学校として、保護者・地域の方々の意見を学校づくりに活かし、また、学校支援ボランティア等としての支援もいただきながら、より良い学びと育ちを支援する学校に向けて、継続的な協力と支援を依頼した。

#### 4 学校評価関係年表

年月	京都市	国
H10年9月		○中教審答申『今後の地方教育行政のあり方について』 「…各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること…」
H12	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評議員の設置を明記）	
H12年12月		○教育改革国民会議報告『教育を変える17の提案』 「…地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支えあう社会と学校を目指すべき…」 「…各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる…」 ○教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方について』 「…各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である…」 「…自己点検・自己評価の公表については、地域や学校の実情に応じて、各教育委員会等においてそのあり方を検討することが望ましい。また、公表に当たっては、序列化などの問題が生じないように、十分留意する必要がある…」
H13年4月	○学校評議員を全校・園に設置	
H13年8月	○京都市新世紀教育改革推進プロジェクト「学校評価部会」発足（～平成15年2月）	
H13年9月	○京都市学校評価実践研究協力校7校を指定	
H14年3月		○小・中学校設置基準 （自己評価の実施と結果の公表が努力義務化。保護者等に対する情報提供を積極的に行うよう規定）
H14年4月	○京都市では学校評価を全校種40校で実施	
H14年11月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」で国が御所南小を指定。同事業の一環として、京都市が独自に高倉小を指定	
年月	京都市	国
H15年3月	○地域教育専門主事室「今求められる学校づくりのために」（実践事例集・ガイドライン）発行	
H15年4月	○学校評価を全校・園で実施	
H15年9月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」の一環として、京都市が独自に京都御池中を指定。すでに指定を受けている御所南小・高倉小と共に実践研究を進める	
H16年3月	○評価結果を全校・園で公表	
H16年6月		○地方教育行政の組織及び運営に関する法律一部改正（学校運営協議会が設置できるようになる）
H16年11月	○京都市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定 ○御所南小・高倉小・京都御池中に学校運営協議会を設置	
H17年5月	○学校運営協議会5校設置	
H17年6月		○閣議決定『経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005』（義務教育における外部評価の実施と結果の公表のためのガイドライン策定が掲げられる） ○中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』（大綱的な学校評価ガイドラインの策定が必要と提起）

H17年10月		○中教審答申『義務教育の構造改革』 「…教育の結果の検証を国の責任で行う。具体的施策として全国学力調査と学校評価システムをあげた… 「教育の質的向上に寄与する学校評価」という新たな捉え方」
H18年3月	○学校運営協議会17校設置	○文部科学大臣決定『義務教育諸学校における学校評価ガイドライン』（京都市などの事例を基に国の学校評価ガイドライン発表）
H18	○児童生徒によるアンケート評価を全校実施	
H18年12月	○学校運営協議会に関する専門委員会内に学校評価専門部会（平成19年に学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会に改組）を設置	○「規制改革・民間開放推進に関する第3次答申」（学校教育制度の評価確立が求められる） ○教育基本法改正
H19年1月		○教育再生会議第1次報告『社会総がかりで教育再生を』（保護者等による実効ある外部評価の導入とその結果の公表について提言）
H19年3月	○京都市教育委員会「学校評価実践協力校の実践報告集」発行 ○学校運営協議会60校設置	○初等中等教育局長通知 「…学校評価制度等に係る運用上の工夫等について」（個人情報に配慮した上でホームページ等で評価結果を公表するよう促している） ○中教審答申『教育基本法の改正を受けて緊急に必要とされる教育制度の改正について』 「…情報提供に関する学校の責務の明確化は、公の性質を有する学校が、自らの説明責任を果たすためにも重要…」 ○文部科学省通知 「…個人情報に配慮した上で、評価結果をホームページ等で公表することを推進する…」
H19	○評価結果のHP公表の徹底	
H19年4月	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評価を規則にも明記） ○学校評価ガイドラインの改訂	
H19年6月	○「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」制定（学校教育活動についても条例の対象とした。全国初）	○学校教育法一部改正
H19年12月	○京都市「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」第1回開催	○学校教育法施行規則一部改正 （学校評価を生かした学校改善及び教育水準の向上、保護者・地域住民等への教育活動や学校運営に関する情報の積極的な公開の規定を盛り込む）
年月	京都市	国
H20年1月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 （19年6月の法改正を受けての改訂）
H21年3月	○学校運営協議会142校設置	
H21年6月	○京都市学校評価ガイドライン【第3版】策定	
H22年3月	○学校運営協議会163校設置	
H22年7月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 （第三者評価の在り方に関する記述の充実）
H23年3月	○学校運営協議会171校設置	
H23年11月		○文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン』改訂 （第三者評価の在り方に関する記述の充実）
H24年3月	○学校運営協議会184校設置 （総合支援学校全校設置）	
H25年3月	○学校運営協議会192校設置	
H26年3月	○学校運営協議会210校設置	
H26年4月	○文部科学省委託事業「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」受託（～27年度）	
H27年3月	○学校運営協議会229校設置 （小学校全校設置）	○文部科学省「コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議」報告書公表 （コミュニティ・スクールの拡大・充実のための推進方策や今後の学校運営協議会制度等の在り方等につい

		て提言)
H27年12月		○中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」 (全ての公立学校がコミュニティ・スクールを目指すべきであり、教育委員会は積極的にコミュニティ・スクールの推進に努めていくよう制度的位置付けを検討すべきである)
H28年3月	○学校運営協議会 233 校設置	○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (平成28年4月の義務教育学校並びに小中一貫型小学校及び小中一貫型中学校制度化を踏まえ、小中一貫教育を実施する学校における学校評価の留意点を反映)
H28年4月	○文部科学省委託事業「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業(小中一貫教育等に対応した学校評価の取組研究)」受託	
H29年3月	○学校運営協議会 239 校設置	○文部科学省「いじめの防止等のための基本的な方針」改定(学校評価において、いじめの有無や多寡のみではなく、いじめが発生した際の迅速かつ適正な情報共有や組織的な対応が評価される旨の教職員周知の徹底を明文化)
H29年4月		○地方教育行政の組織及び運営に関する法律一部改正 (教育委員会に対する学校運営協議会の設置の努力義務化, 学校運営への支援について協議事項に位置付け)
H30年3月	○学校運営協議会 241 校設置	
H31年3月	○京都府内の高校で初めて塔南高等学校に学校運営協議会を設置 ○学校運営協議会 245 校設置 (幼稚園全園設置) (小・中合同 34 中学校区で設置)	

## Ⅱ 学校での取組事例

## <概要>

平成30年度に、検証委員会で訪問した義務教育学校及び七条中学校ブロックから、3校（開晴小中学校、七条第三小学校、七条中学校）の取組事例を掲載する。

### （1）義務教育学校

- ・本市では平成30年4月に、要件を満たす小中一貫校6校を義務教育学校へ移行。
- ・修業年限9年（前期課程6年と後期課程3年に区分）
- ・施設一体型、施設併用型がある。

#### ○開晴小中学校 . . . 19 ページ

- ・愛称：東山開晴館
- ・平成23年4月に施設一体型の小中一貫校として開校、平成30年4月から義務教育学校へ移行している
- ・児童・生徒数 817人（平成30年5月1日現在）

### （2）七条中学校ブロック

- ・1中学校及び3小学校（七条小学校、七条第三小学校、西大路小学校）
- ・「七条中エリア」という呼称で小中一貫での取組を進めている。

#### ○七条第三小学校 . . . 39 ページ

- ・昭和12年1月に七条第三尋常小学校として開校。
- ・児童数 427人（平成30年5月1日現在）

#### ○七条中学校 . . . 57 ページ

- ・昭和32年4月に洛南中学校から独立して開校。
- ・生徒数 434人（平成30年5月1日現在）



## 学校評価のねらい

学校の自主性・自立性の確立のもと、学校教育目標の具現化を目指し、特色ある学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。そのために、学校教育活動の自己点検、自己評価を行い、評価結果を保護者、地域に公表し、学校の説明責任を果たすとともに、学校関係者による評価を基に学校改善を図る。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中間評価	4	教育指導計画書の作成 本年度の評価計画立案		教育計画・教育活動の周知 参観・懇談、家庭訪問、
	5		理事会開催（5月10日） 昨年度の課題整理 経営方針の確認 第1回総会開催（5月24日） 課題の確認	年間評価計画の公表 学校だより・ホームページ
	6	評価項目の検討	経営方針の承認 年間計画の策定 研修会の企画立案 報告会に向けての協議 重点評価項目の検討	
	7	前期自己評価の実施 (児童生徒、保護者、教職員) アンケートの集約と分析	各部の取組	
	8			
	9		協議会主催研修会	
	10		理事会開催（10月中旬） 学校自己評価の確認 評価分析の共有 改善点の検討	
	11		各部の取組	前期自己評価結果の公表 ホームページ 前期関係者評価の公表 ホームページ・学校だより
	12	後期自己評価の実施 (児童生徒、保護者、教職員)		
	1	アンケートの集約と分析		
年間評価	2		理事会開催（2月中旬） 学校自己評価の確認 評価結果の共有 研究7年間の総括 報告書の作成	
	3	次年度の課題と方針の共有	第2回総会・顧問会開催 8年目の総括 来年度への構想 学校組織について	後期自己評価結果の公表 後期関係者評価の公表 ホームページ・学校だより

## 平成30年度 学校教育目標

### ■ 最高教育理念

「澄みゆく心」「かがやく志」の育成

### ■ 校 訓

克己 進取 礼節

### ■ 教育目的

これからの社会をたくましく生き抜く力の育成

### ■ めざす子ども像〔卒業時点〕

- 挑戦的に学ぶ姿の実現
- 卑怯を許さない姿の実現
- つながりを喜びとする姿の実現

### ■ 平成30年度 教育目標

- 課題意識を持ち、学び合い、刺激し合う姿
  - お互いを尊重して折り合いをつけながら思考、表現する姿
  - よりよい生活の実現に向け、自ら正しい判断をしようとする姿
- 以上3つの姿の実現

### ■ めざす教職員像

- 「めざす子ども像」の実現に向けて、自らの立場における明確なビジョンを持ち、主体的に学校経営に参画する教職員
- 愛情と慈しみの心で子どもたちに接し、社会に貢献できる生徒の育成という使命を自覚する教職員

### ■ めざす学校像

- 小中一貫校の特性を最大限に活用し、主体的にカリキュラムマネジメントに取り組む学校
- これからの社会を支える有為な人材を輩出できる学校

# 平成30年度 学校経営方針

## 1 基本方針

開校4年目に見直した教育課程により、スリーステージ制などの小中一貫校東山開晴館としての基本型が整うと共に、教育理念の共有化が進んできた。それから4年、義務教育学校への移行を機として、改革の成果と課題を見取り、小中一貫校の特性が最大限に発揮されるよう、教育課程の見直しを行う。

また、教職員の年齢構成が二極化する中で、各自が自らの力量や立場、強みや弱みを認識し、教職員一人一人が主体的にカリキュラムマネジメントに取り組むことで、本校の課題解決に向かう。

## 2 重点項目

- 1 「目指す子ども像」「目指す教職員像」「目指す学校像」を達成するために、報告・連絡・相談を密にする中で教職員の意識改革を図るとともに、ミドルリーダーを中心とした創造的、組織的な学校運営を推進する。
- 2 各種調査の結果や質問紙・アンケート・学校評価などの分析により生徒の変容を逐次確認、共有し、本校が抱える教育課題を明確にする。その上で、「学びのプロセスを意識した授業づくり」に資するよう、研究主任を中心として組織的に取り組む。また、生徒の状況に鑑み、適切な家庭学習課題を提供する。
- 3 9年間の一貫した学びを実現するために、学びの連続を図るカリキュラムの構築に向けて、単元の系統を意識した授業づくりについて研究を進める。
- 4 より良い集団の形成を図る視点から、あらゆる教育場面において「思考⇒判断⇒行動」のプロセスを踏まえた活動を提供することにより、主体的かつ協働的な自治集団づくりを行う。
- 5 自他を尊重し、主体的に判断するとともに、夢や目標に向かって、自分の道を切り拓いていけるよう、自己指導力を高める。
- 6 日々の観察や情報収集を通して子どもたちの困りを的確に把握し、積極的な支援を図るとともに、自主的な活動や自己実現を保障するために、児童生徒会活動の活性化を進める。
- 7 学校評価計画に基づいて生徒の実態や意識・保護者の願いを把握し、評価結果を元に学校運営の検証と改善を行う。

# 開晴小中学校の学校評価について

## 1 評価のねらい

学校の自主性・自立性の確立のもと、学校教育目標の具現化を目指し、特色ある学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。そのために、学校教育活動の自己点検、自己評価を行い、評価結果を保護者、地域に公表し、学校の説明責任を果たすとともに、学校関係者による評価を基に学校改善を図る。

## 2 重点評価項目

### (1) 「確かな学力」の育成に向けて

主体的・社会的な学びを大切にし、「自己指導力」を育てる。

～自分の学びと仲間との学びをつなげる活動を通して～

### (2) 「豊かな心」の育成に向けて

社会性や規範意識の育成

### (3) 「健やかな体」の育成に向けて

健やかでたくましい心や体を育む活動作り

～基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成～

### (4) 学校独自の取組

保幼小中一貫教育の推進

地域連携の推進

## 3 評価手法

- ・保護者、児童及び教職員に対して項目内容をそろえてアンケート調査を実施した。保護者については、2種類の調査（「保護者から見た子どもの姿」「保護者自身の子どもへの働きかけ」）を実施し、家庭教育の状況についての把握も行っている。学校と保護者・地域との連携にかかわる質問も、保護者には追加している。
- ・アンケート調査の結果については、経年の変化を勘案している。また、児童生徒調査は、全体の結果集約とともに、I st ステージ（1～4年）とII nd・III rd ステージ（5～9年）に分けて実現度を示している。
- ・全国学力・学習状況調査や学習支援プログラムの結果、質問紙の回答状況の他、「生活アンケート」等の調査結果も評価の材料としている。
- ・分析結果を自己評価として学校運営協議会理事会に諮り、課題の克服に資するご意見をいただいている。

## 4 アンケート結果等による分析

### (1) 授業改善と家庭学習の定着について

学習に関わる7つの質問項目は、どれも実現度が高く、特に「目当てを持って授業を受けている」「わかるまで勉強している」については、三者ともに昨年度の数値を上回っている。主体的に学ぶための手立てとして昨年度から進めてきた授業改善が効果をあげていると考えられる。共通した学びのスタイル・単元の系統やつきたい力の系統を意識した授業づくり等、授業設計については定着してきており、各種学力調査の結果を見て

も、昨年度より伸びていることが見とれる。しかしながら、二極化の傾向は否めず、授業改善が学力に課題のある層の減少に繋がられていないことが課題である。また、児童生徒の相互交流による学習の深化や振り返りから次の学習へのステップアップという意味では、まだまだ授業改善が求められる。

「自分で計画をたてて家庭学習を行っている」という設問については、4期連続で三者の評価が上昇している唯一の項目である。「次の日の学習の用意をしている」という設問と合わせて考えると、おたより帳・スケジュール帳の効果が少しずつ表れていることが見とれる。ただ、学年により取組にばらつきがみられるため、家庭学習の習慣化までには至っていない。アンケート結果を学年に返し、取組の進捗を図る必要がある。

同様に、読書の習慣も学年が進行するに連れて評価が下がっている。全国調査質問紙も同じような結果が見られ、保護者の働きかけが最も低い項目となっている。子どもたちが読書に向かう手だてが求められるとともに、家庭への働きかけも必要と考える。

## **(2) 規範意識・生活習慣の定着について**

規範意識等にかかわる8つの質問項目は、それぞれに認識が異なり、起因するところを精査する必要がある。「人の嫌がることをしたり、悪口を言ったりしたりしていない」とする児童生徒の割合は、過去の結果に比べて微増という状態にあるが、保護者・教職員も実現度は高く、適切な人間関係の中で落ち着いた学校生活を送れていることがわかる。「自分の良いところと言える」とする児童生徒は、調査項目の中でもかなり低い位置にあり、保護者もそのような状況を認めてはいるものの、大人は適切な働きかけをしていると認識している。逆に「丁寧な言葉遣い」「進んで手伝いをする」という項目については、児童生徒の評価が高いにもかかわらず、保護者の評価は低く、働きかけも十分とは言えないようである。適切な人間関係の中で落ち着いた学校生活を送れているものの、不登校が高止まりにある状況に鑑みて、小中一貫の視点に立って、目指す子供像が実現できるよう働きかけを行う。

## **5 自己評価および学校関係者評価**

別紙「学校評価報告書」を参照

## **6 総括・次年度に向けた課題等**

開校8年を終える今、本校での生活が当たり前になり、他の小学校や中学校でのありようを子どもたちは知らない状況にある。したがって、子どもたちには「1つの学校」という意識が強いものの、教職員や保護者、地域の方にはかつての「文化」に囚われてしまうきらいがある。新年度から校時表を改め、小中籍の教員の交流を容易にすることになっている。また、9年間の学びをつなぐために、全校一斉朝読書や新たな縦割活動、おたより帳・スケジュール帳の活用を推進していく。子どもたちにより良い教育を提供するための試みではあるが、学校がひとりよがりになって展開していかないように、学校評価アンケートの項目として設定し、新しい取組の成果と課題を見取っていききたい。

## H30 年度前期評価アンケート結果から

### 【結果と考察】

☆保護者からの回答 7 1 3 児童生徒の回答 7 5 7 教職員の回答 5 6

#### 【保護者】（保護者から見た子どもの姿）

△3回のアンケートで、どの項目も大きな変化はない。

- ⑥家庭学習の習慣は 0.2P 高くなる。「子供が進んで家庭学習に取り組んでいる」
- ⑳運動の習慣は 0.3P 高くなる。「よく体を動かしている」
- ⑩思いやりの心は3回ともに 5.5 と評価が高い。「子どもが相手を思いやり仲良くする」
- ⑯ルールの遵守は3回ともに 5.6 と評価が高い。「学校のきまりやルールを守っている」
- ▲2 4 項目中 1 5 項目で 5.0（大体できている）より低い。また、9 項目が平成 2 9 年度後期評価よりも低い。
- ▲⑰整理整頓は3回ともに 3.9 と評価が低い。「使ったものを元の場所に片づける」

#### 【保護者】（保護者自身の子どもへ働きかけ）

△3回のアンケートで、どの項目も大きな変化はない。

- ▲⑤読書の習慣は3回ともに 3.4 と評価が低い。「家庭で読書の時間を設けている」
- ⑤は3回ともに 3.4 と評価が低いが、「子どもが興味のある本を読んでいる」4.7 と 1.3P も高い。
- ▲⑰「身の回りの整理整頓ができるように働きかけている」は 4.7 であるが、保護者から見た子どもの姿は、3.9 と 0.8P 低い。
- ⑮「登下校の安全を見守っている」は 4.2 と高くないが、「子どもが安全に注意して登校している」は 5.3 と 1.1P 高い。
- ▲2 0 項目中 8 項目で 5.0（大体できている）より低い。また 9 項目が平成 2 9 年度後期評価よりも低い。

#### 【保護者】（保護者から見た子どもの姿） > （保護者自身の子どもへ働きかけ）

- ④4.7>4.3 0.4 ポイント高い。子どもが積極的に発表等の学習活動に参加している。
  - ⑤4.7>3.4 1.3 ポイント高い。子どもが興味ある本を読んでいる。
  - ⑮5.3>4.2 1.1 ポイント高い。子どもが安全に注意して登校している。
- \*働きかけの評価より、こどもの姿の評価が高いことは、言わなくてもできているという捉え方ができる。子どもの主体性があり、よいことである。

#### 【保護者】（保護者から見た子どもの姿） < （保護者自身の子どもへ働きかけ）

- 0.3 ポイント以上 ③0.4 ポイント ⑬⑱0.5 ポイント ⑧0.6 ポイント ⑨0.7 ポイント
  - ⑪⑰0.8 ポイント
- \*逆に働きかけの評価のほうが特に高くなっている⑪物の大切さを伝えている⑰身の回りの整理整頓ができるように働きかけているのに、実際は⑪物を大切にする気持ちや態度がそだっていない、⑰使ったものを元の場所に片づけていないと保護者が子どもの姿を見て感じている残念な結果である。

\*働きかけ方の工夫で、子どもの姿もかわっていくのではないだろうか。

\*子どもと保護者のできている満足度の差が大きいのではないだろうか。

### 【教職員】

○20項目中10項目で前回より評価ポイントが上がっており、3項目でそれぞれ0.1Pだが下がっている。

○⑱は5.7と20項目の中では一番高い。「感謝して給食を食べようとする態度を育てている」

▲⑳は0.2P上がってはいるが、4.6と20項目の中では一番低い。「外遊びへ働きかけている」

### 【児童生徒】

◎18項目で、前回のポイントより0.1～0.4P上がっている。

○0.3P以上前回より上回っているもの①②④⑤⑦は確かな学力の5項目である。

▲⑤「自分からすすんで本を読んでいる」5.2（Ⅰ6.2 Ⅱ・Ⅲ4.5）であるが、6・9年の全国質問アンケートで10分以下の回答が50%を超え、全国平均より20%高い。学年が上がるにつれ読書習慣の意識が低い。語彙力が上がらない原因の1つと考えられる。

○⑨「自分のよいところと言える」は4.9と初回より0.3P上がっている。他の項目は5.0以上である。

◇19の項目でⅠステージの評価がⅡ・Ⅲステージの評価より高い。⑲残さず給食を食べているは6.3とステージの差がない。

\*給食については、多くの児童生徒が残さず食べているが、家庭での実践が保護者からみれば4.7と伴っていないようである。食育を推進する取組や保健教育プロジェクト（生活リズム調べ・朝食キャンペーン等）を活用し、保護者と協力して、家庭でも食べ物に感謝できるよう児童生徒へ働きかける。

### 【教職員】と【児童生徒】

△②教職員「わかりやすく教えようとしている」が0.1下がっているのに対して、②児童生徒「わかるまで勉強している」が0.3上がっている。

○⑨教職員「子どものよさを積極的に見つけ、認めてほめている」5.6。9年全国質問アンケートからも92.5%がよさを認めてくれると回答をしている。全国平均値82.2%を大きく上回っている。

\*このことから両者の関係性は比較的良好だと考えられる。1～3年・5年・9年では、「できていない」に回答した児童生徒が5名以下と少ない。学年別にみても違いがあり、保護者・教職員からの個々の働きかけによって、自分のよいところと言えるように自尊感情を高めていきたい。

### 【全体を見て】

◎すべてが5.0以上の項目は、⑦計画的な行動、⑩思いやりの心、⑯ルールの遵守である。

\*家庭学習の習慣化と学力向上につながる家庭学習課題の検討をもとに今年度取り組んでいる内容の検証を行う。

\*生き方の指針となる道徳教育や人権教育のについて更なる充実を図る。

\*日常的に社会の規範に照らした相互評価を行う。

\*児童生徒の実態や意識・保護者の願いを把握し、評価結果をもとに学校運営の検証と改善を行う。

30 前期	保護者（保護者から見た子どもの姿）	保護者（保護者自身の子どもへの働きかけ）	教職員	児童生徒全体	Iステージ	II・IIIステージ				
1	めあてをもって努力している	4.9	家庭では子どもの学習状況を把握するようにしている	4.8	学習課題が子どもたちに明確になる指導計画を組んでいる	5.2	めあてをもって授業を受けている	5.7	6.1	5.4
2	子どもがあきらめずに学習している	4.9	子どもが自分の力を伸ばせるように励ましている	5.0	一人一人が分かるまで分かりやすく教えようとしている	5.1	わかるまで勉強している	5.5	6.0	5.0
3	子どもがよい態度で学習している	4.6	子どもの話をしっかり聞いている	5.0	子どもたちに話を聞くことの大切さや聞き方について具体的に示して指導している	5.6	授業中、先生や友だちの話をよく聞いている	5.8	6.0	5.6
4	子どもが積極的に発表等の学習活動に参加している	4.7	授業中に、進んで発言できるように励ましている	4.3	グループ学習など学び合いの場を保障できている	5.0	授業中、自分から進んで発言している	5.0	5.6	4.4
5	子どもが興味のある本を読んでいる	4.7	家庭で読書の時間を設けている	3.4	進んで読書するような働きかけをしている	5.0	自分からすすんで本を読んでいる	5.2	6.2	4.5
6	子どもが進んで家庭学習に取り組んでいる	4.5	家庭学習ができるように働きかけ、環境を整えている	4.6	めあてをもつた家庭学習課題を明示し、学習できるように点検している	5.4	(家で宿題をしている:1・2年)自分で計画を立てて家庭学習を行っている	5.3	6.1	4.7
7	子どもが宿題忘れや忘れ物をしないようにしている	5.1	忘れ物がないように、子ども自身が点検する習慣をつけている	5.0	自分で見直しを持ち、行動できるように指導している	5.4	家で、次の日の学習の用意をしている	6.2	6.5	6.0
8	子どもが少し難しいことに挑戦しようとしている	4.4	子どもが最後まで取り組めるように励ましの声をかけている	5.0	何事にも挑戦しようとする態度が養えている	4.9	苦手なことでも、挑戦しようとしている	5.4	6.0	5.0
9	子どもは、自分のよいところを知っている	4.8	子どもががんばっている姿をほめている	5.5	子どものよさを積極的に見つけ、認めてほめている	5.6	自分のよいところが言える	4.9	5.3	4.5
10	子どもが相手を思いやり仲良くする	5.5	家庭でも互いを思いやるようにしている	5.2	人権を基盤とした人間関係を築こうとする心を育てている	5.4	人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない	5.7	5.9	5.4
11	物を大切にしている気持ちや態度が育っている	4.6	物の大切さを伝えている	5.4	次に使う人のことを考えようとする態度が養えている	5.0	みんなが使う物を大切にしている	6.2	6.5	6.1
12	子どもが場に合った言葉づかいをしている	4.8	ていねいな言葉づかいで話すように心がけている	4.6	場や相手に応じた言葉遣いをするように指導している	5.2	言葉づかいに気を付けている	5.6	5.9	5.3
13	子どもがしっかりとしたあいさつをする	4.9	家族は、自分からすすんであいさつをするようにしている	5.4	気持ちよく挨拶しようとする態度が養えている	5.0	自分からすすんであいさつをしている	5.7	5.9	5.5
14	子どもが進んで手伝いをしている	4.1	家庭での役割を決め、責任を果たせるようにしている	4.3	勤労意欲を持たせるよう努力している	5.1	すみずみまで、きれいにそうじをしている	5.8	6.0	5.5
15	子どもが安全に注意して登下校している	5.3	登下校の安全を見守っている	4.2	校外で安全に行動できるように指導している	5.4	ルールを守り安全に注意して登下校している	6.1	6.3	6.0
16	子どもが学校のきまりやルールを守っている	5.6	約束やきまりを守るように働きかけている	5.5	子どもに規範意識が育つようにルールの徹底指導をしている	5.5	学校のきまりを守っている	5.9	6.0	5.7
17	使ったものを元の場所に片づけている	3.9	身の回りの整理整頓ができるように働きかけている	4.7	身の回りの整理整頓ができるように指導している	5.3	机やロッカー、かばんの中をきちんと整理している	5.7	5.7	5.6
18	子どもは基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん等)が身に付いている	4.9	基本的習慣が身に付くように家族で取り組んでいる	5.0	基本的な生活習慣を意識できるように指導している	5.5	早寝・早起き・朝ごはんに気を付けて生活をしている	5.5	5.7	5.4
19	子どもが好き嫌いをせず感謝して食事をしている	4.7	好き嫌いをなく食べるように働きかけている	5.2	感謝して給食を食べようとする態度を育てている	5.7	残さず給食を食べている	6.3	6.3	6.3
20	子どもは外遊び・スポーツなどで、よく体を動かしている	5.2	外遊び・スポーツなどで体を動かすように働きかけている	5.1	外遊び・スポーツなどで体を動かすように働きかけている	4.6	外遊び・スポーツなどで、よく体を動かしている	5.7	6.1	5.4
21	学校に気軽に相談できる	5.1								
22	学校便りやホームページで学校の方針や様子が分かる	5.0								
23	地域やPTAの行事によく参加している	5.0								
24	学校は地域と連携しながら教育活動を行っている	5.1								

## 平成30年度前期学校評価アンケート

 ……前年度後期比 上昇の項目

 ……前年度後期比 下降の項目

【資料2】



	保護者 (保護者から見た子どもの姿)	H29 前期	H29 後期	H30 前期	保護者 (保護者自身の子どもへの働きかけ)	H29 前期	H29 後期	H30 前期
1	めあてをもって努力している	4.8	4.8	4.9	家庭では子どもの学習状況を把握するようにしている	4.8	4.7	4.8
2	子どもがあきらめずに学習している	4.9	4.9	4.9	子どもが自分の力を伸ばせるように励ましている	5	4.9	5
3	子どもがよい態度で学習している	4.6	4.7	4.6	子どもの話をしっかり聞いている	5	5	5
4	子どもが積極的に発表等の学習活動に参加している	4.9	4.8	4.7	授業中に、進んで発言できるように励ましている	4.4	4.3	4.3
5	子どもが興味のある本を読んでいる	4.7	4.7	4.7	家庭で読書の時間を設けている	3.4	3.4	3.4
6	子どもが進んで家庭学習に取り組んでいる	4.3	4.3	4.5	家庭学習ができるように働きかけ、環境を整えている	4.6	4.6	4.6
7	子どもが宿題忘れや忘れ物をしないようにしている	5.1	5.1	5.1	忘れ物がないように、子ども自身が点検する習慣をつけている	4.9	4.9	5
8	子どもが少し難しいことに挑戦しようとしている	4.4	4.5	4.4	子どもが最後まで取り組めるように励ましの声をかけている	5	5.1	5
9	子どもは、自分のよいところを知っている	4.7	4.9	4.8	子どもががんばっている姿をほめている	5.5	5.6	5.5
10	子どもが相手を思いやり仲良くする	5.5	5.5	5.5	家庭でも互いを思いやるようにしている	5.2	5.4	5.2
11	物を大切に作る気持ちや態度が育っている	4.6	4.7	4.6	物の大切さを伝えている	5.4	5.5	5.4
12	子どもが場に応じた言葉づかいをしている	4.9	5	4.8	ていねいな言葉づかいで話すように心がけている	4.6	4.8	4.6
13	子どもがしっかりとしたあいさつをする	4.9	5	4.9	家族は、自分からすすんであいさつをするようにしている	5.5	5.5	5.4
14	子どもが進んで手伝いをしている	4.2	4.2	4.1	家庭での役割を決め、責任を果たせるようにしている	4.3	4.4	4.3
15	子どもが安全に注意して登下校している	5.4	5.3	5.3	登下校の安全を見守っている	4.2	4.2	4.2
16	子どもが学校のきまりやルールを守っている	5.6	5.6	5.6	約束やきまりを守るように働きかけている	5.4	5.4	5.5
17	使ったものを元の場所に片づけている	3.8	3.9	3.9	身の回りの整理整頓ができるように働きかけている	4.7	4.8	4.7
18	子どもは基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん等)が身に付いている	4.8	4.8	4.9	基本的習慣が身に付くように家族で取り組んでいる	5	5	5
19	子どもが好き嫌いせず感謝して食事をしている	4.6	4.8	4.7	好き嫌いなく食べるように働きかけている	5.2	5.3	5.2
20	子どもは外遊び・スポーツなどで、よく体を動かしている	5	4.9	5.2	外遊び・スポーツなど体を動かすように働きかけている	5	4.8	5.1
21	学校に気軽に相談できる	4.9	4.9	5.1	平成30年度前期 学校評価経年変化 【資料3-1】			
22	学校便りやホームページで学校の方針や様子が分かる	5	4.9	5				
23	地域やPTAの行事によく参加している	4.8	4.8	5				
24	学校は地域と連携しながら教育活動を行っている	5.1	5.1	5.1				

	教職員	H29 前期	H29 後期	H30 前期	児童生徒全体	H29 前期	H29 後期	H30 前期	H30 I ステージ 前期	H30 II・ III ステージ 前期
1	学習課題が子どもたちに明確になる指導計画を組んでいる	5.2	5.1	5.2	めあてをもって授業を受けている	5.3	5.4	5.7	6.1	5.4
2	一人一人が分かるまで分かりやすく教えようとしている	5	5.2	5.1	わかるまで勉強している	5.4	5.2	5.5	6	5
3	子どもたちに話を聞くことの大切さや聞き方について具体的に示して指導している	5.5	5.6	5.6	授業中、先生や友だちの話をよく聞いている	5.5	5.6	5.8	6	5.6
4	グループ学習など学び合いの場を保障できている	5	5	5	授業中、自分から進んで発言している	4.6	4.6	5	5.6	4.4
5	進んで読書するような働きかけをしている	4.9	5	5	自分からすすんで本を読んでいる	5	4.9	5.2	6.2	4.5
6	めあてをもった家庭学習課題を明示し、学習できるように点検している	5.3	5	5.4	(家で宿題をしている:1・2年) 自分で計画を立てて家庭学習を行っている	5	5.2	5.3	6.1	4.7
7	自分で見通しを持ち、行動できるように指導している	5.4	5.4	5.4	家で、次の日の学習の用意をしている	5.9	5.9	6.2	6.5	6
8	何事にも挑戦しようとする態度が養えている	4.8	4.8	4.9	苦手なことでも、挑戦しようとしている	5.2	5.3	5.4	6	5
9	子どものよさを積極的に見つけ、認めてほめている	5.5	5.5	5.6	自分のよいところが言える	4.6	4.8	4.9	5.3	4.5
10	人権を基盤とした人間関係を築こうとする心情を育てている	5.5	5.5	5.4	人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない	5.5	5.5	5.7	5.9	5.4
11	次に使う人のことを考えようとする態度が養えている	4.8	5	5	みんなが使う物を大切にしている	6	6.1	6.2	6.5	6.1
12	場や相手に応じた言葉遣いをするように指導している	5.4	5.5	5.2	言葉づかいに気をつけている	5.4	5.5	5.6	5.9	5.3
13	気持ちよく挨拶をしようとする態度が養えている	4.7	4.8	5	自分からすすんであいさつをしている	5.6	5.6	5.7	5.9	5.5
14	勤労意欲を持たせるよう努力している	4.9	5.1	5.1	すみずみまで、きれいにそうじをしている	5.6	5.7	5.8	6	5.5
15	校外で安全に行動できるように指導している	5.1	5.1	5.4	ルールを守り安全に注意して登下校している	5.9	5.9	6.1	6.3	6
16	子どもに規範意識が育つようにルールの徹底指導をしている	5.4	5.3	5.5	学校のきまりを守っている	5.7	5.8	5.9	6	5.7
17	身の回りの整理整頓ができるように指導している	5	5.4	5.3	机やロッカー、かばんの中をきちんと整理している	5.7	5.7	5.7	5.7	5.6
18	基本的な生活習慣を意識できるように指導している	5.4	5.3	5.5	早寝・早起き・朝ごはんに気を付けて生活をしている	5.4	5.4	5.5	5.7	5.4
19	感謝して給食を食べようとする態度を育てている	5.4	5.5	5.7	残さず給食を食べている	6.2	6.4	6.3	6.3	6.3
20	外遊び・スポーツなどで体を動かすように働きかけている	4.5	4.4	4.6	外遊び・スポーツなどで、よく体を動かしている	5.5	5.5	5.7	6.1	5.4

## 平成30年度前期 学校評価経年変化

【資料3-2】

## H30 年度後期評価アンケート結果から

### 【結果と考察】

☆保護者からの回答 6 8 4 児童生徒の回答 7 5 8 教職員の回答 5 6

#### 【保護者】（保護者から見た子どもの姿）

○前期と比較して 24 項目中 14 項目でポイントが高くなり、3 項目で低くなった。

○前年度後期と比較して 24 項目中 10 項目でポイントが高くなり、3 項目で低くなった。

○⑩思いやりの心は 4 回ともに 5.5 と評価が高い。「子どもが相手を思いやり仲良くする」

○⑯ルールの遵守は 4 回ともに 5.6 と評価が高い。「学校のきまりやルールを守っている」

▲ 2 4 項目中 1 5 項目で 5.0（大体できている）より低い。

▲⑰整理整頓は 4 回ともに 3.9 と評価が低い。「使ったものを元の場所に片づける」

▲⑳運動の習慣は 0.3P 低くなる。「よく体を動かしている」

\*⑳「よく体を動かしている」前期より後期が下がる。アンケート時期（夏・冬）の違いや 9 年生の部活動引退も原因ではないだろうか。前年度後期とはかわらない。

#### 【保護者】（保護者自身の子どもへ働きかけ）

○前期と比較して 20 項目中 11 項目でポイントが高くなり、3 項目で低くなった。

○⑮「登下校の安全を見守っている」は 4.4 と高くないが、過去 3 回の結果より 0.2P 高くなった。

「子どもが安全に注意して登校している」は 5.4 と 1.0P 高い。

\*自然災害により、各家庭でも登下校路の安全を積極的に見守っていただいた結果だと考えられる。

▲⑤読書の習慣は 4 回ともに 3.4 と評価が低い。「家庭で読書の時間を設けている」

▲⑰「身の回りの整理整頓ができるように働きかけている」は 4.8 であるが、保護者から見た子どもの姿は、3.9 と 0.9P 低い。

▲20 項目中 10 項目で 5.0（大体できている）より低い。

\*「できていない」が一桁の人数の項目、「あまりできていない」が二桁の人数の項目は、5.0（大体できている）より高い。「できていない」→「あまりできていない」、「あまりできていない」→「大体できている」へ関心・実践を高めるには、どうすればよいか。

#### 【保護者】（保護者から見た子どもの姿） > （保護者自身の子どもへ働きかけ）

④4.9 > 4.3 0.6P 高い。子どもが積極的に発表等の学習活動に参加している。

⑤4.6 > 3.4 1.2P 高い。子どもが興味ある本を読んでいる。

⑯5.4 > 4.4 1.0P 高い。子どもが安全に注意して登校している。

\*働きかけの評価より、こどもの姿の評価が高いことは、言わなくてもできているという捉え方ができる。こどもの主体性があり、よいことである。

【保護者】（保護者から見た子どもの姿）＜（保護者自身の子どもへ働きかけ）

0.3P 以上・・・③0.3P ⑬0.5P ⑧⑱0.6P ⑨⑩0.7P ⑰0.9P

\*逆に働きかけの評価のほうが特に高くなっている⑩物の大切さを伝えている⑰身の回りの整理整頓ができるように働きかけているのに、実際は⑩物を大切にしている気持ちや態度が育っていない、⑰使ったものを元の場所に片づけていないと保護者が子どもの姿を見て感じている残念な結果である。

\*豊かな心の項目が7項目中6項目で前回より高くなっている。今後も、道徳の授業や人権学習など、子どもたちの心を育てる学習内容の充実に努めていきたい。

\*働きかけ方の工夫で、子どもの姿もかわっていくのではないだろうか。

【教職員】

▲20項目中9項目で前回より評価ポイントが下がっており、1項目で0.2P上がっている。

○③と⑨は5.6と20項目の中では一番高い。「子どもたちに話を聞くことの大切さや聞き方について具体的に示して指導している」「子どものよさを積極的に見つけ、認めてほめている」

▲⑳は4.6と20項目の中では一番低い。「外遊びへ働きかけている」

【児童生徒】

○20項目中18項目で5.0（大体できている）より高い。

○⑱「残さず給食を食べている」は6.4（6.4・6.4）と全学年で高い評価である。

▲5.0未満の項目④「授業中、自分から進んで発言している」4.8、⑨「自分のよいところがいえる」4.9。

\*⑨「自分のよいところがいえる」について学年別「1年5.80」「2年5.16」「3年4.97」「4年4.28」「5年5.11」「6年4.98」「7年4.31」「8年4.67」「9年4.70」であった。

○13項目で前年度後期より上がり、1項目で下がっている。

○Ⅱ・Ⅲステージで8項目前期より上がり、3項目で下がっている。

▲10項目で、前回のポイントより0.1～0.2P下がっている。

▲Ⅰステージで3項目前期より上がり、14項目で下がっている。

◇18の項目でⅠステージの評価がⅡ・Ⅲステージの評価より高い。⑰机やロッカー、かばんの中をきちんと整理しているは5.6、⑱残さず給食を食べているは6.4とステージの差がない。

【全体を見て】

◎すべてが5.0以上の項目は、②学習への粘り、⑩思いやりの心、⑱ルールへの遵守である。

\*家庭学習の習慣化と学力向上につながる家庭学習課題の検討をもとに、内容の検証を行う。

○⑥家庭学習の習慣は、保護者、児童生徒でポイントが上がり、スケジュール帳等取組の成果が表れている。（詳細報告は研究主任から）

\*生き方の指針となる道徳教育や人権教育について更なる充実を図る。

\*児童生徒の実態や意識・保護者の願いを把握し、評価結果をもとに学校運営の検証と改善を行う。

	保護者(保護者から見た子どもの姿)	H29 前期	H29 後期	H30 前期	H30 後期	保護者(保護者自身の子 どもへの働きかけ)	H29 前期	H29 後期	H30 前期	H30 後期
1	めあてをもって努力している	4.8	4.8	4.9	4.9	家庭では子どもの学習状況を把握するようにしている	4.8	4.7	4.8	4.8
2	子どもがあきらめずに学習している	4.9	4.9	4.9	5.0	子どもが自分の力を伸ばせるように励ましている	5.0	4.9	5.0	5.1
3	子どもがよい態度で学習している	4.6	4.7	4.6	4.7	子どもの話をしっかり聞いている	5.0	5.0	5.0	5.0
4	子どもが積極的に発表等の学習活動に参加している	4.9	4.8	4.7	4.9	授業中に、進んで発言できるように励ましている	4.4	4.3	4.3	4.3
5	子どもが興味のある本を読んでいる	4.7	4.7	4.7	4.6	家庭で読書の時間を設けている	3.4	3.4	3.4	3.4
6	子どもが進んで家庭学習に取り組んでいる	4.3	4.3	4.5	4.5	家庭学習ができるように働きかけ、環境を整えている	4.6	4.6	4.6	4.7
7	子どもが宿題忘れや忘れ物をしないようにしている	5.1	5.1	5.1	5.2	忘れ物がないように、子ども自身が点検する習慣をつけている	4.9	4.9	5.0	4.9
8	子どもが少し難しいことに挑戦しようとしている	4.4	4.5	4.4	4.5	子どもが最後まで取り組めるように励ましの声をかけている	5.0	5.1	5.0	5.1
9	子どもは、自分のよいところを知っている	4.7	4.9	4.8	4.9	子どもががんばっている姿をほめている	5.5	5.6	5.5	5.6
10	子どもが相手を思いやり仲良くする	5.5	5.5	5.5	5.5	家庭でも互いを思いやるようにしている	5.2	5.4	5.2	5.3
11	物を大切に作る気持ちや態度が育っている	4.6	4.7	4.6	4.7	物の大切さを伝えている	5.4	5.5	5.4	5.4
12	子どもが場に応じた言葉づかいをしている	4.9	5.0	4.8	4.9	ていねいな言葉づかいで話すように心がけている	4.6	4.8	4.6	4.7
13	子どもがしっかりとあいさつをする	4.9	5.0	4.9	5.0	家族は、自分からすすんであいさつをするようにしている	5.5	5.5	5.4	5.5
14	子どもが進んで手伝いをしている	4.2	4.2	4.1	4.2	家庭での役割を決め、責任を果たせるようにしている	4.3	4.4	4.3	4.4
15	子どもが安全に注意して登下校している	5.4	5.3	5.3	5.4	登下校の安全を見守っている	4.2	4.2	4.2	4.4
16	子どもが学校のきまりやルールを守っている	5.6	5.6	5.6	5.6	約束やきまりを守るように働きかけている	5.4	5.4	5.5	5.4
17	使ったものを元の場所に片づけている	3.8	3.9	3.9	3.9	身の回りの整理整頓ができるように働きかけている	4.7	4.8	4.7	4.8
18	子どもは基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん等)が身に付いている	4.8	4.8	4.9	4.9	基本的習慣が身に付くように家族で取り組んでいる	5.0	5.0	5.0	5.0
19	子どもが好き嫌いせず感謝して食事をしている	4.6	4.8	4.7	4.7	好き嫌いなく食べるように働きかけている	5.2	5.3	5.2	5.3
20	子どもは外遊び・スポーツなどで、よく体を動かしている	5.0	4.9	5.2	4.9	外遊び・スポーツなど体を動かすように働きかけている	5.0	4.8	5.1	4.8
21	学校に気軽に相談できる	4.9	4.9	5.1	4.9					
22	学校便りやホームページで学校の方針や様子が分かる	5.0	4.9	5.0	5.1					
23	地域やPTAの行事によく参加している	4.8	4.8	5.0	5.1					
24	学校は地域と連携しながら教育活動を行っている	5.1	5.1	5.1	5.2					

平成30年度後期 学校評価経年変化

【資料3-1】

	教職員	H29 前期	H29 後期	H30 前期	H30 後期	児童生徒全体	H29 前期	H29 後期	H30 前期	H30 後期	H30 I ステージ 後期	H30 II・ III ステージ 後期
1	学習課題が子どもたちに明確になる指導計画を組んでいる	5.2	5.1	5.2	5.1	めあてをもって授業を受けている	5.3	5.4	5.7	5.7	5.9	5.5
2	一人一人が分かるまで分かりやすく教えようとしている	5.0	5.2	5.1	5.3	わかるまで勉強している	5.4	5.2	5.5	5.5	5.8	5.2
3	子どもたちに話を聞くことの大切さや聞き方について具体的に示して指導している	5.5	5.6	5.6	5.6	授業中、先生や友だちの話をよく聞いている	5.5	5.6	5.8	5.7	5.8	5.7
4	グループ学習など学び合いの場を保障できている	5.0	5.0	5.0	5.0	授業中、自分から進んで発言している	4.6	4.6	5.0	4.8	5.4	4.4
5	進んで読書するような働きかけをしている	4.9	5.0	5.0	5.0	自分からすすんで本を読んでいる	5.0	4.9	5.2	5.2	6.1	4.4
6	めあてをもった家庭学習課題を明示し、学習できるように点検している	5.3	5.0	5.4	5.3	(家で宿題をしている:1・2年) 自分で計画を立てて家庭学習を行っている	5.0	5.2	5.3	5.4	6.2	4.8
7	自分で見通しを持ち、行動できるように指導している	5.4	5.4	5.4	5.2	家で、次の日の学習の用意をしている	5.9	5.9	6.2	6.1	6.3	5.9
8	何事にも挑戦しようとする態度が養えている	4.8	4.8	4.9	4.9	苦手なことでも、挑戦しようとしている	5.2	5.3	5.4	5.4	5.9	5.0
9	子どものよさを積極的に見つけ、認めてほめている	5.5	5.5	5.6	5.6	自分のよいところが言える	4.6	4.8	4.9	4.9	5.0	4.8
10	人権を基盤とした人間関係を築こうとする心情を育てている	5.5	5.5	5.4	5.4	人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない	5.5	5.5	5.7	5.5	5.6	5.5
11	次に使う人のことを考えようとする態度が養えている	4.8	5.0	5.0	5.0	みんなが使う物を大切にしている	6.0	6.1	6.2	6.2	6.5	6.1
12	場や相手に応じた言葉遣いをするように指導している	5.4	5.5	5.2	5.1	言葉づかいに気をつけている	5.4	5.5	5.6	5.5	5.6	5.4
13	気持ちよく挨拶をしようとする態度が養えている	4.7	4.8	5.0	4.7	自分からすすんであいさつをしている	5.6	5.6	5.7	5.6	5.8	5.5
14	勤労意欲を持たせるよう努力している	4.9	5.1	5.1	5.0	すみずみまで、きれいにそうじをしている	5.6	5.7	5.8	5.7	6.0	5.5
15	校外で安全に行動できるように指導している	5.1	5.1	5.4	5.2	ルールを守り安全に注意して登下校している	5.9	5.9	6.1	6.1	6.3	6.0
16	子どもに規範意識が育つようにルールの徹底指導をしている	5.4	5.3	5.5	5.5	学校のきまりを守っている	5.7	5.8	5.9	5.8	5.8	5.7
17	身の回りの整理整頓ができるように指導している	5.0	5.4	5.3	5.3	机やロッカー、かばんの中をきちんと整理している	5.7	5.7	5.7	5.6	5.6	5.6
18	基本的な生活習慣を意識できるように指導している	5.4	5.3	5.5	5.4	早寝・早起き・朝ごはんに気を付けて生活している	5.4	5.4	5.5	5.5	5.6	5.4
19	感謝して給食を食べようとする態度を育てている	5.4	5.5	5.7	5.5	残さず給食を食べている	6.2	6.4	6.3	6.4	6.4	6.4
20	外遊び・スポーツなどで体を動かすように働きかけている	4.5	4.4	4.6	4.6	外遊び・スポーツなどで、よく体を動かしている	5.5	5.5	5.7	5.6	6.2	5.1

## 平成30年度後期 学校評価経年変化

【資料3-2】



<b>教育目標</b>	
これからの社会をたくましく生き抜く力の育成	
年度末の最終評価	
自己評価	<p><b>教育目標の達成状況，次年度に向けた見直し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題意識を持ち，学び合い，刺激し合う姿 児童生徒アンケートでの「確かな学力」に関する項目の実現度はいずれも高く，特に「計画的な行動」については，保護者・教職員アンケートの結果も実現度5.0を超えており，主体的な学習を目指して授業改善をしてきたことが効果をあげていると考えられる。一方で，今年度始めたおたより・スケジュール帳で自己管理をする取組については，家庭学習の習慣化までには至っていない。アンケート結果を学年に返し，取組の進捗を図る必要がある。</li> <li>○ お互いを尊重して折り合いをつけながら思考，表現する姿 児童生徒アンケート「人の嫌がることをしたり，悪口を言ったりしたりしていない」については，児童生徒・保護者・教職員アンケートのいずれも実現度が高く，適切な人間関係の中で落ち着いた学校生活が送れていることがわかる。ただし，不登校の児童生徒の状況を鑑みて，小中一貫の視点に立って人権を尊重する集団づくりをさらに推進して参りたい。</li> <li>○ よりよい生活の実現に向け，自ら正しい判断をしようとする姿 規範意識に関するの質問項目については，児童生徒・保護者・教職員ともに少しずつ評価が高くなっているが，地域の方からも子どもたちの様子が変わったと声をかけていただくことが増えている。地域の一員としての自覚を高めるため，地域行事への積極的な参画を促したい。</li> <li>○ 教職員への「現在、あなたが最も強く自覚しているのは次のどの立場ですか」という問いに対しては，小中一貫校の教員との回答が多い一方，小学校教員と回答している者もあった。9年間の学びを繋ぐためにも教職員の意識改革を図る必要がある。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が地域行事の運営に携わる姿が増えてきた。部会と連携して活動の場を広げていきたい。</li> <li>・1年生が保育所・幼稚園へ出向く取組は，双方により刺激となっている。小中だけでなく，保育所・幼稚園との連携も進めてもらいたい。</li> <li>・義務教育学校として儀礼的行事の変更等が必要なことは一定理解している。児童生徒にとって意味のあるものにしていただきたい。</li> </ul>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月17日（水）	学校運営協議会
最終評価	2月25日（月）	学校運営協議会

（1）「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

<p><b>重点目標</b> 主体的・社会的な学びを大切にし，「自己指導力」を育てる。 ～自分の学びと仲間との学びをつなげる活動を通して～</p> <p>★これからの社会を生き抜く知恵と博識 自己指導力を育成するための，学びのプロセスを意識した授業作り（9年間の学びをつなぐことによる学力向上）</p>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間の学びの連続を図るカリキュラムの構築</li> <li>・単元の系統を意識した授業づくり</li> <li>・家庭学習の習慣化と主体的な学び・学力向上につながる家庭学習の検討</li> </ul> <p>1～6年おたより学習予定表・7～9年短期学習計画で時間管理能力の向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等での言語活動の充実とICT機器や学校図書館の利用</li> <li>・朝読書・スパイラルタイムの充実（朝読書のアウトプットや，系統だてたスパイラルタイムの提案）</li> <li>・学年の系統に応じた学習ルールの確立（「聞く」・「話し合う」・「発表する」）</li> <li>・学校運営協議会との連携</li> <li>・若手・中堅教員が学び合い，授業改善につなげるための校内研修</li> </ul>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期・後期学校評価での「計画的な家庭学習」実現度の変容</li> <li>・プレジョイントプログラム・ジョイントプログラム等の結果と学力に課題のある子どもの変容</li> <li>・全国学力・学習状況調査・児童生徒質問紙の分析結果</li> <li>・児童生徒の「聞く」・「話し合う」・「発表する」態度の変容</li> <li>・1～6年おたより学習予定表・7～9年短期学習計画スケジュール帳の取組内容</li> </ul>

中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○プレジョイントプログラム・ジョイントプログラム等の結果と学力に課題のある層の変容 各種学力テストの結果からは，学年や教科によって変動が見られるが，学力に課題のある層の割合は一定で減少が見られない。また，基礎的な知識の定着に課題がみられた。（数値略）</li> <li>○全国学力・学習状況調査・児童生徒質問紙の分析結果 ・放課後や週末の過ごし方について，家で勉強や読書をするよりも，テレビ・インターネット等をして</li> </ul>
--

	<p>いるとの回答が多かった。「宿題をする」と回答していても、計画をたてて自主的に学習する児童生徒が少なかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか？」という質問に「そう思う」と答えた生徒は36.2%であったが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた生徒は26.6%と3割近かった。</li> </ul> <p>○1～6年おたより学習予定表・7～9年短期学習計画スケジュール帳の内容</p> <p>1～6年生におたより帳、7～9年生にスケジュール帳を持たせて、自分の「したいこと」と「やるべきこと」を「見える化」して情報を活用し、生活の中で「計画的に『学習』を回す」感覚を実感できるよう取組を始めた。学校全体で取組を系統的にマネジメントし、PDCAサイクルにより見直しを行うこととした。(以下、「おたより・スケジュール帳」と表記)</p>
自己評価	<p><b>分析(成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約3割の児童生徒について、「聞く力」「聞いて折り合いをつけながら思考、表現する力」に課題があることがわかった。</li> <li>・学習確認プログラム等の結果から学力に課題のある層の変容を見とり学力向上の取組を検証しているが、成果につながっていない。</li> <li>・寝るまでの時間をスマホ・ゲーム・テレビに費やしていることが多いため、児童生徒が時間を管理する力の育成が課題である。</li> <li>・「おたより・スケジュール帳」に関するアンケートからは、情報収集はできているが、情報の活用には至っていないことがわかった。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの学びの場面で、自分の意見を発表し、人の考えを聞き、自分の考えを深めることができる授業改善</li> <li>・学年に応じた「聞く」「発表する」「話し合う」ための「学びのステップ」を作成し、表を各教室に大きく掲示し、児童生徒が自分の姿を客観視できるようにした。</li> <li>・「おたより、スケジュール帳」の取組の徹底と、児童生徒が情報収集力から情報活用力へとレベルアップできるよう指導の工夫をする。</li> </ul> <p><b>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おたより・スケジュール帳」の取組による自己管理能力の変容。</li> <li>・前期・後期学校評価アンケートの「計画的な家庭学習」実現度の変容</li> <li>・プレジョイントプログラム・ジョイントプログラム等の結果と学力に課題のある層の変容。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会自主学習支援部で、おたより学習予定表についての取組を共有した。放課後学び教室での支援において、宿題の内容がわかる、自主学習の内容の計画をサポートできるという意見が多かった。</li> <li>・家庭での読書時間を確保することが難しい現状があるのではないかと。</li> </ul>

## 最終評価

<p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <p>○「おたより・スケジュール帳」の取組による自己管理能力の変容</p> <p>7月と12月の2回、実践面と意識面を見とる内容の児童生徒アンケートを行った。データを分析・検証し、校内研修で報告。改善点と短期目標を設定した。</p> <p><b>【実践面】</b></p> <p>○「おたより・スケジュール帳を朝学活や終学活で机の上に出してきているか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～6年 「いつも」と「だいたい」をあわせて75～100% (アンケート2回目)</li> <li>・「あまり見ていない」40%の学年(1回目)⇒1%に減少(2回目)</li> <li>・7・8年 「いつも」と「まあまあ」をあわせて75～80% (1回目・2回目とも)</li> <li>・9年は実践不足が結果に反映し、1回目45%⇒2回目36%と減少。</li> </ul> <p><b>【意識面】</b></p> <p>○「昨年度より計画的に学習できるようになったか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2～6年 「そう思う」と「少しそう思う」をあわせて約90%、7・8年 約55% (1回目・2回目とも)</li> <li>・9年 1回目35%⇒2回目25%と減少</li> <li>・「昨年度より家庭学習の時間が増えたか」</li> <li>「とても」と「少し」をあわせて増えたと感じている児童生徒は、1～6年 85～95%、7・8年 55%、9年 25%と、「計画的に学習できる」と回答した割合と同じだった。</li> </ul> <p>○前期・後期学校評価の「計画的な家庭学習」実現度の変容</p> <p>「自分で計画をたてて家庭学習を行っている」という学校評価のアンケート項目の結果を分析し、学校運営協議会等で課題を共有した。昨年度後期には、Iステージ(1～4年)では学年が上がるごとに「よくできている」と「大体できている」をあわせた割合が減っていき、IIステージ(5～7年)では増えるが、IIIステージ(8・9年)では激減していた。今年度の「おたより・スケジュール帳」の取組により、このアンケート項目がどのように変容するのかを検証した。</p> <p>昨年度の実現度と比較すると、この項目は保護者、教職員、児童生徒、三者ともにすべて上昇している。とりわけ、児童生徒の実現度は3回連続で上昇している。学年により実現度に大きなばらつきはなかったが、学年が上がるごとにゆるやかに下降していることは課題である。</p> <p>○プレジョイントプログラム・ジョイントプログラム等の結果と学力に課題のある層の変容</p> <p>4年・5年・6年のどの学年も、総合的にみると昨年度より伸びているが、学力に課題のある層との2極化が進んでいるといえる。また、7年・8年・9年での結果も、総合的な結果は前回より伸びているが、分布がばらついた。(数値略)</p>
--



自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> ・「おたより・スケジュール帳」の児童生徒アンケートから自己管理能力の変容を検証した結果、取組により昨年度より計画的に学習でき、家庭学習の時間が増えたと感じている児童生徒が増えていることがわかった。ただし、情報収集の段階の生徒がまだ多い。 ・昨年度より学力に課題のある層の変容を学力向上の検証材料とし、授業づくり等の研究を進めてきた。授業設計についてはどの教員にも定着しているが、成果につながっていない。さらに詳細に分析し、取組を深めていきたい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> ・学期末の「おたより・スケジュール帳」児童生徒アンケートを記名制にして、学力との相関関係を調べる。活用前後で、児童生徒の学力がどう変容するのか調べる。 ・教育課程内で学び直しの時間を設定し、すべての子どもの基礎学力を保障する。 ・校内授業研修等では、つきたい力についてすべての子どもに対して検証し、指導技術を研究する。
	<b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b> ・本校の授業研修や研究・検証について、すべての子どもにつきたい力が育成されるような学習活動となるよう改善したいと考えている。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> 学校運営協議会理事会で、おたより学習予定表についての取組を共有し、放課後学び教室でスマホ・ゲーム等、家で時間をどう使うのか、自己管理能力の育成について支援する考えである。また、家庭学習の量については改善の余地がある。

## （２）「豊かな心」の育成に向けて

<b>重点目標</b> 社会性や規範意識の育成
<b>具体的な取組</b> 1 学級活動や児童会生徒会活動・行事の活性化 2 特別活動・学校行事における言語活動の充実 3 教科化に向けた道徳教育の充実 4 人権教育の充実 5 キャリア教育の視点からの取組の充実
<b>（取組結果を検証する）各種指標</b> 1 主体的・協同的な自治活動 2 主体的で目的が明確な体験活動 3 日々の道徳の授業（ワークシートなどからによる見取り） 4 毎月実施する人権教育での振り返り 5 ポートフォリオの活用 日常的に社会の規範に照らした相互評価を通して見取る。

### 中間評価

<b>各種指標結果</b> 1 各ステージで集会を設けて話し合う活動ができた。 2 ステージ集会などでは、自分たちの言葉で思いを伝えることができた。 3 道徳ノートを活用して授業を進められている。休日参観では、道徳の授業を公開した。 4 振り返るところまではなかなかできていないのが現状である。 5 年度初めに記入し、家庭訪問時に保護者と内容の共有をした。	
自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> 探究交流会に向けて、各ステージで事前にプレ発表会を開くなどして、積極的に異学年で交流する機会があった。人権学習においては、来年度に向けて内容を見直していく必要性を感じた。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> 来年度に向けて、内容の見直しの機会が必要だと感じた。
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> 1 主体的・協同的な自治活動 2 主体的で目的が明確な体験活動 3 日々の道徳の授業（ワークシートなどからによる見取り） 4 毎月実施する人権教育での振り返り 5 ポートフォリオの活用 日常的に社会の規範に照らした相互評価を通して見取る。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> ・前期学校評価アンケート（豊かな心）からは、三者（保護者・教職員・児童生徒）ともに5.0以上「大体できている」の項目として「思いやりの心」が高かった。生き方の指針となる道徳教育や人権教育について更なる充実を図っていく。 ・児童生徒の自己評価が20項目中18項目で前年度後期より高くなっている。保護者から見た子どもの評価との差は大きいですが、自己評価が高いことは悪いことではなく、さらに保護者・教職員からの個々の働きかけにより児童生徒の自己有用感や自尊感情を高めていきたい。

最終評価

	<p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 各ステージで数を重ねて集会を実施してきたことで、以前に比べると話し合いが活発になった。</li> <li>2 ステージ集会などでは、お互いの話を聞き合う姿も見られた。</li> <li>3 道徳ノートを活用して授業を進められている。</li> <li>4 来年度に向けて、人権学習計画を見直した。</li> <li>5 年度末に記入し、保護者のコメントをもらい保管していく。</li> </ol>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b> ステージ集会での姿から見ると活発に話し合えるようになってきた。また、人権学習計画の見直しも進められた。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b> 今年度の成果としてあげたことを踏まえて、来年度の取組を充実させていきたい。</p> <p><b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b> 概ね重点目標は達成された。新たな人権学習計画に基づく取組の充実が課題である。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b> 児童生徒の自主的主体的な活動は、より活発化しつつあり、小中一貫校の利点を活かしたステージ集会などの活動は定着していると思われる。また、道徳教育では、教科化にむけての研究が進められ、とくに評価方法の分野での充実が見られた。さらに人権教育では、現状の人権課題に合わせて年間学習計画が見直され、次年度の実施を控えている。</p>

(3)「健やかな体」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b> 心身の健康とたくましく生きるための体力 健やかでたくましい心や体を育む活動作り ～基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成～</p>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健教育の充実 保健教育プロジェクト・体力向上プロジェクト・委員会活動・保健委員会</li> <li>2. 安全教育・防災教育の充実 避難訓練・安全管理と危機察知能力の向上・交通モラル・マナーの向上</li> <li>3. 食教育の充実 食育の推進・給食週間の促進・食の学習・家庭科との連携・PTAとの連携（朝食メニュー応募等）</li> </ol>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズム調べと朝食キャンペーンの実施と分析</li> <li>・性についての正しい理解・歯科保健の充実</li> <li>・業間マラソン・マラソン大会などの企画・運営</li> </ul> </li> <li>2 安全教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の充実と避難経路の徹底</li> <li>・校内安全意識の強化</li> <li>・自転車教室・安全ノートの活用</li> </ul> </li> <li>3 食教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物を大切に、残さず食べきる活動</li> <li>・食の学習・家庭科との連携</li> </ul> </li> </ol>

中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活リズム調べを集計している途中。今後分析予定。分析の結果は担任に報告し、個人懇談会で保護者と連携し、対策を模索していく予定。</li> <li>2 避難訓練は年間計画通り実施できている。自転車安全教室も実施できた。</li> <li>3 給食委員会を中心にペロリ賞やダブルペロリ賞の取組を進めている。</li> </ol>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度の夏季研修で性に関する研修を教職員向けに行い、各学年で指導案の検討を行った。系統的に内容を見直すことができた。今後、見直した所を変更できるようにしていきたい。</li> <li>2 定期的に避難訓練を行っている。今年度は教職員の研修で、さすまたを使った研修も行うことができた。登下校の安全について、集団登校の徹底などを行っていく必要がある。</li> <li>3. 給食委員会と連携して、給食指導を行っている。各学級で効率的にしっかり取り組んでいる。食の学習については年間計画を元に取組を進めていく。</li> </ol> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b> ・性に関する指導について、来年度に学年や発達段階に応じた学習を吟味していく必要がある。</p> <p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> ・性教育委員会を実施し、各学年の系統性を考えていく。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期学校評価の結果からは、給食については多くの児童生徒が残さず食べているが、家庭での実践が伴っていないのが現状である。食育を推進する取組や保健教育プロジェクト（生活リズム調べ・朝食キャンペーン等）を活用し、家庭でも食べ物に感謝できるように働きかける。</li> <li>・外遊びができる安全な場所、自然に親しむことができる安全な場所が少ない。遊びや自然に親しむことから学ぶことも多くある。アンケート結果からは、児童生徒の安全に対する行動やルールや</li> </ul>

価	きまりを守る意識は高い。
最終評価	
中間評価時に設定した各種指標結果	
<ol style="list-style-type: none"> <li>生活リズム調べの結果で気になる児童生徒には担任に報告した。それを受けて担任が保護者と連携し、対策について話をした。</li> <li>避難訓練は年間計画通り実施できている。自転車安全教室も実施できた。</li> <li>給食委員会を中心にペロリ賞やダブルペロリ賞の取組を進めている。給食週間の取組で食べ物に関するクイズなどをして取り組めた。</li> </ol>	
自己評価	分析(成果と課題)
	<ol style="list-style-type: none"> <li>今年度の夏季研修で性に関する研修を教職員向けに行い、各学年で指導案の検討を行った。系統的に内容を見直すことができた。実施した指導案を各学年で回収することができた。</li> <li>定期的に避難訓練を行っている。今年度は教職員の研修で、さすまたを使った研修も行うことができた。実際の避難においても、大きな混乱はなかった。登下校の安全について、集団登校の徹底などを行っていく必要がある。</li> <li>給食委員会と連携して、給食指導を行っている。年間を通して残菜が減った。食の学習については年間計画を元に取り組めた学年とそうでない学年があったため、来年度は年度初めにしっかりと計画を立てて進めていきたい。</li> </ol>
	分析を踏まえた取組の改善
性に関する指導について、来年度に学年や発達段階に応じた学習を吟味していく必要がある。	
重点目標の達成状況、次年度の課題	
<ol style="list-style-type: none"> <li>性に関する指導は系統性を持って、学年で学習する内容をある程度固めていく。</li> <li>来年度も引き続き避難訓練をしっかりと行っていく。</li> <li>給食指導と食育と両方充実させていく。</li> </ol>	
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>登下校の危険・注意個所を把握し、学校と安全見守り隊が情報を共有する。違反駐車や路上でのスケートボード遊び等内容によっては警察と連携し、パトロールや取締の強化を行う。</li> <li>青パト巡回。教職員も年に数回乗車し、児童生徒に青パトの存在も知ってもらおう。</li> <li>後期学校評価から「残さず給食を食べている」の項目の児童生徒評価は 6.4P と高く、ステージの差がないことも評価できる。</li> </ul>

#### (4) 学校独自の取組

重点目標		
ファースト・ステージ(1～4年生)	セカンド・ステージ(5～7年生)	サード・ステージ(8・9年生)
<ul style="list-style-type: none"> <li>やればできるという自信あふれる子ども</li> <li>いけないことを「いけない!」といえる子ども</li> <li>自分大好き、友だち大好き、なかよく遊ぶ子ども</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わからないことを克服しようと努力する子ども</li> <li>下級生を思いやり見守る子ども</li> <li>協力してやり遂げる子ども</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挑戦的に学ぶ姿の実現</li> <li>卑怯を許さない姿の実現</li> <li>つながりを喜びとする姿の実現</li> </ul>
具体的な取組		
<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員がすべての研修会に参加し、共通理解を図って研究主題に迫れるようにする。</li> <li>教科部会及び分掌部会を小中学校籍の教職員を交えた構成にし、9年間の系統を見通して取り組む。</li> <li>地域の保育園幼稚園と教員の交流、園児・児童の交流学習、保護者も含む保幼小連携講座の開催などを行い、就学前からのつながりを大切にする。</li> <li>東山区役所で東山フォーラムを開催し、地域・保護者とともに地域の子供を育てる取組を行う。</li> </ul>		
(取組結果を検証する) 各種指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>小中教員の共同作業</li> <li>各ステージの行事</li> <li>保幼小中連携開催状況と講座の取組</li> <li>前期学校評価</li> <li>後期学校評価</li> <li>各種団体との取組</li> </ul>		

#### 中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>9年間の一貫した学びを実現するために、単元の系統を意識した授業づくりを行っている。</li> <li>1～9年生の家庭学習の系統を決めて取り組んでいる。</li> <li>今年度の東山探究の縦割り交流会(グループに分かれて)をステージごとに行った。</li> <li>前期学校評価のアンケート結果では、保護者から見た子どもの姿で「地域やPTAの行事によく参加している」が前年度評価より0.2P高くなっている。</li> </ul>	
自己評価	分析(成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内授業研究・事前授業にも教科部会の教職員が中心に参観し、授業改善に努める。</li> <li>東山探究ステージ交流会で発表し、他者の意見を聞き自分の考えを深める。もう一度考えを再構築できるようにして、縦割り探究交流会で発表できるようにする。</li> <li>生徒会から朝の「ゾーン30」の取組提案がされ、警察と連携した取組にしている。</li> </ul>
分析を踏まえた取組の改善	
<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後等を利用した授業の準備・部会などの話し合いを、時間を決め効率よく行う。</li> </ul>	

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事・取組からのふりかえり</li> <li>・後期学校評価</li> <li>・各種団体からの取組依頼と生徒会・文化部活動等による参加状況</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年行っている2～9年全体での交流会を行う予定であり、最終評価の時に今年度の流れを検証する必要がある。</li> <li>・前期学校評価は夏休み前のアンケートであり、地域行事が盛んになるこれからの時期に、地域・区役所主催行事と学校が連携をし、積極的に参加を呼び掛けたい。</li> </ul>

### 最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から義務教育学校への移行にあわせ、入学式（1年）と卒業式（9年）の2つとする。</li> <li>・義務教育学校として、本校独自の児童生徒会活動を進める。12委員会から8委員会への見直し。</li> <li>・ステージ集会の充実（とくにファースト・ステージは、4年生が中心となり年間通して活躍できた）</li> <li>・体育大会では9年生の働きぶりが素晴らしかった。</li> <li>・就学前児と1年生児童の交流、就学前の保護者と在学児童の保護者とは給食試食会で交流を前年度に引き続き行った。</li> <li>・各地域行事の依頼に積極的に参加することができた。</li> </ul>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間の一貫した学びや授業改善等については「確かな学力」で分析済である。</li> <li>・年間通しての学校全体の行事とステージごとの行事の精選と学年での取組の整理が必要である。儀式行事については、来年度は年度当初から共通理解のもと進めていける。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究交流会にむけては、クラス・学年・ステージ交流会で発表方法を適宜工夫していく。</li> <li>・ステージ探究交流会の時期を検討。実施については賛否両論あるが、来年度も実施の方向で考えている。</li> </ul>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動が機能しているかの検証が必要である。</li> <li>・10周年記念行事に向けて、検討をすすめる。（児童生徒会の取組も含めて）</li> <li>・学校独自の課題は複雑多岐にわたっており、取組の状況は概ね適切であるが、着実な成果を獲得するまでにはまだ少し時間がかかるような現状である。</li> <li>・「児童と生徒が共に学ぶ学校」という特色から見ると、学校行事等での工夫はあるが、前期課程と後期課程の教員が相互に連携して、児童や生徒に対して学習指導を展開するという小中一貫教育校のメリットを発揮するための一層のカリキュラム・マネジメントや、アクティブ・ラーニングの視点に立った工夫が必要である。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校として、新たな門出を迎えたこの時期に、年度末の儀式的行事の在り方について、学校の考えにご理解いただいた。</li> <li>・不登校児童生徒の現状についての理解と保護者の子育てについての不安などを少しでも相談や支援できるように学校と協力していきたい。</li> <li>・学校運営協議会の各支援部から今年度の取組の振り返りと来年度の申し送りの共通理解を図った。</li> </ul>

## 学校評価のねらい

創意ある学校づくりに向けて、自校の課題と取組の成果を明らかにするとともに、外部評価を生かし、取組の検証と徹底を図る。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中間評価	4	教育指導計画作成		学校だより(教育方針発信) HPにて公表
	5	学校評価実施に向けた評価項目の検討		
	6	休日参観 児童・保護者アンケート	第1回開催 「学校教育目標・今年度取組 の説明」	
	7	自己評価実施 評価結果分析 今後の方針・取組修正の検討	第2回開催 「学校運営協議会による評価 実施」	
	8			
	9		第3回開催 「学校運営協議会(評価)」	学校だより・HPで結果と 今後の取組を公表
	10			
	11			
	12			
年間評価	1	児童・保護者アンケート 自己評価の実施	第4回開催 「学校運営協議会による評価 実施」	
	2			
	3	次年度の方針の共通理解	第5回開催 「次年度の方針説明」	学校だより・HPで結果と 今後の取組を公表

平成30年度



# 七三教育の基本構想

友だちと共に，人と共に，  
**「なりたい自分」**  
をえがき，めざし，かなえる

七条第三小学校は**キャリア教育**の視点に立った学校づくりを推進します。

学校教育目標  
なりたい自分 えがく めざす かなえる 共に

校是  
大胆に改革し，頑固に守る







校是

大胆に改革し、頑固に守る

学校教育目標

**なりたい自分 えがく めざす かなえる 共に**

3

**なりたい自分を「えがく」子は、学校生活のあらゆる場面で、すべてを自分につないでいく。**「学ぶすべてに意味がある。」「今、このときにむだなことなど一つもない。」という前向きな心が、自分を上手にコントロールし、自ら可能性を引き出していく。

**なりたい自分を「めざす」子は、目標に向かう道筋を考えている。**不安なときはコツコツ地道に、自信のあるときは大胆にチャレンジする。「1万回ダメでも1万1回目がある。」「何度でもやり直せる。」と、物事を決めつけず柔軟な発想で課題解決に向かう。

**なりたい自分を「かなえる」子は、さまざまなかたちの中から自分のモデルを見付けていく。**自分の外に見つけたときは、「あんなふうになりたい。」「あんなふうにしたい。」と意欲をもつ。自分の内に見つけたときは、「次はこうしたい。」「もっとこうしたい。」と志を立てる。成功を求めるときに、成長している自分に気付く。

**なりたい自分に、自分一人ではなれない。**ときには主役・リーダーとして、ときには脇役・メンバーとして、いや、その他大勢の場合もある。どんな場合でも、他者と協力し、折り合いを付けながら、自分の役割を積極的に果たすことで、社会の一員として自己実現できる。**なりたい自分は「共に」つながってつくるものである。**

わたしは、教職員一丸となって、保護者・地域と手を携えて、本校児童が未来の社会を支え、予測不可能な時代を生き抜く資質・能力を身に付けられる教育を行いたいと願い、この学校教育目標を掲げます。

平成30年4月1日

校長 中村 佳明

4

<補足>

この学校教育目標「なりたい自分 えがく・めざす・かなえる 共に」は、教職員自身にも当てはめてほしい。教育公務員を志した日のことを改めて思い返し、自身の職務を通して子どもにどんな資質・能力を身に付けさせられるのかを豊かにイメージして職責を果たす、そんな教職員集団でありたい。「～の子の育成」のような表現を省いた積極的な意味がそこにある。

学校教育目標は、統一の様式ですべての教室と児童がよく使用する特別教室等に常時掲示し、折に触れその意味を考えさせるようにする。

学校教育目標は、学校だより、学級だより、保健だより、給食だより等、学校が発行する広報誌には必ず掲載する。また、分掌提案、学習指導案にも明記するものとする。

5



学校経営方針

# キャリア教育の視点に立った 学校・授業づくりの推進

— 知識基盤社会をたくましく生き抜く基礎的・汎用的能力の育成 —

6




子どもの夢とやる気を育む  
「明日も行きたくなる学校」

- すべての教育活動で、**児童のキャリア発達**を促す。(日々が未来への「轍」)
- **投資の発想**と整理・後始末の徹底で、生き生きと明るい教育環境づくりをめざす。
- 児童の**主体性を育む**豊かな学びを実現する。(つながる授業)
- **人権尊重**を基盤とした豊かな人間関係を紡ぐ。(つながる友だち)
- **心を解き放てる**、豊かな子ども時代を提供する。(つながる遊び)
- 特別に支援のいる子どもを**集団につなぎ**、共に育てる。
- こちよい「**あいさつ**」と**言葉かけ**が行き交うようにする。

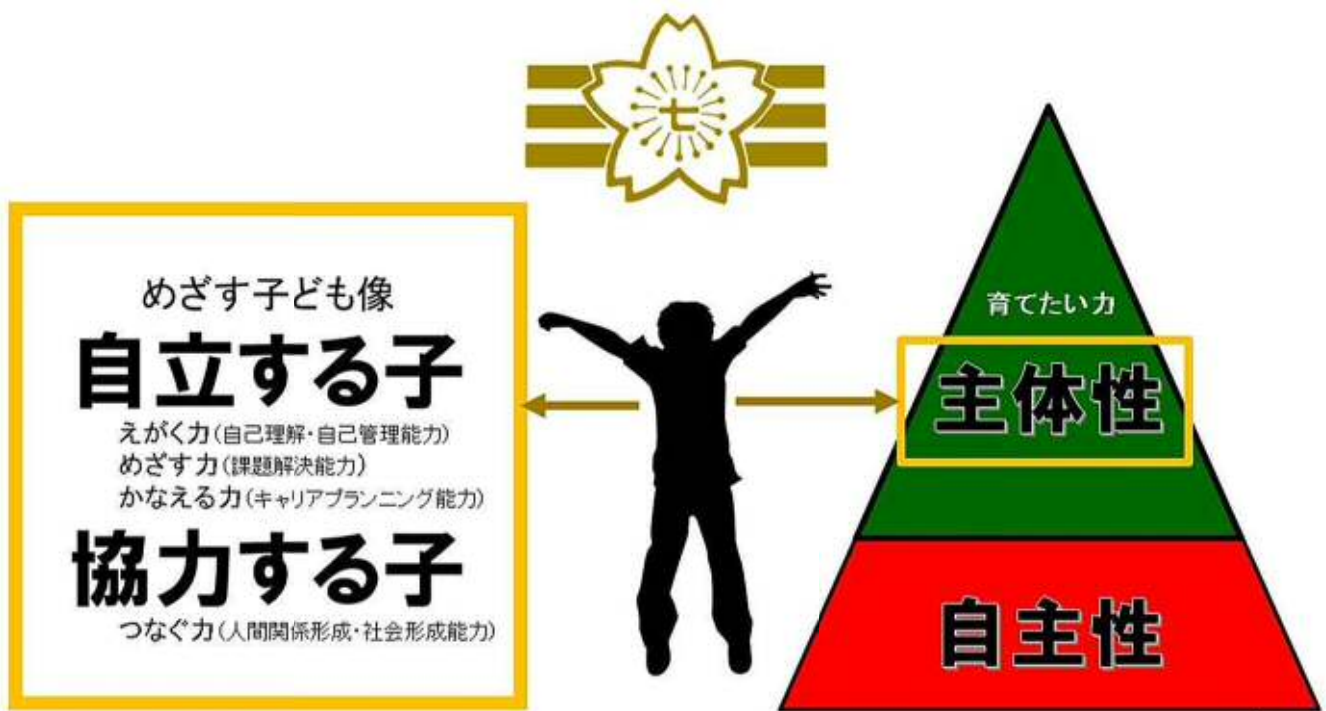
7

コンプライアンスとホスピタリティで  
「信頼を築く学校」

- 説明責任を果たしながら、大胆に取組を展開する。**変革を恐れない**。
  - 「**社会で許されないことは、学校でも許されない(ならぬことはならぬ)**」を自覚する子を育てる。
  - 信頼は、**スピード感と足**でかせぐ。  
課題を絶対に後回しにしない。  
(「今日の1時間は、明日以降の10時間」を教訓に)
- 事案における電話対応の基本

 かかってきた電話 **15分以内**  
かけた電話 **10分以内**  
※それ以上は、**原則家庭訪問**。
- 個々の家庭に適した多くの**情報を提供・発信**する。
  - **学校運営協議会・PTAと連携**し、学校・地域・家庭がつながりの意識をもって「社会に開かれた教育課程」を推進する。

8



9

七条中エリアの子

はなしをきこう  
 じかんをまもろう  
 よりよく  
 はんだんしよう

**主体性**

七条中エリア めざす子ども像

- 自他の生命と人権を大切にする子
- **社会性**を身に付け、他者と共によりよく生きようとする子

生徒指導上の徹底事項① 人権尊重のために

**判断基準を教える**

★ 誰に見られても恥ずかしくなく、コソコソする必要がない。

★ 胸を張って説明ができ、言い訳したり理由を後付けしたりする必要がない。

★ 自分のことだけでなく、周りの人のことを考えている。(損得ではない。)

10



## 生徒指導上の徹底事項② 弱さを克服させるために（マナーの徹底）

- ◇ 無言集合・無言待機 朝会では大きく改善、隙間があるとすぐ話す傾向は未改善。あらゆる集合場面で徹底指導。
- ◇ 廊下を静かに歩く 早めの行動とセットで、本館エリアでの徹底。教室エリアでも積極的な働きかけを。ダマロー・アルコールネ啓発。
- ◇ トイレのスリッパをそろえる ソロエル・ナラベル啓発。昇降口靴箱の整頓も随時指導。
- ◇ 公共のマナー 校外学習時の徹底指導。歩き方、公共交通機関の利用の仕方。
- ◇ あいさつ日本一 特に、「相手を見て」「自分から」に重点を置く。

※ 他にも、社会性育成の観点から、鋭い感性で温度差なく指導してほしい事項がある。端的に指導。また、指導した際には必ず担任に連絡をする。

・学校のきまり、もちものきまりが守られていないとき	・時間を守って行動できていないとき
・友だちを大切にしていないとき	・ものや場所を大切にしていないとき
・靴のかかとを踏んでいるとき 靴ひもを結んでいないとき	・ポケットに手をつっこんでいるとき
・上着のフードをかぶっているとき	・腰に服を巻き付けるなど、だらしない恰好をしているとき
・雨降りなのに、傘をささずに登下校しているとき	・手にペン等で絵や字を書いているとき

※ 朝会では、学校教育目標や学校経営方針に関わった講話、児童の実態に即した講話を心掛けていく。原則として、パワーポイント資料を用いる。学習系に保存しておくので、適宜、学級指導に使ってほしい。校長講話の意図を、学級指導で児童に浸透させてほしい。

11



めざす教職員像

## 主体性と専門性を発揮する教職員

- 組織の決定や方向性を自分の言葉で語るができる教職員
- 向上心を持ち、学び続ける姿を示せる教職員

- 危機管理意識を高くもち、子どもを守り抜く教職員
- 子どもに寄り添う温かさと、毅然と対応する強さをもつ教職員

- 大切にしてほしい教職員の7つの「I」
- Imagination (想像力をもって)
  - Intuition (直感を信じて)
  - Innovation (新機軸を大事にして)
  - Invention (産み出す喜びを感じて)
  - Information (情報を集めて)
  - Inclining (その気にさせて)
  - Insight (洞察、寄り添う心で)

七条中エリア めざす教職員像

- 人権感覚をみがく。
- 授業をみがく。

12

## 七条第三小学校の学校評価について

### 1 評価のねらい

- キャリア教育を推進する学校教育目標の実現に向けて、その成果と改善すべき課題を明確にする。
- 児童・保護者・教職員、そして地域の方々にアンケートの実施結果を公表することで、お互いに現状を把握し、課題を共有する。そこから七条第三教育を進めていくために、何が必要となるかを分析し、さらに連携を深めていく。

### 2 重点評価項目

- (1)「確かな学力」の育成に向けて  
児童の基礎的・汎用的能力を育てる七三型キャリア授業を推進する。
- (2)「豊かな心」の育成に向けて  
「豊かな人間関係」  
～「自分も人も大切な存在」「進んで役割を果たす」つながる友だち～
- (3)「健やかな体」の育成に向けて  
「ゆたかな子ども時代」  
～「夢中になる」「自然と笑顔が生まれる」つながる遊び～

### 3 評価手法

- ・児童・保護者・教職員に対するアンケート調査を実施した。
- ・評価結果においては、教職員全体で情報を共有し、分析することで今後の学校教育に役立っている。学校運営協議会においても、意見や支援策を伺った。

### 4 アンケート結果等による分析

#### (1) 学習意欲を高める授業づくりと、家庭学習の充実について

「めあてとめあてに対するまとめ」「毎時の“何につながったか”のふりかえり」については、子どもたちの様子やアンケート結果などから、取組が習慣化していることが伺える。ただ、それぞれ内容の深まりについては不十分なところも見られる。「毎日の授業でスッキリよく分かる」と答えている高学年児童が少ないこと、中学年児童の数値は高いものの、プレジョイントプログラムの結果に表れていないことは課題である。

家庭学習に関しては、今年度は1年生から自学を意識した取組を始めたり、「選択型自学」を始めたりしたことで、どの学年でも多くの児童が「自学ができるようになった」と実感できていることは成果といえる。その反面、4・5年生の算数では筆算や小数の計算などの「計算」に落ち込みが見られる。授業でスッキリ理解することも不可欠だが、反復の練習も必要な内容なので、自分の課題に応じた「自学」や「家庭学習」を行うことが必要である。

#### (2) 気持ちのよいあいさつが自然とできる学校について

本校で取り組んでいる「日本一のあいさつ」では、全体的にはできるようになってきているが、高学年のみ落ち込んでいる。毎年同じような傾向が見られるが、高学年のり

(様式1)

リーダーシップに期待したい。また、保護者アンケートの結果からも、保護者もまだまだ不十分だととらえていることが読み取れる。そこで、まずは教職員、保護者、地域の大人が率先してあいさつをし、活性化させるようにする。

そして、大きな行事や「たてわり活動」を活用し、高学年児童のリーダーシップを刺激し、「日本一のあいさつ」の実現につなげたい。

## 5 自己評価

学校評価実施報告書を参照

## 6 学校関係者評価

学校評価実施報告書を参照

## 7 総括・次年度に向けた課題等

### ○「改善に向けて、教職員間のコミュニケーションを密にする」

教職員の間においても、学年や年齢が違くと遠慮がちになり、相互不干渉に陥るケースがある。そのようなことが背景となり、学校の閉鎖性を感じることや、組織としてのまとまりの弱さを感じることもある。こうした状況の中で大切にしなければならないことは、その多岐多様な足並みを具体的な目標に向けてまとめ上げることが必要である。そのためにも、教職員間で目標に対しての議論やコミュニケーションをより一層大切にしなければならない。具体例として、職員室の中央に2台、スタンディングテーブルを新たに配置し、教職員同士が気軽に会話をもてるような工夫をしている。

### ○「学校評価を活用して、開かれた学校づくりを進める」

学校関係者評価の取組を通じて、教職員や保護者、地域の方々が学校運営について意見を交換し、学校の現状を知り課題意識を共有することにより、相互理解をより深めることが重要である。学校評価を教職員間だけでとどまらず、学校・家庭・地域間のコミュニケーションツールとして活用することにより、学校運営への参画を促進し、家庭や地域に支えられる開かれた学校づくりをさらに進めていく。

# 七三だより 学校評価 (中間)

平成31年2月  
京都市立七条第三小学校  
校長 中村 佳明

学校教育目標  
「なりたい自分 えがく めざす かなえる 共に」

「平成30年度学校評価(中間)」の結果をお知らせします。「学校評価(年間)」も実施します。前回と同じ設問でのアンケートとなりますので、このおたよりの内容をご確認のうえ、アンケートにお答えいただけます。よろしくお願ひします。

## 保護者アンケートより

	重要度				実現度							
	A 重要である	B やや重要である	A+B 99.7%	C 必要ではない	D 重要ではない	C+D 0.3%	A よく出ている	B 本体内出ている	A+B 76.9%	C あまのり出ている	D 出れていない	C+D 15.6%
①	84.9%	14.8%	99.7%	0.3%	0.0%	0.3%	12.5%	64.4%	76.9%	15.3%	0.3%	15.6%
②	66.0%	30.9%	96.9%	2.9%	0.3%	3.1%	16.4%	60.3%	76.6%	15.1%	0.8%	15.8%
③	81.3%	17.9%	99.2%	0.3%	0.3%	0.5%	12.5%	62.6%	75.1%	16.6%	1.8%	18.4%
④	66.8%	30.4%	97.1%	2.9%	0.0%	2.9%	13.5%	64.4%	77.9%	15.1%	0.5%	15.6%
⑤	72.2%	26.0%	98.2%	1.3%	0.0%	1.3%	37.1%	51.9%	89.1%	3.1%	1.0%	4.2%
<b>人権尊重のために</b>												
⑥	83.4%	15.8%	99.2%	0.5%	0.0%	0.5%	20.5%	62.9%	83.4%	8.8%	1.3%	10.1%
⑦	91.7%	7.8%	99.5%	0.3%	0.0%	0.3%	19.0%	60.0%	79.0%	10.9%	3.4%	14.3%
⑧	80.8%	18.7%	99.5%	0.3%	0.0%	0.3%	22.1%	58.4%	80.5%	12.2%	0.8%	13.0%
⑨	71.9%	26.8%	98.7%	1.0%	0.0%	1.0%	15.3%	62.3%	77.7%	12.7%	3.1%	15.8%
⑩	74.8%	22.6%	97.4%	2.3%	0.0%	2.3%	25.5%	58.7%	84.2%	8.6%	0.5%	9.1%
⑪	83.6%	15.3%	99.0%	0.8%	0.0%	0.8%	31.9%	56.1%	88.1%	3.1%	1.3%	4.4%
⑫	76.9%	20.0%	96.9%	1.6%	0.3%	1.8%	45.5%	36.1%	81.6%	7.0%	0.5%	7.5%
<b>小中一貫教育</b>												
⑬	64.7%	31.4%	96.1%	0.0%	0.0%	0.0%	20.1%	63.5%	83.6%	12.3%	0.3%	12.6%
⑭	62.3%	32.7%	95.1%	4.2%	0.0%	4.2%	19.5%	59.1%	78.6%	15.0%	1.3%	16.3%
⑮	58.7%	36.9%	95.6%	3.6%	0.0%	3.6%	13.8%	62.1%	75.8%	15.1%	1.0%	16.1%
⑯	62.6%	32.7%	95.3%	3.6%	0.3%	3.9%	16.1%	60.3%	76.4%	13.5%	2.1%	15.6%

◆ 保護者の「重要度(二ス)」が全て95%以上!!

今年度は大幅に設問の内容を変更しましたが、保護者アンケートでは、毎回このような結果が見られます。「重要である」と「やや重要である」の合計の数値が全て95%以上。ほとんど100%と言っても過言ではありません。これは、「学校の取組に対して、ほぼ全ての保護者の皆様がその重要性を理解していただけている」と考えています。

学校の取組に対して保護者の方々が理解を示していただけているというものは、七条第三小学校の大きな強みだと考えています。

◆ 「自立する子・協力する子」「主体性」「キャリア」について・・・

「自立する子・協力する子」「主体性」「キャリア」・・・今年度より七三教育の柱として取組を始めた内容です。それらの項目(①～④)の「実現度」が他に比べて低めになっています。

このアンケートは6～7月に実施しましたので、「取組の内容」や「目指している子どもたちの姿」が具体的に伝わっていないかたのではないかと考えています。学校一家庭一地域が「育てたい力」や「目指す子ども像」を共有しながら教育を進めていくことが大切です。だからこそ、学校の取組やそのねらいなどについて、積極的な発信し、理解と協力を得られるように努めていきたいと思っています。

◆ 「地域・社会に開かれた学習・学校づくり」の推進!!

⑤の設問では、「実現度」が89.1%で、全項目の中で「実現度」が最も数値が出ています。つまり、「地域・社会に開かれた学習・学校づくり」に関して、学校の取組に対する評価が高かったと言えます。

八丁や学習や社会科の学習を中心に、学校外との協働をとり入れたカリキュラムづくりを進めています。後期も企業や地域諸団体をはじめ多くの方々に協力をいただきました。A1の活用を目指したNECとの取組は、テレビや新聞などで報道されたことはご存知かと思えます。今後も、子どもたちの学びの充実を目指して、積極的に地域や社会とのつながりを生かしていきたいと考えています。

◆ 「いじめへの対応」と「ホスピタリティ」に関して・・・

⑦「いじめに対する取組」と⑨「児童や保護者に対するホスピタリティ」に対する「実現度」がいずれも7割台にとどまりました。学校として、少し残念な数字と言わざるを得ません。

七条第三小学校は、「いじめはしない!許さない!許さない!」という姿勢で、「学校いじめ防止等基本方針」に則り、「いじめ」への早期対応・「いじめ防止」につなげる子どもたちへの指導や集団づくりなど、学校体制で取り組んでいます。

また、子どもたちや保護者の皆様の声に耳を傾け、心の通った指導や対応ができるよう、教職員一同、日々共通理解を進めているところであります。

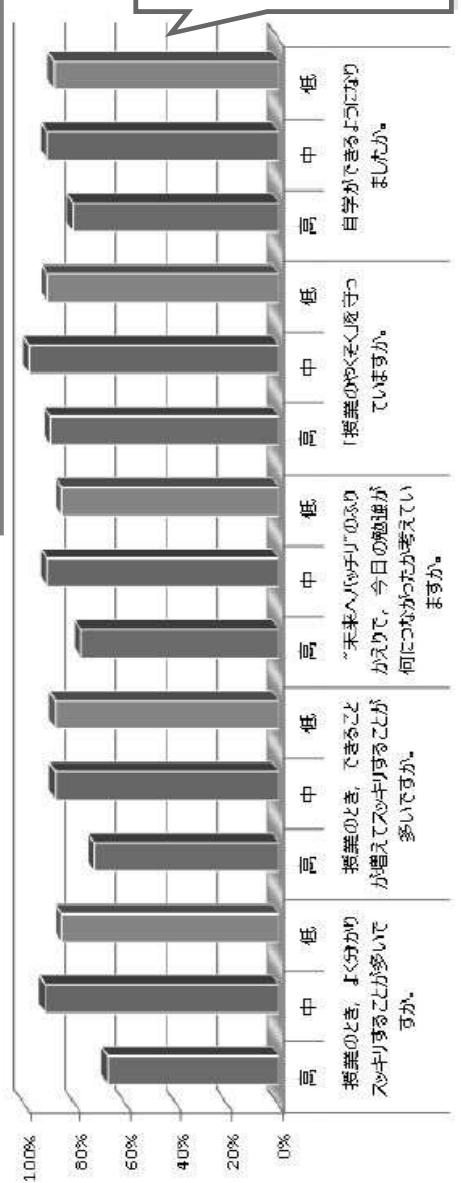
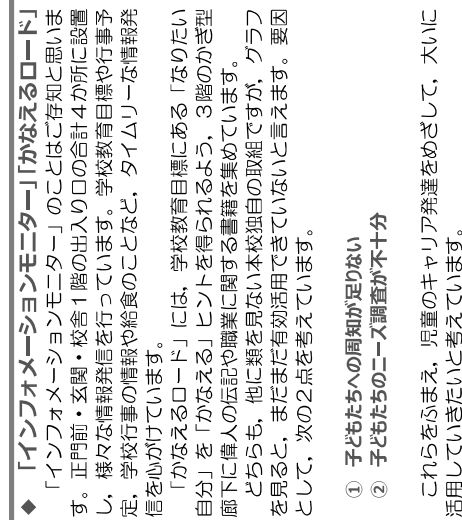
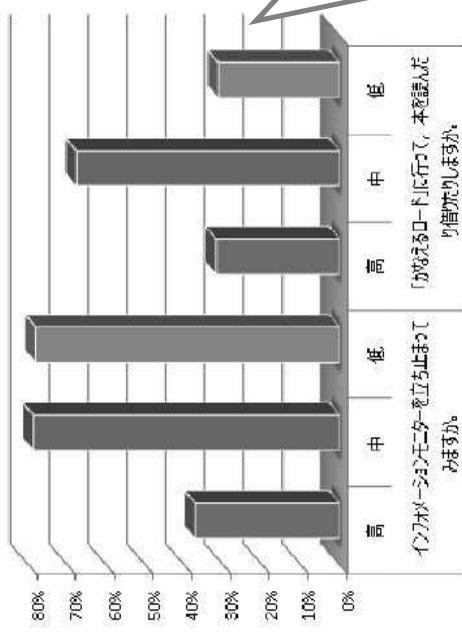
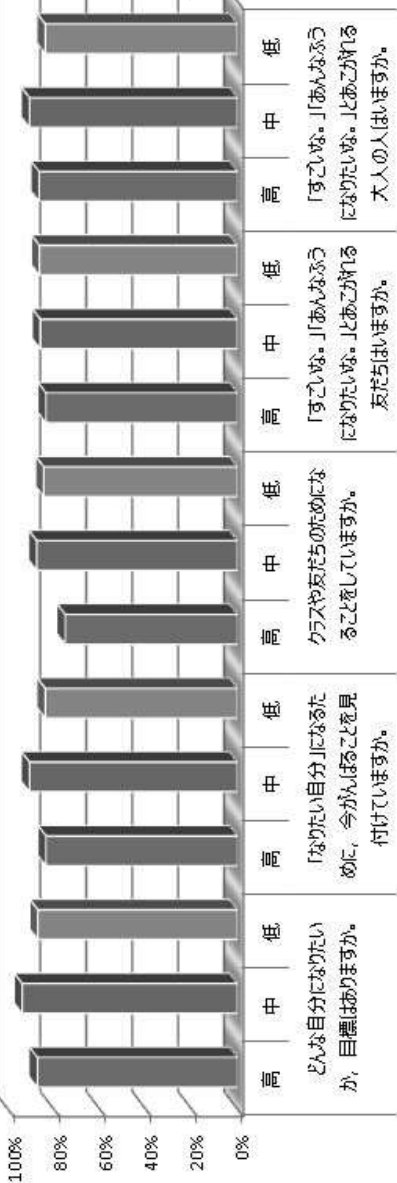
今回の数字を真摯に受け止め、日々の取組を見直していきたいと思えます。「いじめ」に関しては、日常の子どもたちの様子に気を配り、多くの教職員の目で子どもたちを見ていくほか、「いじめアンケート」の結果をもとに子どもたちの声に聞き合い、適切に対応していきたいと思えます。

◆ 七中エリア小中一貫の取組

七中エリア小中一貫の取組は、学校間の壁を越えて、少しずつ進展してきています。今は、エリア4校が共通の規律を作り、全学級に掲示しています。⑬の項目で「実現度」の数値が高いのは、取組の「見える化」の成果と言えるでしょう。逆にそれ以外の3項目は、「見える化」が弱い部分があることは否めません。

ここでも、正確な情報発信の重要性を感じるとともに、子どもたちの変化で「見える化」を図れるよう、取組を改善しながら進めたいと考えています。

# 児童アンケートより



## ◆ 学校教育目標「なりたい自分 えがく めざす かなえる 共に」

◆ 「1」の学年も左のグラフから分かるように、これらの設問は、「低」「中」「高」でそれほど差がなく、8割程度となっています。子どもたちが思いえがく「なりたい自分」は、「将来つきたい職業」という遠い未来のことなのか、「こんなふうになりたい」という近い将来のことなのか、今回の設問ではわかりませんが、少なくとも、それぞれの発達段階において、1人1人が明確に「なりたい自分」を思いえがいていることが分かります。

◆ それだけでなく、「なりたい自分」をめざし、かなえるために今の自分に必要なことも自覚していることもうかがえます。

◆ 今年度より全学年で始めた「キャリアノート」も活用しながら、「なりたい自分」を共にめざし、かなえる道筋を自覚できるように働きかけていきたいものです。

## ◆ 「2」大人の本気を示しましょう！

◆ 子どもたちがあこがれる大人は身近な存在ではありません。良くも悪くも、子どもたちは身近な大人の姿をよく見ています。普段から接することの多い大人の言動は、子どもたちに大きな影響を与えます。七条中学校エリアの4校（七条中学校・七条小学校・西大路小学校・七条第三小学校）では、「大人の本気」を策定し、身近な大人が率先して子どもたちに範を示していきけるような風土の醸成を目指しています。学校・家庭・地域が協働して、子どもたちを育成していきたいものです。

	高	中	低	高	中	低	高	中	低
「いじめはしない」「許さない」の気持ちで友だちを大切にしていますか。	86.6%	82.6%	81.1%	92.4%	92.2%	92.4%	3.8%	3.0%	6.8%
わがままや自分勝手せず、友だちのことを考えていますか。	48.5%	43.9%	66.1%	4.5%	9.9%	3.1%	0.1%	1.9%	5.0%
安心して話したの遊んだりできる友だちがいますか。	82.6%	82.7%	80.6%	2.3%	3.1%	3.1%	0.0%	0.0%	3.1%
わげはたでなく、友だちを大切にしていますか。	51.5%	40.2%	81.1%	6.8%	1.6%	1.6%	0.8%	0.8%	7.6%
「日本一あひさつ」で、自分も人も幸せな気持ちになっていきますか。	27.3%	44.7%	75.0%	15.9%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	27.3%
たての活動で、他の学年の友だちと仲よくおぼれたか。	62.2%	29.9%	68.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	2.5%	10.6%
	54.5%	28.8%	59.1%	9.1%	7.6%	9.1%	7.6%	7.6%	16.7%
	71.3%	18.1%	71.3%	5.6%	4.4%	5.6%	4.4%	4.4%	10.0%

## ◆ 友達関係は良好です。

◆ 友達関係の項目はどの学年も高水準です。これは本校の特徴であり、自慢です。「たての活動」も年々取組を改善しており、「たての活動」の数字も例年より高くなりました。同学年だけでなく、学年を越えて子どもたちがつながり合い、心から信頼し合える友達関係を築いてほしいです。

## ◆ 学習に関する設問で、落ち込みが見られます。

◆ 毎年の傾向通り、学習・授業の項目において、高学年の数値が低くなっています。本校は、子どもたちの「スッキリ」「バッチリ」が生まれる授業づくりを目標に様々な取組を進めています。「スッキリ」の項目で、高学年でも80%に達するよう、「学びの進めるべ」を活用しながら、「スッキリ」が生まれる授業を積み重ねていきたいです。

## ◆ 「未来へバッチリ」のふりかえりは定着しています。

◆ 今年から始めた「未来へバッチリ」のふりかえりは、子どもたちもやのり方を理解し、定着したようです。今後は、「ふりかえり」が形だけに終わらないよう、未来につなげられていることをより意識できるように、内容が深まりを目標として取組を改善していきます。

## ◆ 低学年も「自学」をがんばっています！

◆ 「自学」はどの学年も高い数値となっています。特に低学年の数値はうれしい結果です。低学年も自由帳を活用した自学に取り組み始めましたので、その成果とさせていただきます。

# 平成30年度後期学校評価

平成31年4月  
京都市立七条第三小学校  
校長 中村 佳明

学校教育目標  
わたしとあなたの「なりたい自分」共にめざそう かなえよう  
～自信をもって 認め合って 補い合って～

## 児童アンケートより

		そう思う	大体そう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	
1	高	54.5%	36.3%	90.8%	7.9%	1.3%
	中	82.7%	13.4%	96.1%	3.1%	0.8%
	低	80.1%	12.3%	92.4%	6.3%	1.3%
2	高	43.2%	39.7%	82.9%	10.6%	6.5%
	中	63.1%	25.8%	88.9%	7.9%	3.2%
	低	69.3%	20.7%	90.0%	8.7%	1.3%
3	高	61.9%	23.4%	85.3%	12.9%	1.8%
	中	71.4%	18.3%	89.7%	6.7%	3.6%
	低	78.5%	11.1%	89.6%	8.1%	2.3%
4	高	71.2%	21.2%	92.4%	3.0%	4.6%
	中	73.2%	25.2%	98.4%	1.6%	0.0%
	低	76.9%	18.1%	95.0%	4.4%	0.6%
5	高	12.4%	38.8%	46.2%	40.2%	13.6%
	中	57.8%	30.1%	87.9%	10.7%	1.4%
	低	60.4%	25.4%	85.8%	8.1%	6.1%
6	高	17.8%	2.0%	19.8%	28.3%	51.9%
	中	44.9%	14.2%	59.1%	13.4%	27.5%
	低	15.0%	15.6%	30.6%	25.4%	44.0%
7	高	24.3%	36.3%	60.6%	29.7%	9.7%
	中	61.2%	29.4%	90.6%	6.7%	2.7%
	低	68.9%	21.1%	90.0%	8.1%	1.9%
8	高	23.8%	36.0%	59.8%	33.3%	6.9%
	中	53.5%	35.5%	89.0%	10.7%	0.3%
	低	62.7%	23.6%	86.3%	7.1%	6.6%
9	高	20.8%	37.5%	58.3%	30.8%	10.9%
	中	50.5%	36.1%	86.6%	10.7%	2.7%
	低	64.1%	19.0%	83.1%	11.2%	5.7%
10	高	34.8%	51.9%	86.7%	3.0%	10.3%
	中	70.9%	25.2%	96.1%	3.9%	0.0%
	低	75.0%	20.6%	95.6%	3.8%	0.6%
11	高	22.0%	43.8%	65.8%	17.6%	16.6%
	中	66.1%	29.9%	96.0%	3.1%	0.9%
	低	76.9%	16.3%	93.2%	4.4%	2.4%
12	高	23.8%	54.5%	78.3%	17.6%	4.1%
	中	69.2%	26.0%	95.2%	3.9%	0.9%
	低	64.1%	25.4%	89.5%	4.4%	6.1%
13	高	17.6%	34.8%	52.4%	30.8%	16.8%
	中	70.9%	10.7%	81.6%	9.4%	9.0%
	低	64.1%	23.6%	87.7%	8.1%	4.2%
14	高	61.9%	30.8%	92.7%	3.9%	3.4%
	中	86.6%	9.4%	96.0%	0.9%	3.1%
	低	80.6%	11.2%	91.8%	4.4%	3.8%
15	高	51.9%	29.2%	81.1%	17.6%	1.3%
	中	76.4%	14.9%	91.3%	6.4%	2.3%
	低	72.5%	16.3%	88.8%	8.1%	3.1%
16	高	51.9%	33.8%	85.7%	10.6%	3.7%
	中	82.7%	17.3%	100.0%	0.0%	0.0%
	低	78.5%	16.9%	95.4%	4.4%	0.2%
17	高	36.3%	54.5%	90.8%	4.6%	4.6%
	中	63.1%	29.4%	92.5%	3.1%	4.4%
	低	75.0%	20.6%	95.6%	3.1%	1.3%
18	高	86.7%	9.4%	96.1%	1.3%	2.6%
	中	86.6%	9.4%	96.0%	2.3%	1.7%
	低	83.1%	11.2%	94.3%	4.4%	1.3%
19	高	54.5%	33.8%	88.3%	7.3%	4.4%
	中	73.2%	17.3%	90.5%	3.1%	6.4%
	低	76.9%	16.3%	93.2%	5.6%	1.2%
20	高	21.7%	46.2%	67.9%	17.6%	14.5%
	中	69.2%	14.9%	84.1%	8.7%	7.2%
	低	64.1%	20.6%	84.7%	6.8%	8.5%
21	高	51.9%	33.8%	85.7%	11.7%	2.6%
	中	61.2%	25.2%	86.4%	7.9%	5.7%
	低	76.9%	12.3%	89.2%	7.1%	3.7%
22	高	27.3%	34.8%	62.1%	17.6%	20.3%
	中	62.2%	26.0%	88.2%	6.4%	5.4%
	低	76.9%	16.9%	93.8%	3.1%	3.1%
23	高	17.6%	54.5%	72.1%	10.6%	17.3%
	中	50.5%	25.2%	75.7%	18.3%	6.0%
	低	59.6%	16.9%	76.5%	20.6%	2.9%
24	高	27.3%	34.8%	62.1%	17.6%	20.3%
	中	62.2%	26.0%	88.2%	6.4%	5.4%
	低	76.9%	16.9%	93.8%	3.1%	3.1%

## 保護者アンケートより

キャリア教育の観点に立った学校づくり	重要度				実現度(「わからない」を除く)								
	重要である	やや重要である	重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大抵出来ている	あまり出来ていない	出来ていない					
本校が、将来社会に通用する「自立する子」「協力する子」をめざしていること	84.9%	14.8%	99.7%	0.3%	0.0%	0.3%	12.5%	64.4%	76.9%	15.3%	0.3%	15.6%	
本校が、「主体性」をのびするための取組を進めていること(自学、自由研究、キャリアノート等)	72.2%	25.4%	97.6%	1.8%	0.6%	2.4%	16.4%	60.3%	76.6%	15.1%	0.8%	15.8%	
本校が、児童の「スキル」につながる「わかる」「できる」授業をめざしていること	83.4%	16.0%	99.4%	0.3%	0.3%	0.6%	15.3%	58.5%	73.8%	12.7%	3.4%	16.1%	
本校が、つねに「何につながるか」を大切にしていること	74.8%	21.9%	96.7%	3.3%	0.0%	3.3%	10.9%	63.8%	74.7%	15.1%	0.5%	15.6%	
本校が、教育を学校内に閉じず、地域や社会とつながろうと工夫していること	79.1%	19.0%	98.1%	1.9%	0.0%	1.9%	37.1%	51.9%	89.1%	3.1%	1.0%	4.2%	
人権尊重のために													
本校が、つねに「社会では許されないことは、学校では許されない」という毅然とした姿勢で指導にあたっていること	85.6%	13.9%	99.5%	0.5%	0.0%	0.5%	19.8%	68.4%	88.2%	7.9%	0.8%	8.7%	
本校が、「いじめはしない!させない!許さない!」立派な明確に、児童の人間関係づくりに取り組んでいること	92.8%	6.9%	99.7%	0.3%	0.0%	0.3%	22.4%	63.4%	85.8%	9.1%	2.4%	11.5%	
本校が、支え合い、補い合い、認め合う集団づくりをめざしていること	78.5%	21.4%	99.9%	0.1%	0.0%	0.1%	25.6%	55.8%	81.4%	12.2%	0.8%	13.0%	
本校が、児童・保護者の思いに心を寄せ、互を伸ばすホスピタリティを大切にしていること	79.1%	19.2%	98.3%	1.7%	0.0%	1.7%	21.4%	66.8%	88.2%	7.1%	4.4%	11.5%	
本校が、学校全体で人権教育・道徳教育に取り組んでいること	75.6%	21.4%	97.0%	3.0%	0.0%	3.0%	22.4%	60.3%	82.7%	8.6%	0.5%	9.1%	
本校が、生命を守り、健全な心身を育むために、防災・防犯・安全教育や薬物乱用防止・情報モラル教育、保健指導に取り組んでいること	87.2%	12.7%	99.9%	0.1%	0.0%	0.1%	42.7%	49.8%	92.5%	3.1%	1.3%	4.4%	
本校が、「日本一のあいさつ」をスローガンに、あいさつの習慣化に取り組んでいること	74.8%	24.7%	99.5%	0.4%	0.1%	0.5%	41.2%	33.6%	74.8%	7.0%	0.5%	7.5%	
小中一貫教育													
七条中エリア4校が、児童・生徒主体の学習・授業をめざしていること(自立・自律の心を育てるために)	70.3%	26.8%	97.1%	2.6%	0.3%	2.9%	19.0%	69.7%	88.7%	3.1%	1.3%	4.4%	
七条中エリア4校が、「あいさつ運動」等の交流を通して児童・生徒のつながりを築こうとしていること(自己有用感を育てるために)	75.1%	23.5%	98.6%	1.1%	0.3%	1.4%	25.5%	51.9%	77.4%	19.0%	3.1%	22.1%	
七条中エリア4校が、児童会・生徒会による主体的な取組を促していること(規範意識を育てるために)	55.6%	41.2%	96.8%	3.2%	0.0%	3.2%	12.7%	59.1%	71.8%	12.7%	0.5%	13.2%	
七条中エリア4校が、「子どもの本気・大人の本気」等共通の目標を掲げて、地域と共に子どもの学びと育ちに取り組んでいること	59.2%	33.6%	92.8%	5.3%	1.9%	7.2%	15.3%	56.1%	71.4%	13.9%	0.4%	14.3%	

### 児童アンケートより

・高学年になるにつれて、①学習への意欲や②学習の中での他者への関わりが低下している傾向にある。  
・授業のやくそくを守ることや友達を大切にすることや、自学の進め方などについては、ある程度高い割合を示している。  
・「インフォメーションモニター」や「かなえるロード」の活用がまだまだ不十分。(低学年にとっては、内容が難しい?高学年にとっては、魅力的なものになっていないことが考えられる。)  
・「七条エリアの子」の意識が弱い。(すすんで話を聞くことや時間を守ることの徹底の必要性。)

### 保護者アンケートより

・授業に関することや、毅然とした指導・いじめ対応についての項目で、重要度に対して実現度の割合が低下している。(授業・学校行事の在り方、児童や保護者との関わり方など)  
・あいさつの習慣化の取り組みについて、まだまだ実現度が低い。  
・人権教育や道徳教育、情報モラル、薬物乱用防止教室など、生命を守り健全な心身を育むための取り組みについての項目では、重要度に対しての実現度の割合が上がっている。  
・七条エリアのめざす方向性についての理解度が高まってきているが、具体的な取組については認知が弱い。

1. 「日々の授業」と「子どもたちとの関係づくり」により子どもたちとの信頼関係を築いていきます!
2. 新たに始めた取組を着実に推進していきます! 情報発信しながら、保護者・地域と意図やねらいを共有しながら進めていきます!
3. 「ダメなものはダメ!」「いじめはしない!させない!許さない!」という毅然とした指導をしていきます!



<b>教育目標</b>	
◆ なりたい自分 えがく めざす かなえる 共に	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し ・教育目標は子どもたちにも教職員にもなじみやすく、すっかり定着した。 ・「なりたい自分」というのをキーワードにして指導に生かすことができた。 ・子どもたちはそれぞれの「なりたい自分」を思いえがいている様子なので、来年度は「共に」「かなえる」こと具現化するような取組を考えたい。 ・取組の中で「共に」を意識することで、子どもたちの「他者」を意識する力を育てていきたい。そのことがよりよい人間関係を築き、子どもたちの「社会性」を育むことにつながると考える。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・教育目標はおぼえやすく、言いやすくいい。 ・今後も続けてほしい。 ・大人も「なりたい自分」をもつことは大事だし、その意味で、大人が範を示せる存在でありたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	12月18日(火)	学校運営協議会理事会
最終評価	3月6日(水)	学校運営協議会理事会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

<b>重点目標</b>
児童の基礎的・汎用的能力を育てる七三型キャリア授業を推進する。 「豊かな学び」～「今スッカリ」「未来へバッチリ」つながる授業～
<b>具体的な取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の視点を適切に位置付けた「スッカリ」「バッチリ」が生まれる授業づくり1を行う。</li> <li>・以下の4つを「標準装備」とし、全ての教員が共通実践することで、子どもたちの基礎的・汎用的能力を育成する。                      ①「明確な問い」と「スッカリするまとめ」 ②「何につながったのか」のふりかえり                      ③学習規律の徹底 ④ICTの活用</li> <li>・校内研究を中心に、次の2つの視点で授業改善を進める。                      ①単元を貫く問い(本質的な問い)を位置付け、児童が見方・考え方を働かせて思考する授業づくり                      ②毎時終末のふりかえりで、児童の“未来の知識”(汎用的能力)を引き出す授業づくり。(「七三学びの道しるべ」の活用)</li> <li>・“未来の知識”の習得には家庭学習との連続が不可欠であるにとらえ、子どもたちが「主体性」をもって自学に取り組む習慣を定着させる取組を行う。今年度、1年生から自学につながる取組を始める。また、なかなか進んで自学に向かいにくい子に焦点を当て、自学の内容や効果を示し、自分の課題にあった取組を選択できる「選択型自学」を行う。</li> <li>・市販のテストとドリル(漢字・計算)を全校で統一し、学校として一貫した評価システム(データ処理)を導入する。評価をもとに日々の指導につなげていくほか、各種データも最大限活用し、学力向上をめざす。(「七三模試」の実施と学力分析・指導)</li> <li>・ICT関係など、子どもたちの学力向上につながる「投資」を積極的に行う。また、「投資」の効果を最大化するため、教職員の活用能力向上に向けた研修を充実させる。</li> </ul>
<b>(取組結果を検証する)各種指標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレイジョイントプログラム、ジョイントプログラム及び全国学力・学習状況調査の分析結果。</li> <li>・児童の授業中の態度の変容。(学習規律の定着状況)</li> <li>・「七三学びの道しるべ」における毎時間の「ふりかえり」の点検結果。</li> <li>・自学ノート(自由帳)の点検結果。</li> <li>・指導主事からの授業評価。</li> <li>・児童及び保護者アンケートの結果。</li> </ul> <p>該当項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑧ 授業のとき、よく分かりスッカリすることが多いですか。(児)</li> <li>⑨ 授業のとき、できることが増えてスッカリすることが多いですか。(児)</li> <li>⑩ “未来へバッチリ”のふりかえりで、今日の勉強が何につながったか考えていますか。(児)</li> <li>⑬ 自学ができるようになりましたか。(児)</li> <li>③ 本校が、児童の「スッカリ」につながる「わかる」「できる」授業をめざしていること(保)</li> <li>④ 本校が、つねに「何につながったか」を大切にして授業・行事をおこなっていること(保)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見。</li> </ul>

中間評価

<b>各種指標結果</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレイジョイントプログラム、ジョイントプログラムでは、以下の分野で落ち込みが見られた。                      → 5年(国)・(算) 4年(国)(算)</li> <li>・学習規律の定着については習慣化が進んでいるが、ゆるみが見られるところもある。</li> <li>・児童アンケートの結果 ※ 「そう思う」「大体そう思う」の合計：「プラス評価」                      「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計：「マイナス評価」</li> </ul>

	→ ⑧：プラス評価 (高) 67.4% (中) 92.1% (低) 85.6%
	→ ⑨：プラス評価 (高) 72.7% (中) 88.2% (低) 88.1%
	→ ⑩：プラス評価 (高) 78.0% (中) 91.3% (低) 85.6%
	→ ⑯：プラス評価 (高) 81.1% (中) 91.3% (低) 88.8%
・保護者アンケートの結果	→ ③：プラス評価 (重要度) 99.2% (実現度) 75.1%
	→ ④：プラス評価 (重要度) 97.1% (実現度) 77.9%
自己評価	<b>分析 (成果と課題)</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習規律」や「めあてとめあてに対するまとめ」「毎時の“何につながったか”のふりかえり」「自学」など、子どもたちの様子やアンケート結果などから、取組が習慣化していることがうかがえる。</li> <li>・「毎日の授業でスッキリよく分かる」と答えている高学年児童が少ないこと、中学年児童の数値は高いものの、プレジョイントプログラムの結果に表れていないことは課題である。</li> <li>・保護者アンケートの③の「実現度」が75.1%となったのは、保護者の要望ととらえたい。</li> <li>・どの学年でも多くの児童が「自学ができるようになった」と実感できている。</li> <li>・4・5年生の算数では「計算」に落ち込みが見られる。授業での理解も不可欠だが、反復練習も必要なので、自分の課題に合った「自学」や「家庭学習」が行われているかを見直したい。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の指導力向上のための研修について、特に若年教員を対象に積極的に行う。</li> <li>・「単元を貫く問い」が子どもたちの意欲や問題意識を刺激したものであるか、めあてとふりかえりがしっかり連動しているかなど、学校体制で研究・研修を深め、具体的な実践につなげていきたい。</li> <li>・4つの「標準装備」の真の標準化を行う。ICTの活用では、使うことに満足するのではなく、教育効果を高める活用法を探り、全体へと広めていく。</li> <li>・例えば「選択型自学」で選択肢を見直したり増やしたり、個別に指導する時間を設けたりするなど、子どもたちが自分の課題に応じた「自学」につなげていけるような働きかけを増やす。</li> </ul>
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	※ 敢えて前回と同じ指標で検証し、変容について分析を加えていきたい。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「七三模試」の取組はわかりやすく、結果に直結しそうなので、今後もぜひ続けてほしい。</li> <li>・タブレットなどの活用は今の時代に合っていると思う。</li> </ul>

## 最終評価

	<b>中間評価時に設定した各種指標結果</b>
	・ 児童アンケートの結果 ※ 「そう思う」「大体そう思う」の合計：「プラス評価」 「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計：「マイナス評価」
	→ ⑧：プラス評価 (高) 60.6% (中) 90.6% (低) 90.0%
	→ ⑨：プラス評価 (高) 59.8% (中) 89.0% (低) 86.3%
	→ ⑩：プラス評価 (高) 58.3% (中) 86.6% (低) 83.1%
	→ ⑯：プラス評価 (高) 81.1% (中) 91.3% (低) 88.8%
	・ 保護者アンケートの結果
	→ ③：プラス評価 (重要度) 99.4% (実現度) 73.8%
	→ ④：プラス評価 (重要度) 96.7% (実現度) 74.7%
自己評価	<b>分析 (成果と課題)</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間の結果と同様、「めあてとふり返り」「毎時のふり返り」について、教職員はもとより、子どもたちにも定着した。</li> <li>・ 「毎時のふり返り」では、慣れが出てきたためか、内容に課題が見られるようになったことから、視点を提示するなどの改善策を試みたが、めざましい変化は見られなかった。</li> <li>・ 1年生から自学の取組を始めたことで、自学に対する抵抗はなくなっていると感じられる。</li> <li>・ 1月のジョイント・プレジョイントプログラムの結果は、9月と概ね同じような傾向が見られた。ひき続き取組が必要である。</li> <li>・ 2回目の児童アンケートは、高学年で数値を下げているものが多いが、学級の実態によるところが大きいと考える。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「確かな学力」を育成するには、日々の授業の充実が急務であるが、「子どもたちとの信頼関係づくり」が「質の高い授業」を支える大切な要素であるにとらえ、「日々の授業の充実」と両輪で進めていく必要性を感じている。</li> <li>・ 4つの「標準装備」が標準化されていない実態もあるので、教職員の意識から高めていきたい。</li> </ul>
	<b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育については校内研究の取組を通して一定の進展が見られた。</li> <li>・ 「スッキリ」「バッチリ」が生まれる授業が十分達成できているとはいえないので、日々の授業の充実を目指して、学校体制で取組を進めていく。</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちが学校で過ごす時間の大半は授業であり、授業が面白くなければ学校自体が面白くなることも考えられる。逆に言えば、授業が面白くなれば、学校が面白くなり、・・・という好循環が生まれてくると思うので、まずは授業づくりに全力であたってもらいたい。</li> <li>・ 学校や先生だけに任せきりになりがちなので、何らかの形で協力していきたい。遠慮なく言ってもらいたい。</li> </ul>

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b>「豊かな人間関係」～「自分も人も大切な存在」「進んで役割を果たす」つながる友だち～</p>	
<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縦割りを生かした「縦割り給食」「縦割りそうじ」等、ピア・サポートの取組をさらに推進し、子どもたちの自己有用感を育む。</li> <li>七条中エリアの取組（あいさつ運動・夏休み自由研究展交流・小中縦割り交流・おそうじし隊）の事前・事後の学習、ふり返りをより充実させ、自己有用感の育成を促す。</li> <li>「特別の教科 道徳」の指導では、発問、特に中心発問をみがき、迫りたい価値に確実に迫る授業を行う。</li> <li>人権教育の全体計画に基づいて体系的な人権教育の取組を進める。「こころの日」では、毎月1回、今日的な課題を取上げ、全学級で同じテーマの授業を行っている。今年度は「いじめをしない・させない・許さない」をテーマに、全校一斉公開授業参観を行う。</li> <li>「よりよく判断」し、「主体的」に行動する子を育てるためには、その土台となる「自主性」の育成が不可欠であることから、学校における様々な規律を明確に示したうえで、学校全体で温度差のない指導を行い、徹底を図る。</li> <li>七条中エリア共通の規範、規律、マナー等を浸透させ、「地域の子は地域で育てる」「義務教育9年間の学びと育ちを保障する」自覚を高める。</li> <li>清潔感や落ち着き、安心・安全が息づく学校環境・学習環境の充実を図る。</li> </ul>	
<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きな行事前後に行う子どもたちの「ふりかえり」（キャリアノート）の点検結果。</li> <li>「道徳ノート」の記述内容の点検結果。</li> <li>「こころの日」のワークシートの記述内容の点検結果。</li> <li>児童及び保護者アンケートの結果。 <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目 <ul style="list-style-type: none"> <li>⑬ 「いじめはしない！させない！許さない！」の気持ちで、友だちを大切にしていますか。（児）</li> <li>⑭ わがままや自分勝手をせず、友だちのことを考えていますか。（児）</li> <li>⑮ 安心して話したり遊んだりできる友だちがいますか。（児）</li> <li>⑯ わけへだてなく、友だちを大切にしていますか。（児）</li> <li>⑰ 「日本一のあいさつ」で、自分も人も幸せな気持ちになっていますか。（児）</li> <li>⑱ たてわり活動で、他の学年の友だちとも仲良くなりましたか。（児）</li> <li>⑲ 「七条中エリア」の子を心がけていますか。（児）</li> <li>⑳ 本校が、つねに「社会で許されないことは、学校でも許されない」という毅然とした姿勢で指導にあたっていること（保）</li> <li>㉑ 本校が、「いじめはしない！させない！許さない！」立場を明確に示し、児童の人間関係づくりに取り組んでいること（保）</li> <li>㉒ 本校が、学校全体で人権教育・道徳教育に取り組んでいること（保）</li> <li>㉓ 本校が、「日本一のあいさつ」をスローガンに、あいさつの習慣化に取り組んでいること（保）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	

中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ⑬～⑲の友達関係の項目は、「プラス評価」がほぼ全て9割を上回った。</li> <li>→ ⑲「プラス評価」：(高) 83.3% (中) 85.8% (低) 89.4%</li> <li>→ ⑲「プラス評価」：(高) 72.0% (中) 92.1% (低) 88.8%</li> </ul> </li> <li>保護者アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ⑥「プラス評価」：(重要度) 99.2% (実現度) 83.4%</li> <li>→ ⑦「プラス評価」：(重要度) 99.5% (実現度) 79.0%</li> <li>→ ⑩「プラス評価」：(重要度) 97.4% (実現度) 84.2%</li> </ul> </li> </ul>	
自己評価	<p><b>分析(成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「キャリアノート」は、ファイルや表紙を作成し、本格的に始動した。子どもたちはふりかえったことをしっかりと記録し、ファイルに残している。内容については今後検証していく必要があるが、長いスパンの取組なので、じっくり検討したい。</li> <li>「友達関係」についての数値はここ数年高くなっているが、取組の積み上げの成果と考えたい。</li> <li>「たてわり活動」について、年々取組が充実してきたが、今年度も新たな活動が加わっており、全学年での高い数値につながったと考えられる。</li> <li>「日本一のあいさつ」では、高学年のみ落ち込んでいる。毎年同じような傾向が見られるが、高学年のリーダーシップに期待したい。</li> <li>保護者アンケートの「いじめ」に関する2項目は、「重要度」が高い。「実現度」において、⑥「毅然とした態度での指導」の評価に対して、⑦「児童の人間関係づくり」は落ち込んでいる。「子どもたち同士の間関係づくり」を進めてほしい、という願いであるにとらえたい。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2学期は大きな行事もあり、子どもたち同士のつながりを深める機会がある。ねらいやめあてをしっかりと提示するとともに、適切なふりかえりを行うことで、友だちや仲間とのつながりに目を向け、実感できるような働きかけを行う。</li> <li>「たてわり活動」もマンネリ化しないよう、子どもたちの「自主性」や「主体性」を刺激し、子どもたちの声を取り入れつつ、満足感を高められるようにする。</li> <li>大きな行事や「たてわり活動」を活用し、高学年児童のリーダーシップを刺激し、「日本一のあいさつ」の実現につなげたい。</li> <li>「いじめ」に関する取組については、予防的な生徒指導という意味でも、上記のような取組を通して子どもたち同士の人間関係づくりに努めていきたい。</li> <li>12月の「こころの日参観」において、今年度は「いじめ防止教育」をテーマとし、本校の取組を発信するとともに、保護者に共に考えてもらう機会としたい。</li> </ul>

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ※ こちらも、敢えて前回と同じ指標で検証し、変容について分析を加えていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・運動会や夢舞台など、大きな行事は毎年楽しみにしている。子どもたちの活躍が見られてうれしい。内容を精選しながら進めてほしい。 ・昔に比べてたてのつながりが弱くなっている。特に本校は集団登校もないので、学校でつながること機会があるのはうれしい。

### 最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果 ・児童アンケートの結果 → ⑰～⑳の友達関係の項目は、「プラス評価」がほぼ全て9割を上回った。 → ⑳「プラス評価」：(高) 72.7% (中) 84.3% (低) 85.0% → ㉑「プラス評価」：(高) 49.2% (中) 95.3% (低) 91.9% ・保護者アンケートの結果 → ⑥「プラス評価」：(重要度) 99.7% (実現度) 78.3% → ⑦「プラス評価」：(重要度) 100% (実現度) 75.5% → ⑩「プラス評価」：(重要度) 97.8% (実現度) 86.9%
自己評価	分析(成果と課題) ・「友達関係」や「たてわり活動」に関する項目は、比較的高い水準を維持している。「たてわり活動」は、これまでの取組の積み重ねが実を結び、新たな取組もうまくいっているととらえたい。 ・「友達関係」について良好な数字が並ぶが、実際の子どもの姿からは心からつながり合っているとは考えにくい様子も見て取れる。 ・高学年の「あいさつ」に関する数値が大幅に下がっている。 分析を踏まえた取組の改善 ・これまで道徳教育で培った蓄積を生かし、道徳教育・人権教育に重点をあてて取り組んでいく。本校のよき伝統である「こころの日」の取組を、子どもの実態に合わせて内容や取り組み方を改善していく。 ・「あいさつ」に関しては、子どもたち、特に高学年児童から刺激していきたい。そのために児童会を中心に動くことをうながしていく。 重点目標の達成状況、次年度の課題 ・本校児童の課題として、「他者」や「他者の気持ち」に目を向けることができなかつたり、避けようとしたりする子が多いことが明らかになった。 ・「他者」にもっと目を向けられるよう、「進んで役割を果たす」ことができるような子の育成に力を入れていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・「あいさつ」はやはり大切にしたい。以前よりずいぶんあいさつできる子が増えたように思うが、確かに高学年は目立たない。仕方ない部分はあると思うが、それでもがんばる姿を見せてほしい。 ・「あいさつしてよかった。」と思える経験を積み重ねることが大切ではないか。それが次につながるはず。

### (3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	「ゆたかな子ども時代」～「夢中になる」「自然と笑顔が生まれる」つながる遊び
具体的な取組	・毎週火曜日の「ロング昼休み」を維持し、子どもが思い切り遊べる時間を保障するとともに、 <b>児童会活動・縦割り活動の活性化</b> を図る。 ・「 <b>薬物乱用防止教育</b> 」・「 <b>情報モラル教育</b> 」を全学年で同一時間に実施、授業参観も行い児童・保護者双方を啓発する機会とする。 ・朝の帯時間を活用した <b>全校統一の保健指導(ほけんの日)・安全指導(安全の日)の実施</b> により全学級において指導しきる。 ・適切な判断と行動のできる子ども・教職員を育成するために、 <b>教職員一人一人の危機管理意識向上をめざす研修・訓練を積極的に展開</b> したり、 <b>さまざまな想定の下で避難訓練を実施</b> したりする。
(取組結果を検証する) 各種指標	・「薬物乱用防止教育」や「情報モラル教育」の参観授業での子どものワークシートの記述内容点検結果と保護者アンケートの結果と内容。 ・児童及び保護者アンケートの結果。 該当項目 ㉒休み時間には、友だちといっしょにたくさん遊んでいますか。(児) ㉓お天気の日には、すすんで外遊びをしていますか。(児) ㉔「ほけんの日」や「安全の日」に学習したことを生かして、命を大切にしていますか。(児) ㉕パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォン・タブレット等を使うときは、おうちの人と決めた約束を絶対に守っていますか。(児) ㉖本校が、生命を守り、健全な心身を育むために、防災・防犯・安全教育や薬物乱用防止教育、情報モラル教育、保健指導に取り組んでいること(保)

### 中間評価

各種指標結果	・児童アンケートの結果。 ・保護者アンケートの結果 → ⑪「プラス評価」：(重要度) 99.0% (実現度) 88.1%
--------	--

※ 当初指標には上げていなかったが、「新・体力テスト」の結果、全学年・全種目で平均値を下回った。	
自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びをする子は多く「ロング昼休み」も定着しているが、外で遊ぶ子がほぼ決まっている。</li> <li>・毎月の「ほけんの日」「安全の日」は定着し、子どもも教職員も保健・安全に対する意識の高まりが見られる。いかに行動につなげていくかが今後の課題である。</li> <li>・細部に至るまで想定した避難訓練や安全・危機管理研修、プール安全研修を通して、教職員の危機管理意識も確実に高まっている。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの気持ちを大切にしつつ、「みんな遊び」の機会を増やしたり、担任が積極的に一緒に外に出たりするなど、普段あまり外遊びをしない子どもたちが体を動かす機会の充実を図る。</li> <li>・子どもたちが運動を好きになるような体育科授業充実に向けた教職員研修の実施。</li> <li>・子どもたちの基礎体力向上のための全校体育の実施。（業間マラソンなど）</li> </ul>
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「薬物乱用防止教育」や「いじめ防止教育」の参観授業での子どものワークシートの記述内容点検結果と保護者アンケートの結果と内容。</li> <li>・保護者アンケートの結果。            ⑪ 本校が、生命を守り、健全な心身を育むために、防災・防犯・安全教育や薬物乱用防止教育、情報モラル教育、保健指導に取り組んでいること（保）</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「体力テスト」の結果には驚いたが、地域的にも仕方ない部分はあると思う。</li> <li>・地域も、ソフトボール教室のように、子どもたちが楽しみながら体を動かせる取組でお手伝いしたいと思う。</li> </ul>

### 最終評価

<b>中間評価時に設定した各種指標結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童アンケートの結果。</li> <li>・ 保護者アンケートの結果            → ⑪「プラス評価」：（重要度）99・4％ （実現度）88・9％</li> </ul>	
自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年がずいぶん減っているが、子どもたちの様子を見てみると、数字ほど少なくないと感じる。冬の時期のアンケートということも影響していると考え。</li> <li>・「日曜参観」や「こころの日参観」での保護者啓発を兼ねた授業は、保護者の評価もあり、有効に働いている。参観の人数も多い。</li> <li>・教職員の訓練は、あらゆる事態を想定し、真剣に取り組むことで危機管理意識が高まっている。</li> <li>・子どもの避難訓練では、真剣さが足りない児童も見られ、指導が必要である。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して保護者の啓発をうながす取組は今後も続けていきたい。学校体制で授業内容を検討することで、よりよい授業が構築でき、教員の指導力向上にもつなげることができる。</li> <li>・子どもたちの「避難訓練」も見直しが必要で、事前の予告なしで行う訓練で、自分たちで考え、動ける力をつけていきたい。</li> </ul>
	<b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成に向けて少しずつではあるが進捗していると感じられるので、取組の方向性は維持しながら、上記のような改善を加えながらさらに取組の向上を図りたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年も地震や台風など、大きな自然災害があったので、訓練の大切さを実感している。子どもたちにもくり返し大切さを伝えていってほしい。</li> </ul>

### （４）学校独自の取組

<b>重点目標</b> ◆「豊かな心」を育む小中一貫教育の推進 ～「規範意識」「自立・自律の心」「自己有用感」～	
<b>具体的な取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の目標やめざす子ども像、教職員像を教職員が常に意識し、「地域の子は地域で育てる」「義務教育9年間の学びと育ちを保障する」という自覚を高める。</li> <li>・エリア4校共通の規範、規律、マナー、宣言等を徹底、浸透させる。</li> <li>・児童・生徒共通の学習規律『七条中エリアの子』を全教室に掲示する。</li> <li>・エリア4校児童・生徒の宣言『七条中エリア 子どもの本気』の実践に向け、児童会が中心となって具体的な取組を考える。</li> <li>・教職員が授業交流に参加しやすい体制作りを進めるとともに、他校の取組の意義や視点を共通理解のうえで参加できるようにする。</li> <li>・エリアの合同行事においては、「キャリア」の視点も含めて、事前・事後学習、ふりかえりを丁寧に行い、「つながり」を意識させる。「キャリアノート」を使ってキャリア発達や自己有用感につなげる。</li> </ul>	

<b>(取組結果を検証する) 各種指標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同行事前後に行う子どもたちの「ふりかえり」(キャリアノート)の点検結果。</li> <li>・授業交流や合同研修会後の教職員レポートなどの記述内容。</li> <li>・児童及び保護者アンケートの結果。            該当項目 ⑬七条中エリア4校が、児童・生徒主体の学習・授業をめざしていること(自立・自律の心を育てるために)(保)</li> <li>⑭七条中エリア4校が、「あいさつ運動」等の交流を通して児童・生徒のつながりを築こうとしていること(自己有用感を育てるために)(保)</li> <li>⑮七条中エリア4校が、児童会・生徒会による主体的な取組を促していること(規範意識を育てるために)(保)</li> <li>⑯七条中エリア4校が、「子どもの本気・大人の本気」等共通の目標を掲げて、地域と共に子どもの学びと育ちに取り組んでいること(保)</li> </ul>	

## 中間評価

<b>各種指標結果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの結果。            → ⑬「プラス評価」:(重要度) 96.1% (実現度) 83.6%</li> <li>→ ⑭「プラス評価」:(重要度) 95.1% (実現度) 78.6%</li> <li>→ ⑮「プラス評価」:(重要度) 95.6% (実現度) 75.8%</li> <li>→ ⑯「プラス評価」:(重要度) 95.3% (実現度) 76.4%</li> </ul>	
自己評価	<b>分析(成果と課題)</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携に取り組む組織を整理したことで、担当の教職員と取組の内容が明確になり、小中それぞれの教職員の動きが活性化した。</li> <li>・合同行事を精選し、早い段階から年間行事に位置づけることで教職員が見通しを持ち易くなった。</li> <li>・教職員が見通しをもつことで、子どもたちに対して適切な意識づけや指導が行えるため、子どもたちが意欲的に参加できるようになってきた。</li> <li>・発信できる内容も充実してきたため、保護者にとっても小中一貫の取組が見えやすくなっており、「実現度」の上昇につながっていると思われる。</li> <li>・教職員には人事異動があるため、毎年共通理解を図ることから始める必要がある。4月当初に合同研修を行ったが、共通理解が十分とは言えなかった。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も小中合同行事を予定しているが、予定が明確なため、よりよい取組になるよう実施方法や事前・事後の学習を充実させていく。</li> <li>・子どもたちのいきいきした活動を積極的に発信し、保護者の理解につなげていきたい。</li> <li>・担当の教職員同士の連絡が密になれば、取組が充実すると考える。また、担当者だけでなく、管理職や教務主任を中心に、学校全体で教職員の共通理解を促す必要がある。</li> </ul>	
<b>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</b>	
※ こちらも、敢えて前回と同じ指標で検証し、変更について分析を加えていきたい。	
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携の取組がどんどん活発になっているように感じる。</li> <li>・(小中の取組)は、どうしても見えにくいところもあるので、どんどん発信することが大切だと思う。</li> </ul>	

## 最終評価

<b>中間評価時に設定した各種指標結果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの結果。            → ⑬「プラス評価」:(重要度) 96.9% (実現度) 80.5%</li> <li>→ ⑭「プラス評価」:(重要度) 97.5% (実現度) 83.0%</li> <li>→ ⑮「プラス評価」:(重要度) 96.7% (実現度) 79.7%</li> <li>→ ⑯「プラス評価」:(重要度) 96.4% (実現度) 76.3%</li> </ul>	
自己評価	<b>分析(成果と課題)</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、小中の合同行事をしばらく、年間計画に位置付けることで、見通しをもちながら、つながりを意識して取り組むことができた。</li> <li>・組織の整理がうまくいき、各セクションが自立して取り組むことができた。</li> <li>・教職員間の共通理解が不十分でばらつきが出るとともに、多忙感や負担感が増してしまった。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに行事を精選、組織もスリム化を図り、共通理解と共通実践を図る。</li> <li>・合同研修会の内容を見直し、目標や意識の統一化をめざしていく。</li> <li>・小学生や中学生の声や感想を交流しあい、子どもたち同士が「交流してよかった。」と思えるようにしたい。</li> </ul>	
<b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標として定着し、組織も動き出したので、これを維持しながら取組を進めていく。</li> </ul>	
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おそうじし隊」はダイナミックな取組なので、もっともっとよりよいものにしたらいと思う。せつかく清掃活動で地域に出るので、地域とのタイアップも考えてみたらどうか。</li> </ul>	

学校評価のねらい

学校が適切な説明責任を果たすと共に、学校教育目標達成のために保護者・地域住民の皆様からの理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを推進する。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法	
中間評価	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営理念及び学校教育目標の掲示</li> <li>組織決定</li> <li>教育指導計画の作成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営理念、学校教育目標（学校だより）</li> <li>学校評価年間計画の公表（HP）</li> </ul>	
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価委員会 評価項目の検討</li> </ul>			
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 1 回保護者アンケートの実施（休日参観）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 1 回学校運営協議会 学校教育方針の説明</li> </ul>		
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期学校評価アンケートの実施 生徒・保護者・教職員</li> </ul>			
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の実施 各分掌、各学年、各教科の結果分析 教育活動後半に向けての改善策</li> </ul>			
	9				
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 2 回保護者アンケートの実施（文化の部・体育の部）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 2 回学校運営協議会による評価の実施（学校関係者評価）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期評価の分析、結果、改善策の公表（学校だより・HP 等）</li> </ul>	
	11				
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期学校評価アンケートの実施 生徒・保護者・教職員</li> </ul>			
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の実施 各分掌、各学年、各教科の結果分析 次年度に向けての改善策</li> </ul>			
	年間評価	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価委員会 評価項目の検討 次年度取組の方向性など検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 3 回学校運営協議会により評価の実施（学校関係者評価） 次年度方針の説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間評価の分析、改善策の公表（学校だより・HP 等）</li> </ul>
		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の方針の共通理解</li> </ul>		

# 平成30年度 七条中学校学校経営方針

## 1. 教育目標

クリエイティブ  
「自主・自律・創造」  
～社会や人とのつながりの中で、自らを律し主体的に学び、  
たくましく未来を創造する生徒の育成～

## 2. めざす生徒像「より良く判断できる生徒」

- ・いのちを大切に、多様な価値観を認め合いながら、互いに尊重しあう生徒
- ・優しさと思いやりを持ち、集団の一員として貢献できる生徒
- ・自ら主体的に学ぶ生徒
- ・自らを律し決まりを守る礼儀正しい生徒

## 3. めざす教職員像「学び続ける教職員」

- ・生徒の育ちを常に教育活動の中心に据えて行動できる教職員
- ・授業を大切に、生徒に学ぶ喜びを与える教職員
- ・常に自己研鑽に励み、互いに学び合い高め合う教職員
- ・周囲と協働しながら学校運営に参画しようとする教職員
- ・教育公務員としての使命感と社会的責任感を持ち、子どもや保護者との信頼関係を構築する教職員

## 4. めざす学校像「改革を続ける学校」

- ・生徒の命を守りきる学校
- ・信頼される学校  
生徒が「行きたい」と思う学校、教職員が誇りを持てる学校、保護者や地域が自慢にできる学校
- ・秩序があり安心安全で美しい学校
- ・地域コミュニティの核となる学校

## 5. 学校経営方針

「地域の公立中学校としての使命を自覚し、教育者としての自覚を持って、  
全教職員が協働し社会に開かれた学校教育を推進する。」  
公教育に求められているものが「子どもたちの生きる力の育成」と「地域コミュニティの創造」であることの  
認識を深め、開かれた学校づくりを推進する中で、「信頼され誇りに思える学校づくり」を具現する。

### (1) 教職員 教職員満足度の高い職場づくり

- ①職場環境の整備      ②勤務時間の縮減      ③キャリア支援

### (2) 学校組織

- ①報・連・相の徹底  
②有効なPDCAに基づくカリキュラム・マネジメントの充実

子どもの姿や各種データ（中間反省・学校評価アンケート、社会性変容調査、学習確認プログラムなど）に基づき、年2回以上のサイクルで教育課程を編成・実施・評価・改善する。

### (3) 学習指導

「基礎的な学力」と「汎用的（活用型）な学力」のバランスの取れた学力向上を目指す。

- ①各教科領域の目標を実現させる手立てとして、言語活動を充実させる。  
②ICT機器や学び合い手法の活用等を積極的に進め、発問を磨き、「主体的・対話的で深い学び」の構築に努める。  
③個に応じた指導に心がけ、生徒一人一人の力を着実に伸ばす。



- ④「学習確認プログラム」「全国学力・学習状況調査」等の結果をもとに生徒の学力の実態を分析して、指導計画の工夫・改善に心がけ、生徒が自ら学ぼうとする姿勢を培う。
- ⑤「総合的な学習の時間」のねらいや学習内容を明確にし、探究力・課題解決能力を育成する。
- ⑥キャリア教育の視点に立ち、自らの在り方や生き方を考えさせ行動力育成につながる学習指導を行う。
- ⑦家庭学習の充実をねらい、生徒の「やる気」を起こさせる課題の開発を行う。
- ⑧読書指導（朝読書の充実）・図書館教育の一層の充実（図書室を利用した授業）を図る。

#### (4) 生徒指導

望ましい人間関係づくりの場を意図的に提供することで、すべての生徒の自己有用感を育み、予防教育的生徒指導を推進する。

- ①組織的生徒指導を行う。校内生徒指導体制を組み、S. C. や関係機関、小・高、地域との連携を大切にして、生徒をチームで指導する。
- ②家庭訪問やこまめな連絡を大切にし、保護者・生徒との信頼関係を築き上げる。
- ③学級、学年、生徒会、部活動等の組織経営は、指導法の共通理解を徹底し、長期的な展望を持って計画的に指導を行う。
- ④生徒会活動の更なる発展を目指す。（リーダー育成、自治能力・課題発見・解決能力の向上）
- ⑤体罰を始め不適切な指導の根絶と忍耐強い指導を心掛ける。また、教職員及び学校の危機管理能力を高める。  
※学校安全、防犯対策に加えて、生徒への指導の在り方についての改善を図り、危機の未然防止に努める。
- ⑥総合育成支援教育への理解を深め、家庭と学校が一体となって個に応じた適切な指導を実践する。

#### (5) 豊かな心

- ①道徳教育の充実 小中一貫のテーマ：「規範意識の高まり」と「自立・自律の心」「自己有用感」を育む 新学習指導要領の趣旨・内容に対する正しい理解を共有し、具体的実践を展開する。評価の試行を行う。
- ②人権教育の充実 学校教育のあらゆる場面で「命を大切にし人権を尊重する心」を育む。人権学習プログラムの充実を図る。
- ③自己有用感 小学校や地域と協働し、教育課程の中で全ての子どもの自己有用感を育む予防的生徒指導に取り組む。

#### (6) 健やか教育

- ①教科・領域活動、生徒会活動、体育学習および運動部活動、保健指導等を連動させることで「保健教育」をより効果的に推進する。
- ②基本的生活習慣の確立に努め、本校生徒の課題に応じた具体的取組を強化する。
- ③学校教育全体を通して安全教育・防災教育を展開する。

#### (7) 学校環境改善

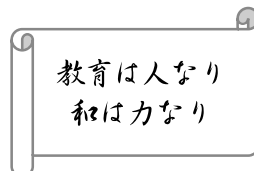
- 「経理・庶務部」を中心に他の部署との連携により、学校・学習環境の改善を持続的に行う。
- ①学校予算が年々削減される中、教育活動への影響を最小限に抑えるため、学校予算全てに渡ってより有効な執行や節約に心がける。また、光熱水費や役員費等の具体的節減対策を実施する。
  - ②物品等の整理・廃棄を推進し、美化に努め、安心安全で活動の意欲が高まる教育環境を整える。

#### (8) 社会と共にある学校づくり

- ①社会に開かれた教育課程を編纂する。
- ②小中連携会議を定例化し、連携の取組を通して義務教育9カ年を見通した子どもの育ちを推進する。
- ③各種便りやホームページを活用して、学校の情報を積極的に外部に発信する。
- ④学校運営協議会との連携により学校経営に外部の視点を入れ、外部資源の活用を図る。
- ⑤地域の各種団体との連携により、地域とのネットワークを充実させ、地域ぐるみの教育を推進する。

## 6. 今年度の重点取り組み

- ①授業改善を中心に据えた協働的な教職員集団の構築
- ②働き方改革の推進
- ③人権教育・道徳教育の研究と推進
- ④広報活動の充実
- ⑤教育環境整備



#### 【参考】新学習指導要領の要となる理念

- ①社会に開かれた教育課程
- ②カリキュラム・マネジメント
- ③資質・能力
- ④主体的・対話的で深い学び
- ⑤教科等の見方・考え方

## 七条中学校の学校評価について

### 1 評価のねらい

- ・学校教育目標の達成に向けて、現状を把握すると共に、教育活動の検証を行う。
- ・学校が適切な説明責任を果たすと共に、学校教育目標達成のために保護者や地域住民からの理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを推進する。

### 2 重点評価項目

- ・「確かな学力」の育成・・学校が、わかる・楽しい授業をめざしていること
- ・「豊かな心」の育成・・エリア4校が連携して社会性育成に取り組んでいること
- ・「健やかな体」の育成・・学校が薬物乱用防止教室などに積極的に取り組んでいること
- ・「地域と共にある学校づくり」の推進・・学校と家庭が、社会に関心のある子どもの育成に取り組んでいること

### 3 評価手法

- ・学校評価のためのアンケート（生徒・保護者・教職員）
- ・学校行事（日曜参観・体育祭・文化祭・など）の保護者参観アンケート
- ・学習確認プログラム・全国学力学習状況調査等の結果
- ・社会性変容調査

上記の調査・アンケートの結果を、教科会・教科主任会・生徒指導部会・学年会で分析し、「学校評価係（管理職・家庭教育主任・学習指導部長・生徒指導主任）」が集約する。

### 4 アンケート結果等による分析

#### (1) 「確かな学力」の育成について

生徒の「授業中友達と話し合う場面があること」・教職員の「発問を磨き、協働が発生する授業を心がけていること」の重要度、実現度が高くなった。対話的・協働的に学ぶ時間が増えていることが考えられる。一方で、生徒の「家庭で1時間以上学習すること」・教職員の「家庭学習課題を定期的に出すとともに、点検・評価で生徒の学習意欲を引き出すこと」が低くなった。授業だけでなく、家庭学習の充実に向けた取組を見直す必要がある。

#### (2) 「地域と共にある学校づくり」の推進について

「地域ボランティアに参加する」の実現度が低い。保護者アンケートからは、保護者が子どもを地域行事に参加させることを重要だと考えていないことがわかる。このような地域・家庭の実態が「社会で起こっている出来事への関心の薄さ」や「自己有用感の低さ」につながっていると分析する。学校が地域と子どもを繋いでいく必要がある。

### 5 自己評価

- ・学校評価実施報告書を参考

## 6 学校関係者評価

- ・学校評価実施報告書を参考

## 7 総括・次年度に向けた課題等

- ・各種アンケートや調査の分析を行い、結果を教職員や保護者・地域と共有するまでは適切に運用しているが、結果を基に地域や保護者と解決策や改善策を考え実践するところはまだ不十分である。
- ・「豊かな心」については、エリア4校で共に実施している社会性変容調査の結果を、エリア全体で共有し、次年度の活動計画に活かすことが出来た。しかし、その他のアンケートや、学力調査の結果に関しては、エリア全体で十分に共有・活用できていない。特に「確かな学力」の育成に関して、エリア4校で学校評価を活用していきたい。
- ・今後、教職員アンケートの分析に力を入れ、教職員の意識や実態を的確に把握し、内部資源の最大限の活用を図りたい。

# 七条中学校だより

自・主・自・律・創・造 (クリエイティブ)

## 生徒アンケートより

3年生

質問項目	重要度	満足度	二尺度
学校の行事が上手であること	4.7	4.6	27.8
授業の中で、友達と一緒に学ぶ機会があること	5.2	4.9	15.2
授業中、先生から話をすること	5.1	5.2	25.2
学校での勉強すること	5.3	5.0	32.9
友達と遊ぶこと	5.2	4.8	27.7
ルールを守り、マナーを心がけること	5.9	5.9	18.3
友達と仲良くすること	5.8	5.7	15.0
自分の好きなことをすること	5.3	5.2	17.7
自分が、喜んで人に話をすること	4.1	4.4	22.7
一人ひとりが得意なことに挑戦すること	4.4	4.7	21.8
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2

2年生

質問項目	重要度	満足度	二尺度
学校の行事が上手であること	4.6	4.2	35.6
授業の中で、友達と一緒に学ぶ機会があること	5.0	4.6	18.0
授業中、先生から話をすること	5.1	5.2	27.5
学校での勉強すること	5.3	5.0	32.9
友達と遊ぶこと	5.2	4.8	27.7
ルールを守り、マナーを心がけること	5.9	5.9	18.3
友達と仲良くすること	5.8	5.7	15.0
自分の好きなことをすること	5.3	5.2	17.7
自分が、喜んで人に話をすること	4.1	4.4	22.7
一人ひとりが得意なことに挑戦すること	4.4	4.7	21.8
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2

1年生

質問項目	重要度	満足度	二尺度
学校の行事が上手であること	4.7	4.6	27.8
授業の中で、友達と一緒に学ぶ機会があること	5.2	4.9	15.2
授業中、先生から話をすること	5.1	5.2	25.2
学校での勉強すること	5.3	5.0	32.9
友達と遊ぶこと	5.2	4.8	27.7
ルールを守り、マナーを心がけること	5.9	5.9	18.3
友達と仲良くすること	5.8	5.7	15.0
自分の好きなことをすること	5.3	5.2	17.7
自分が、喜んで人に話をすること	4.1	4.4	22.7
一人ひとりが得意なことに挑戦すること	4.4	4.7	21.8
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2

全学年とも「反だちを大切にすること」「ルールを守りマナーを大切にすること」の実現度が高く、七中生の良さが出ています。「あいさつ」の項目が少し変わり、「自ら進んで気持ちの良いあいさつをする」となり、実現度が少し下がりました。七中生の自慢である「あいさつ」にこれからは主体的に取り組んでほしいと思います。「家庭で1時間以上勉強する」と「地域ボランティアに参加する」の実現度が低いです。これを機会に、お家の人と「家庭や地域での過ごし方」を覚えてみて下さい。

## 前期学校評価について報告します

平成30年度前期学校評価を実施しました。保護者の皆様には、アンケートのご協力をありがとうございました。学校で分析した結果は、10月24日の学校運営協議会にて報告し、ご意見を頂いています（学校関係者評価）。  
各種アンケートや学力のデータ等をもとに、今後「学校が取り組んでいくこと」「ご家庭で協力をお願いしたいこと」をまとめました。ご一読いただき、今後の取組にご協力いただけますよう、よろしくお願いたします。

### 保護者アンケートより

**「重要度」「満足度」「二尺度」の数値の計算方法について**  
 「とても重要である」 / 「とても出来ている」.....7点  
 「やや重要である」 / 「やや出来ている」.....5点  
 「あまり重要でない」 / 「あまり出来ていない」.....3点  
 「重要でない」 / 「出来ていない」.....1点

質問項目	重要度	満足度	二尺度
学校の行事が上手であること	4.7	4.6	27.8
授業の中で、友達と一緒に学ぶ機会があること	5.2	4.9	15.2
授業中、先生から話をすること	5.1	5.2	25.2
学校での勉強すること	5.3	5.0	32.9
友達と遊ぶこと	5.2	4.8	27.7
ルールを守り、マナーを心がけること	5.9	5.9	18.3
友達と仲良くすること	5.8	5.7	15.0
自分の好きなことをすること	5.3	5.2	17.7
自分が、喜んで人に話をすること	4.1	4.4	22.7
一人ひとりが得意なことに挑戦すること	4.4	4.7	21.8
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2
様々な得意分野で活躍すること	5.0	5.0	12.2

全般的に二尺度が高くなってきています。この結果を真摯に受け止め、授業改善や小中連携、地域・家庭との連携、情報発信などの部分で期待に応えられるよう改善に努めます。  
学校行事や地域行事に参加することの重要度が低いことが気になります。昨年度も同様の発信をしましたが、子どもたちは身近な社会とのつながりの中で学びを通して、自分の活動によって社会を良くしたり出来たなどの実感を持つことが出来ます。そうした実感は「より良い社会づくりを担っていく」とする意欲につながります。機会を見つけて子どもたちを地域に出していきましょう。

## 全国学力・学習状況調査の結果および生徒質問紙より

### 総合結果【国語・算数・理科】

どの教科も、全て全国平均を上回っています。また、無答率が低く、生徒が問題に向き合い最後まで諦めないで取り組もうとする姿勢が育まれています。

**【国語】**  
登場人物の行動の意味を考えたり、文章の展開から内容を捉えたりする「読む力」、語句や慣用句を文脈の中で的確に用いる「言葉の力」に弱さが見られます。引き続き週末課題で読書力を磨き、積極的に読書に取り組んでください。

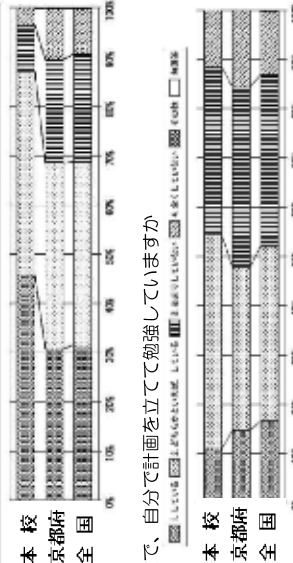
**【算数】**  
ただ公式や用語を暗記するだけでは、問題を解くときに役に立ちません。「なぜこの方法で解くのか」「この用語の意味は何か。を理解しながら学習を進めましょう。

**【理科】**  
科学的な概念・表現を理解する「活用」に関する記述式問題では、理解が足りず、学習できないが考えたり、自分の考えを説明しただり表したりすることに積極的に取り組んでいきたいと思います。

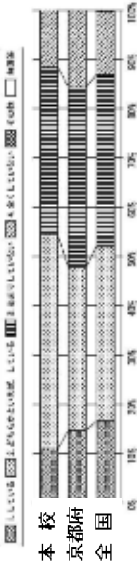
### 生徒質問紙より

口将来の夢を持っていますか

また、夢や目標を決めていない生徒もいると

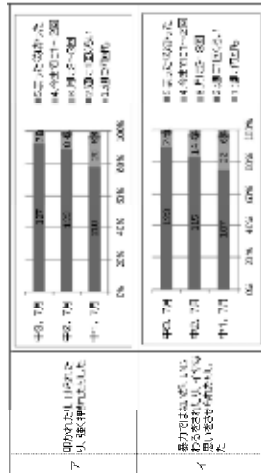


口家で、自分で計画を立てて勉強していますか



## 社会性変容調査より（いじめ・自己有用感・規範意識など）

（平成27年度より、エリア4校で「社会性・いじめ」に関する調査を続けています。）



※過去3年間の「いじめ被害」のデータの推移（図中3）

## 学校運営協議会より（学校関係者評価）

10月24日に学校運営協議会を開催しました。理事の皆様にも前期学校評価（自己評価）の結果を報告し、ご意見をいただきました。

- 口地域での子どもたちの表情が明るくなった。登下校時の歩き方や挨拶も良くなってきている。
- 口地域とのつながりを大切にしている学校であることが嬉しい。学校が地域をつないでいる。
- 口小中連携に継続して取り組んでいる成果が現れている。
- 口保護者にも挨拶や規範意識の重要性を理解してもらったことが必要だ。



- 口小学校と中学校の違いや、小中連携の意義などを、改めて保護者に理解してもらった必要があると考えます。
- 口学年や学級によって指導が統一されていない点がある。指導すべき所は足並みをそろえて、厳しくしっかりと指導してほしい。

## 各種アンケートや校長の書信より

### 「今後学校が取り組んでいくこと」

#### 口豊かな学力

- ・子どもたちが楽しく変化する未来社会に対処できる学力を身につけられるように、引き続き「アクトティブ・ラーニング」の視点から授業研究を進めていきます。
- ・学校における学習規律の定着を徹底します。
- ・生徒が主体的に取り組める家庭学習課題を工夫します。
- ・「総合的な学習の時間」のカリキュラムを見直し、子どもたちのキャリア発達を促されるプログラムを充実させます。

#### 口豊かな心

- ・主体的な生徒活動を支援します。
- ・小学校や地域と連携し、子どもたちの自己有用感を育む活動を充実させ、いじめ等生徒指導上の問題行動の未然防止に努めます。

#### 口健やかな体

- ・保健の授業や保健室により、委員会活動等を充実させて、睡眠の大切さや食習慣の見直しなど、基本的な生活習慣の確立に取り組めます。

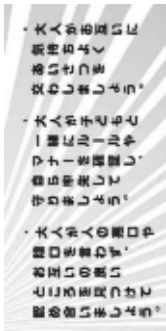
#### 口地域と共にある学校づくり

- ・「防災トーク」などの地域共同事業を充実させると共に、積極的な情報の発信に努めます。
- ・学校運営協議会等とも連携して、地域における子どもたちの活躍の場（地域行事のボランティアなど）の拡大に取り組めます。

### 「ご家庭で協力をお願いしたいこと」

- ・子どもは大人の背中を見て育ちます。私たち大人も足並みをそろえて「七中エリア・大人の本気」を実践していきましょう。
- ・子どもは地域で育ちます。地域における多様な学びは、子どもたちをたくましく成長させてくれます。地域行事などには積極的に子どもへの参加を促してください。
- ・子どもは家族に認めてほしいと願っています。家族に認められているという実感が、子ども自身を持たせます。ご家庭で子どもの話を聴く時間を、できるだけたくさん作ってください。

〈七中エリア 大人の本気〉



# 七条中学校だより

自主・自律・創造

## 後期学校評価について報告します

平成30年度後期学校評価を実施しました。保護者の皆様には、アンケートのご協力ありがとうございました。学校で分析した結果は2月26日の学校運営協議会にて報告し、ご意見を頂いています（学校関係者評価）。ご一読いただき、今後の取り組みにご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### 「重要度」「実現度」の計算方法について

「とても重要である」/「とても出来ている」・・・7点  
 「やや重要である」/「ややできている」・・・5点  
 「あまり重要でない」/「あまり出来ていない」・・・3点  
 「重要でない」/「出来ていない」・・・1点

### ニーズ度の計算方法について

重要度 × (8 - 実現度)  
 ニーズ度の最高ポイントは49  
 ニーズ度が25ポイントを超える項目は青いセルになります。

## ○保護者アンケート

質問項目	7月			12月		
	重要度	実現度	ニーズ度	重要度	実現度	ニーズ度
学校が、「わかる・できる・楽しい」授業をめざしていること	6.7	4	26.8	6.7	4.3	24.8
学校が、集団での学び合いを大切にしていること	6.5	4.4	23.4	6.3	4.8	20.2
子どもが家庭で読書すること	6	3.1	29.4	5.8	3	29
学校が、授業と家庭学習をつなげて学力を高めようとし、家庭もその環境づくりに協力すること	6.3	3.8	26.5	6.3	4	25.2
七条中ブロック4校が連携して、ルールやマナーの大切さを指導していること	6.3	3.7	27.1	6.1	4.5	21.4
七条中ブロック4校が連携して、いじめや暴力を許さない学校づくりに努めていること	6.7	3.7	28.8	6.8	4.5	23.8
七条中ブロック4校が連携して、「あいさつ」の習慣化に取り組んでいること	6.4	4.1	25	6	5	18
家庭の中で挨拶(おはよう、おかえりなど)すること	6.6	5.3	17.8	6.6	5.3	17.8
七条中ブロック4校が連携して、人の役に立つ活動を通じて自己有用感を育む教育を大切にしていること	6	3.2	28.8	6.1	4	24.4
子どもと一緒に食事(朝ご飯・夕ご飯)をとること	6.4	5	19.2	6.3	5.1	18.3
子どもが8時間程度の睡眠をとること	6	3.4	27.6	6.3	3.8	26.5
学校が、健全な心と体を育むために、薬物乱用防止教室や情報教育、保健指導に取り組んでいること	6	3.7	25.8	6.6	5.1	19.1
親が子どもに家族の一員として役割を持たせること	6.4	4.1	25	6.5	4.4	23.4
PTA活動・学校行事・懇談会に参加すること	4.3	3	21.5	5.4	4.1	21.1
子どもが地域行事やボランティア活動に参加すること	4.6	2.2	26.7	5.6	3.5	25.2
学校が、ホームページやおたより、掲示板などで積極的に情報発信していること	4.4	1.9	26.8	5.9	5	17.7

全般的に実現度が7月アンケート時よりも高くなった傾向があります。データから読み取れることを見ていくと、「学方面で授業や学び合いを大切にしている」、の実現度がやや高くなっている部分があり、生徒アンケートの授業の中で「友達と話しかける場面がある」ことの実現度とリンクしています。授業改善の一部に成果が出てきていますが、より一層「授業」で保護者の皆様にも評価して頂けるように、授業改善に取り組み続けていきます。また、「家庭で読書すること」の重要度が低くなっています。生徒アンケートでも「学校外で読書すること」の重要度が低く、本を読むことのメリットをさらに発信していく必要性を感じています。七条中エリア全体で取り組んでいる「あいさつ」については、保護者アンケートでの実現度は高くなりましたが、生徒アンケートでは「自分から進んで気持ちの良い挨拶をする」の実現度が低くなっています。主体的にあいさつができるように、七条中エリア全体で足並みをそろえて取り組みます。また、開かれた学校の数値は重要度、実現度が高くなりました。今後も積極的に地域の行事に参加することを呼びかけていきます。

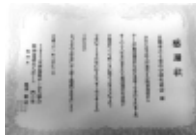
## ○教職員アンケート

質問項目	7月			12月		
	重要度	実現度	ニーズ度	重要度	実現度	ニーズ度
授業の目標を明示し、前時までの復習を取り入れること	6.3	5	18.9	6	4.3	22.2
発問を磨き、学習集団として協働が発生する授業を心がけていること	6.1	4.4	22	6.6	4.6	22.4
教科や領域、単元の特性に応じた言語活動を適切に位置付けるようにしていること	6.2	4.5	21.7	6.3	4.4	22.7
生徒に読書の楽しさを伝え、学校外でも読書をするように働きかけること	5.9	3.9	24.2	6.1	4.1	23.8
生徒が意欲・関心を持てる家庭学習課題を定期的に出すとともに、点検・評価で生徒の学習意欲を引き出すこと	6.2	4.6	21.1	6.3	4.3	23.3
ルールを徹底し、マナーを推奨するという一貫した指導を行うこと	6.4	4.8	20.5	6.5	4.7	21.5
校内にいじめ・暴力が存在する可能性を認識するとともに、予防的生徒指導に取り組むこと	6.6	5.3	17.8	6.9	4.8	22.1
あいさつの習慣化に向け、学校や自身が行っている(心がけている)ことを説明できること	5.9	4.6	20.1	5.9	4.5	20.7
生徒の自己有用感が高まるような機会づくりを教育課程の中で行うこと	6.2	4.1	24.2	6.5	4.4	23.4
生徒が自ら判断・決定し、実行する「ボトムアップ」の仕組みを行うこと	6.1	3.3	28.7	6.4	3.8	26.9
朝ご飯・8時間睡眠など、基本的な生活習慣の確立に向けて生徒・保護者に呼びかけをすること	6.2	3.8	26	5.8	3.6	25.5
薬物乱用、ICTの普及、性的問題など喫緊の課題に高い関心をもち、正しい情報に基づいて計画的に指導を行うこと	6.4	4.6	21.8	6.5	4.4	23.4
学校行事・公開授業・保護者会など、保護者の方に学校へ足を運んでいただく機会を意欲的に設定すること	5.9	5	17.7	5.6	4.4	20.2
小学校と連携して授業改善や生活指導に取り組むこと	5.8	4.4	20.2	5.3	3.9	21.7
生徒が地域行事やボランティア活動に参加するよう働きかけること	5.3	3.6	23.3	5.4	3.8	22.7
個人情報の保護を意識しながら、七中教育の魅力や現状を積極的に発信すること	6.1	4.6	20.7	6.1	4.8	19.5

全体を通してまとめると、授業では「発問を磨き、協働が発生する授業を心がけていること」の重要度、実現度は高くなっていますが、「授業の目標を明示し、復習を取り入れること」の重要度・実現度は低くなっています。また、「家庭学習課題を定期的に出すとともに、点検・評価で生徒の学習意欲を引き出すこと」の実現度も低くなっています。この数字を謙虚に受け止め、生徒の良い現状に甘えないで気持ちを引き締めて、教職員の授業力向上に取り組んでいく必要があります。残り少なくなりました今年度、そして来年度に向けて基本に立ち戻り授業改善を見直していきます。開かれた学校に関しては、「保護者の方に足を運んでいただく機会を意欲的に設定すること」や「小学校と連携して授業改善や生活指導に取り組むこと」の重要度・実現度が低くなっています。学校を社会に開いていくことの意義を改めて確認し、教職員が一丸となって家庭・地域と連携しながらより良い学校づくりを目指していきます。「地域行事やボランティア活動に参加するように働きかけること」については重要度も実現度も少し高くなっています。今年度、ボランティアとして地域で生き生きと活躍してきた生徒の姿を見て、教職員の地域と連携することに対する理解が深まったのだと考えます。さらに継続して地域行事への参加を呼び掛けていきます。

## お知らせ 地域の施設に車イスをプレゼントしました！

書き損じハガキ回収運動で、車イスを1台、地域の老人福祉施設にプレゼントすることが出来ました。3月13日、生徒会本部が贈呈式に参加しました。「地域の方がこんなに感謝してくれるとは思いませんでした。とても嬉しかったです。」と感想を話してくれました。多くの方のご協力に感謝します！



感謝状をいただきました



○生徒アンケート(3年)				7月			12月		
	質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	重要度	実現度	ニーズ度		
確	学校の勉強がよく分かること	6.7	4.6	22.8	6.7	4.5	23.5		
か	授業の中で、友達と話し合う場面があること	6.2	4.9	19.2	6	5.1	17.4		
な	授業中、進んで発表すること	6.1	4.2	23.2	6	3.7	26.8		
学	学校外でも読書すること	5.3	3.6	23.3	5.1	3.6	22.4		
力	家庭で1時間以上学習すること	6.2	4.5	21.7	6.1	4.2	23.2		
	ルールを守り、マナーを心がけること	6.5	5.5	16.3	6.6	5.4	17.2		
豊	友達を大切にすること	6.8	5.7	15.6	6.7	5.7	15.4		
かな	自分から進んで気持ちの良い「挨拶」をすること	6.3	5.3	17	6.2	4.9	19.2		
心	ありがとうを声に出して伝えること	6.5	5.4	16.9	6.4	5.2	17.9		
	自分がした事で人に感謝してもらえること	6.1	4.4	22	6	4.3	22.2		
	七条中学校の生徒であることに誇りが持てること	5.4	4	21.6	5.3	3.9	21.7		
	係や委員会の活動、学校行事などに進んで取り組むこと	6.1	4.7	20.1	6.1	4.8	19.5		
	朝ご飯を食べること	6.6	6	13.2	6.5	5.9	13.7		
	8時間程度の睡眠を取ること	6.2	3.8	26	6.2	4.1	24.2		
	パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを扱うときは、家の人と決めた約束により使用すること	5.4	3.5	24.3	5.7	3.9	23.4		
	家庭でお手伝いすること	5.7	3.9	23.4	5.8	4.1	22.6		
	地域行事(祭りや運動会など)やボランティア活動に参加すること	5.1	2.8	26.5	5	3	25		
	学校からのお知らせを保護者に渡したり、その話題で話をする	5.7	4.4	20.5	5.7	4.4	20.5		

○生徒アンケート(2年)				7月			12月		
	質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	重要度	実現度	ニーズ度		
確	学校の勉強がよく分かること	6.8	4.2	25.8	6.7	4.3	24.8		
か	授業の中で、友達と話し合う場面があること	6.3	4.9	19.5	5.9	5	17.7		
な	授業中、進んで発表すること	6.1	3.5	27.5	5.9	3.5	26.6		
学	学校外でも読書すること	5	3	25	5	3.3	23.5		
力	家庭で1時間以上学習すること	6.1	3.8	25.6	5.9	3.8	24.8		
	ルールを守り、マナーを心がけること	6.6	5	19.8	6.6	5.3	17.8		
豊	友達を大切にすること	6.8	5.5	17	6.7	5.6	16.1		
かな	自分から進んで気持ちの良い「挨拶」をすること	6.4	4.9	19.8	6.2	4.8	19.8		
心	ありがとうを声に出して伝えること	6.5	5.3	17.6	6.4	5.1	18.6		
	自分がした事で人に感謝してもらえること	6.2	4.2	23.6	5.9	4.2	22.4		
	七条中学校の生徒であることに誇りが持てること	5.5	4	22	5.3	3.6	23.3		
	係や委員会の活動、学校行事などに進んで取り組むこと	6	4.3	22.2	6.1	4.7	20.1		
	朝ご飯を食べること	6.6	5.7	15.2	6.5	5.9	13.7		
	8時間程度の睡眠を取ること	6	3.6	26.4	6.2	4.2	23.6		
	パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを扱うときは、家の人と決めた約束により使用すること	5.7	3.5	25.7	5.7	3.8	23.9		
	家庭でお手伝いすること	5.9	3.9	24.2	5.8	4	23.2		
	地域行事(祭りや運動会など)やボランティア活動に参加すること	5	2.8	26	4.8	2.9	24.5		
	学校からのお知らせを保護者に渡したり、その話題で話をする	5.9	4.5	20.7	5.7	4.3	21.1		

○生徒アンケート(1年)				7月			12月		
	質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	重要度	実現度	ニーズ度		
確	学校の勉強がよく分かること	6.7	4.8	22.8	6.7	4.3	24.8		
か	授業の中で、友達と話し合う場面があること	5.7	5.1	16.5	5.6	5.2	16.7		
な	授業中、進んで発表すること	6.1	3.6	26.8	5.9	3.5	26.6		
学	学校外でも読書すること	5.1	3.9	20.9	5.2	3.6	22.9		
力	家庭で1時間以上学習すること	6.2	4.3	22.9	6	3.7	25.8		
	ルールを守り、マナーを心がけること	6.5	5.2	18.2	6.6	5.2	16.5		
豊	友達を大切にすること	6.8	5.7	15.6	6.7	5.6	16.1		
かな	自分から進んで気持ちの良い「挨拶」をすること	6.2	5	18.6	6.1	4.8	19.5		
心	ありがとうを声に出して伝えること	6.6	5.6	15.8	6.3	5.2	17.6		
	自分がした事で人に感謝してもらえること	5.8	4	23.2	5.8	4.1	22.6		
	七条中学校の生徒であることに誇りが持てること	5.6	3.8	23.5	5.1	3.5	23		
	係や委員会の活動、学校行事などに進んで取り組むこと	6.1	4.6	20.7	6	4.6	20.4		
	朝ご飯を食べること	6.6	6	13.2	6.4	5.9	13.4		
	8時間程度の睡眠を取ること	6.2	4.2	23.6	6.3	4.4	22.7		
	パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを扱うときは、家の人と決めた約束により使用すること	5.8	4.1	22.6	5.9	4	23.6		
	家庭でお手伝いすること	5.8	4	23.2	5.8	4	23.2		
	地域行事(祭りや運動会など)やボランティア活動に参加すること	5.2	3.2	25	4.7	2.7	24.9		
	学校からのお知らせを保護者に渡したり、その話題で話をする	5.9	4.6	20.1	5.6	4.2	21.3		

○生徒アンケート

7月に引き続き全学年、「友だちを大切にすること」、「ルール守りマナーを大切にすること」の実現度が高く、七中生の良さがでています。あいさつ運動や小中の縦割り活動等を通してさらに実現度がアップできるように取り組んでいきます。学習面では「授業中友達と話し合う場面があること」の実現度が高くなっています。対話的・協働的に学ぶ時間が増えていることが考えられます。しかし「授業中進んで発表すること」・「家庭で1時間以上学習すること」については実現度が少し下がっています。授業で発表する機会を増やすことや宿題の出し方について工夫が必要と考えます。また、「地域行事やボランティア活動に参加すること」の実現度が少し高くなりました。これからは地域行事に積極的に参加できるように、学校から発信して参加を呼び掛けていきます。「七中生の生徒であることに誇りを持つこと」の重要度が低い状態です。自校を愛する気持ちを高められるように生徒の主体的な活動をサポートしたり、行事に主体的に参加できるように取り組んでいきます。

○学校運営協議会より(学校関係者評価)

2月26日に学校運営協議会を開催しました。理事の皆様は後期学校評価(自己評価)の結果を報告し、ご意見をいただきました。

- ・子供がおとなしくなったことは良いのだが、活気がなくなってきた印象があります。元気なあいさつができるようにメリハリがある中学生の姿を期待しています。
- ・部活動の時間に学校へ行くと、顔を見てあいさつしてくれる生徒が多いです。
- ・あいさつは家庭教育力の表れでもある。家庭の中でもあいさつができていますか。あいさつの重要性を保護者にも伝えていく必要がありますね。
- ・学力は読書量の高さと同比例するので家庭でも呼びかけていきたい。
- ・スマートフォンに慣れて、書くことが苦手になっている。また情報だけを何となく知っていて、判断無しに使っていることも気になります。便利だけど諸刃の剣となっているので、家庭・学校・地域が協力して正しい情報の使い方を教えていかなければならない。
- ・定期テストで受験に対応できる問題を作成していただいている。卒業生の子から、高校で七中生が解けて他校の生徒が解けない問題があるという話を聞くと、中学校での勉強が役立っていることがわかります。今後も質の高い授業と作問をお願いいたします。
- ・地域行事のイベントに中学生が貢献してくれています。中学生が地域の活動に参加すると活気が出ます。今後もさらに中学校と地域がつながることを期待しています。
- ・保護者アンケートの自由記載欄を読むと、七条中学校教育に対して誤解をしている保護者がいることがわかる。学校が目的を持ってしっかり取り組んでいることを、学校だよりなどで積極的に発信してほしい。



<b>教育目標</b> 自主・自律・創造 (クリエイティブ) ～社会や人とのつながりの中で、自らを律し主体的に学び、たくましく未来を創造する生徒の育成～	
年度末の最終評価	
自己評価	<p><b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b></p> <p>与えられた行事の中で精一杯取り組むことはでき、創造する力も成長を感じるが、自ら判断し・決定し・実行する力や主体的に取り組むことについては課題が残った。小中連携や地域行事に積極的に参加するなど、社会や人とつながることができた。教職員アンケートからも「生徒が自ら判断し決定し実行する仕掛けを行うこと」の数値が、重要度が高いのに対し実現度が低い状況となっている。主体的に取り組む必要性は認識しながら、実際には取組がうまく機能していないことがわかる。生徒会活動や授業改善を中心に、生徒につけたい力を見直し、様々な取組を通じて主体的に取り組む力を養うこと、成長を実感させるよう学校全体で取り組んでいきたい。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>先生方は一生懸命に取り組んでおられるが、もう少しメリハリのある指導が必要だとも感じている。また、落ち着いた学校になってきた反面、活気が少なくなっているのも気になる所だが、校歌を大きな声で歌っている生徒の姿を見ると、学校が楽しい・学校に誇りを持っていることも伝わってくる。社会とつながる機会も行事の中でたくさんあるので、もっと主体的にあいさつができれば、未来を切り拓く力が培われるのではないかと。われわれ大人もあいさつをしたり、家庭でできることを協力していきたい。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年10月24日	学校運営協議会理事会
最終評価	平成31年2月26日	学校運営協議会理事会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

<b>重点目標</b>	<p>主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング) を実現させる授業を通して、「学びに向かう力」「基礎的な学力」と「汎用的 (活用型) な学力」のバランスの取れた学力を育成する。</p>
<b>具体的な取組</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、思考力・判断力・表現力育成のために授業研究および研修を推進する。(教科会を中心に組織的に取り組む。)</li> <li>外部講師の招へいやICT機器の活用を積極的に進め、外部情報を活用した、わかる授業・魅力ある授業づくりを推進する。</li> <li>個に応じた指導を心がけ、生徒一人一人の力を着実に伸ばす。</li> <li>「学習確認プログラム」等の結果をもとに生徒の学力の実態を分析し、指導計画の工夫・改善を心がけ、生徒が自ら学ぶ姿勢を培う。</li> <li>「総合的な学習の時間」のねらいを明確にし、3ヵ年を見通したカリキュラムに沿って指導する。</li> <li>キャリア教育の視点に立ち、道徳や進路指導とともに自らの在り方や生き方への真摯で深い思考力や行動力を培う指導を行う。</li> <li>課外学習を充実させ、個に応じた教材や指導システムを開発する。</li> <li>家庭学習の充実をねらい、生徒の「やる気」を起こさせる課題の開発を行う。</li> <li>読書指導 (朝読書の充実) ・図書館教育の一層の充実 (図書室を利用した授業) を図る。</li> <li>小学校と連携して「授業規律・学習規律」の定着と学力向上に取り組む。</li> </ul>
<b>(取組結果を検証する) 各種指標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習確認プログラム等の結果。</li> <li>生徒及び保護者アンケートの結果。</li> </ul> <p>該当項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 中学校の勉強がよく分かること (生)</li> <li>② 授業の中で、友達と話し合う場面があること (生)</li> <li>③ 皆の前で自分の考えを発表したり、書いて伝えたりすることができること (生)</li> <li>④ 子どもが家庭で読書をする事 (保)</li> <li>⑤ 学校が、授業と家庭学習をつなげて学力を高めようとし、家庭もその環境づくりに協力すること (保)</li> <li>⑥ 集団の前で、自分の考えを発表したり、書いて伝えたりすることができること。(生)</li> <li>⑦ 授業と家庭学習をつなげて学力を高めようとしていること。(保)</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見。</li> </ul>

中間評価

<b>各種指標結果</b>	
<学習確認プログラム等の結果> (数値略, ↑は前回比)	
1年ジョイントプログラム	総合↑ 国 ↑ 数↓
2年学習確認プログラム	総合→ 国 ↓ 社↓ 数↓ 理↓ 英↓
3年学習確認プログラム	総合↑ 国 ↑ 社↑ 数↑ 理↑ 英↑
<生徒及び保護者アンケートの結果>	
・中学校の勉強がよく分かること	



	<p>3年 重要度 6. 7 / 7 実現度 4. 6 / 7    2年 重要度 6. 8 / 7 実現度 4. 2 / 7  1年 重要度 6. 7 / 7 実現度 4. 6 / 7</p> <p>・授業の中で、友達と話し合う場面があること  3年 重要度 6. 2 / 7 実現度 4. 9 / 7    2年 重要度 6. 3 / 7 実現度 4. 9 / 7  1年 重要度 5. 7 / 7 実現度 5. 1 / 7</p> <p>・皆の前で自分の考えを発表したり、書いて伝えたりすることができること  3年 重要度 6. 1 / 7 実現度 4. 2 / 7    2年 重要度 6. 1 / 7 実現度 3. 5 / 7  1年 重要度 6. 1 / 7 実現度 3. 6 / 7</p> <p>・子どもが家庭で読書をする事  3年 重要度 5. 3 / 7 実現度 3. 6 / 7    2年 重要度 5. 0 / 7 実現度 3. 0 / 7  1年 重要度 5. 1 / 7 実現度 3. 9 / 7</p> <p>・学校が、授業と家庭学習をつなげて学力を高めようとし、家庭もその環境づくりに協力すること  3年 重要度 6. 2 / 7 実現度 4. 5 / 7    2年 重要度 6. 1 / 7 実現度 3. 8 / 7  1年 重要度 6. 2 / 7 実現度 4. 3 / 7</p> <p>・保護者の意見  家庭学習をもっと促してほしい。話し合いの授業が小中連携して多く、しっかり見てもらえている。</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブ・ラーニングの授業が定着しつつあり、話し合い活動や学び合い活動の場面が増えたことで、わかりやすい授業が行われている。</li> <li>・主体的に自分の意見を発表したり、伝えたりすることが分かっていてできていない。読書については生徒だけでなく保護者のアンケートでも重要度が低かった。家庭での読書習慣や自主学習の定着に向け、働きかけが必要である。</li> </ul> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習確認プログラムは普段の授業の積み重ねの結果であるため、学年によって差があることを踏まえて授業を改善していく。具体的には公開授業や研究発表を行い、授業力向上のポイントを共有・実践していくことや、教科会を通して学校全体で教科の授業改善を行っていく。</li> <li>・家庭学習の定着については、教科によって週末課題を設定して自主学習を促す取組を継続し、学校全体で定着させていく。</li> </ul> <p>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標  学習確認プログラムの数値を前回よりも各教科1ポイント上昇  アンケート数値の実現度を1ポイント上昇</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年によってジョイントプログラムなどの結果の伸びにばらつきがあるのが気になる。ここ数年の傾向のように、最終的には上昇することを期待している。</li> <li>・小中連携で授業の研究も進み、小中学校の繋がりが深くなってきていることを感じている。</li> <li>・行事や授業を直接見る機会があったり、ボランティアとして協力したりすることで、直接、子どもの様子がわかるので、これからも参加・協力していきたい。</li> </ul>

### 最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>&lt;学習確認プログラム等の結果&gt; (数値略, ↑は前回比)</p> <p>1年学習確認プログラム 総合↑ 国↑ 社↑ 数↑ 理↑ 英→  2年学習確認プログラム 総合↑ 国↑ 社↑ 数↑ 理↓ 英↑  3年学習確認プログラム 総合↓ 国↑ 社↓ 数↑ 理→ 英↓</p> <p>&lt;生徒及び保護者アンケートの結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の勉強がよく分かること  3年 重要度 6. 7 / 7 → 実現度 4. 5 / 7 ↓    2年 重要度 6. 7 / 7 ↓ 実現度 4. 3 / 7 ↑  1年 重要度 6. 7 / 7 → 実現度 4. 3 / 7 ↓</li> <li>・授業の中で、友達と話し合う場面があること  3年 重要度 6. 0 / 7 ↓ 実現度 5. 1 / 7 ↑    2年 重要度 5. 9 / 7 ↓ 実現度 5. 0 / 7 ↑  1年 重要度 5. 6 / 7 ↓ 実現度 5. 2 / 7 ↑</li> <li>・皆の前で自分の考えを発表したり、書いて伝えたりすることができること  3年 重要度 6. 0 / 7 ↑ 実現度 3. 7 / 7 ↓    2年 重要度 5. 9 / 7 ↓ 実現度 3. 5 / 7 →  1年 重要度 5. 9 / 7 ↓ 実現度 3. 5 / 7 ↓</li> <li>・子どもが家庭で読書をする事  3年 重要度 5. 1 / 7 ↓ 実現度 3. 6 / 7 →    2年 重要度 5. 0 / 7 → 実現度 3. 3 / 7 ↑  1年 重要度 5. 2 / 7 ↑ 実現度 3. 6 / 7 ↓</li> <li>・学校が、授業と家庭学習をつなげて学力を高めようとし、家庭もその環境づくりに協力すること  3年 重要度 6. 1 / 7 ↓ 実現度 4. 2 / 7 ↓    2年 重要度 5. 9 / 7 ↓ 実現度 3. 8 / 7 →  1年 重要度 6. 0 / 7 ↓ 実現度 3. 7 / 7 ↓</li> </ul>
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習確認プログラムの結果から、各学年とも授業改善が成果として表れた部分がある(数値略)。</li> <li>・アンケートの数値からは「友達と話し合う場面がある」の実現度が少し上昇している。</li> <li>・教科会を中心に授業改善を進めているが、教科全体で伸びた部分はまだ成果として現れていない。また、学年でも教科によって成績の差があり、全体を伸ばしていくための工夫が必要である。</li> <li>・アンケートの数値も「中学校の勉強がよく分かること」の実現度が下がっている点を真摯に受けとめ、来年度の研究に繋げていく必要がある。</li> <li>・家庭学習の定着に向けて、宿題の在り方についても改善する必要がある。</li> </ul>

	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習確認プログラムの結果を踏まえて、教科によつての差を埋めるため、成績が良かった教科の取組を公開して共有し、学年・学校全体がレベルアップできるように取り組む。</li> <li>・家庭学習の定着に向けては、宿題や評価基準の設定、保護者への呼びかけ等、自主学習を確立できるように学校全体で取り組む。</li> </ul>
	<p><b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びを実現させる授業のスタイルは浸透してきているが、教科会を中心に授業を構成・構築していくことが必要である。「基礎的な学力」と「汎用的な学力」のバランスのとれた学力の育成について、授業だけでなく、総合や家庭学習を活用して全体的に学力を育成できているかと言えば、まだまだ発展途上である。本校では、教科会を中心に授業を活性化させ、バランスよく学力を高めていく方向で研究を進めており、次年度も引き続き授業改善と学力向上をテーマに取組、学力を伸長させていきたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>七条中学校を卒業した生徒が、「七条中学校の授業は難しかったけど高校で役に立った」ことや、「他校の生徒が難色を示す問題があった時に問題を解くことができた」と話していることから、授業のレベルは高いのではないかと考えている。引き続き学校全体での授業改善の取組を期待している。</p>

## (2)「豊かな心」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の充実：小中一貫のテーマ『「規範意識の高まり」と「自立・自律の心」「自己有用感」を育む』新学習指導要領の趣旨・内容に対する正しい理解を共有し、具体的実践を展開する。評価の試行を行う。</li> <li>・人権教育の充実：学校教育のあらゆる場面で「命を大切にし人権を尊重する心」を育む。人権学習プログラムの充実を図る。</li> <li>・自己有用感の育成：小学校や地域と協働し、教育課程の中で全ての子どもの自己有用感を育む予防的生徒指導に取り組む。</li> </ul>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育推進教師を中心に道徳指導体制を充実させ、すべての教職員が道徳授業の開発にかかわり発達段階に応じて指導内容を厳選していく。また、研究授業や研究協議の機会を多く設定し、重点的に研究を進める。</li> <li>・小学校と連携し、9年間を見通した系統的な人権学習を推進する。</li> <li>・学校生活において、生徒自身の集団生活における規律や規範意識、礼儀、礼節を高めることを目的とした生徒会活動を推進する。</li> <li>・生徒会活動や学級活動等における話し合い活動を通して自主・自律・自治の力を高め、行事の企画や運営・参画を通じて学校や学級への所属意識を高める。</li> <li>・望ましい人間関係づくりの場を意図的に提供することで、すべての生徒の自己有用感を育み、予防教育的生徒指導を推進する。</li> <li>・LD等支援の必要な生徒や不登校生徒とその保護者への組織的な働きかけを行うとともに、総合育成支援教育の観点からも幅広く対応する。</li> <li>・キャリア教育の視点で教育活動全般をつなぎキャリア発達の充実を図るための研修会を開催する。</li> </ul>
<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童及び保護者アンケートの結果。</li> <li>① ルールを守り、マナーを心がけること。(生)</li> <li>② 自ら進んで気持ちのよい挨拶をすること。(生)</li> <li>③ 七条中ブロック4校が連携して、人の役に立つ活動を通じて自己有用感を育む教育を大切にしていること。(保)</li> <li>・4校の社会性変容調査の結果。(生)</li> </ul>

## 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <p>&lt;児童及び保護者アンケート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守り、マナーを心がけること</li> <li>3年 重要度6.5/7 実現度5.5/7 2年 重要度6.6/7 実現度5.0/7</li> <li>1年 重要度6.5/7 実現度5.2/7</li> <li>・自ら進んで気持ちのよい挨拶をすること</li> <li>3年 重要度6.3/7 実現度5.3/7 2年 重要度6.4/7 実現度4.9/7</li> <li>1年 重要度6.2/7 実現度5.0/7</li> <li>・七条中ブロック4校が連携して、人の役に立つ活動を通じて自己有用感を育む教育を大切にしていること 保護者 重要度6.0/7 実現度3.2/7</li> </ul> <p>&lt;社会性変容調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ・暴力」については、5段階中4.5～4.8でどの学年も意識が高く学年が上につれてその意識は向上している。2年生は前回に比べやや数値が低くなっている。「授業」及び「学校生活」については、それぞれ「4」、「4.3」とやや高いが、3年間での変動の仕方は学年により異なっている。</li> <li>・「自己有用感」の項目は、5段階中「3～3.3」程度と上記3項目より低い。</li> </ul>
---

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守り、マナーを心がけることの実現度は高くなっており、挨拶運動等で学校、大人、地域の人への挨拶が浸透してきた。</li> <li>・学年により、ルールやマナーを心がけることの実現度がばらついており、気持ちの良い挨拶となると数値が低い。主体的に挨拶ができるように日常の取組で変化を促したい。また、保護者アンケートでは七条ブロックの取組の実現度が低く、小中連携に課題があることが数字に表れている。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な行動を促すために、あいさつが他人や社会に与える影響を日常や行事、道徳等で提示し続けていく。小中連携での行事は、児童・生徒にプラスになる点を教職員で共通理解し、エリア全体でどのような児童・生徒を育てていくかを考えていきたい。取組への負担感を減らし、エリアの子どものために何ができるかを工夫するようにしていく。</li> </ul>
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> アンケートの実現度を0.5ポイントアップさせる。 社会性変容調査では特に自己有用感の数値を少しでも上昇させたい。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが明るくなった。登校時、子どもがきちんとした態度で歩いている。</li> <li>・地域の行事に中学生が参加して手伝いをしてくれたが、地域のことを大切にすることが育っていくことに繋がると思う。</li> <li>・子どもだけでなく、親にも挨拶の重要性を理解してもらうことが必要。保護者や地域に広げていけるように協力していきたい。</li> </ul>

## 最終評価

	<b>中間評価時に設定した各種指標結果</b> <児童及び保護者アンケート> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守り、マナーを心がけること  3年 重要度6.6/7↑ 実現度5.4/7↓ 2年 重要度6.6/7→ 実現度5.3/7↑  1年 重要度6.6/7↑ 実現度5.2/7→</li> <li>・自ら進んで気持ちのよい挨拶をすること  3年 重要度6.2/7↓ 実現度4.9/7↓ 2年 重要度6.2/7↓ 実現度4.8/7↓  1年 重要度6.1/7↓ 実現度4.8/7↓</li> <li>・七条中ブロック4校が連携して、人の役に立つ活動を通じて自己有用感を育む教育を大切にして  いること 保護者 重要度6.1/7↑ 実現度4.0/7↑</li> </ul>
自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守り、マナーを心がけることの重要度が上昇している。保護者アンケートでは、小中連携が進み、挨拶運動や清掃活動の交流が自己有用感を育む取組について浸透してきている。</li> <li>・ルールを守り、マナーを心がけることの実現度は伸び悩んでいる。頭で理解していても、行動に移せていない部分が見受けられる。「自ら進んで気持ちの良い挨拶をすること」については重要度・実現度ともにやや下がっているが、「自ら進んで」と設定しているためと考えている。地域全体であいさつができることや、主体的にあいさつできる学校をエリア全体で目指していく。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の大切さはわかっているが、行動に移しきれないところが課題である。身近な大人が見本となり、信頼される大人の姿を見せることが重要である。また、生徒が「わかる授業」を目指して授業改善を行い、教員が生徒から信頼されることが規範意識の向上にもつながると考える。</li> <li>・小中合同会議では人間関係ができれば自然とあいさつができるようになるのではないかとこの意見があった。児童会や生徒会が主体となって人間関係を作る環境づくりをしていく。また、教職員も小中連携によって人間関係づくりを進めていけるように促していく。</li> </ul>
	<b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「道徳教育の充実」については昨年に続き評価の試行ができた。規範意識・自立、自律・自己有用感を育む取組については課題があるものの一定の取組の効果はあった。数値が下がっている部分は真摯に受け止め、取組の改善・教職員の意識改善を徹底していく。</li> <li>・「人権教育の充実」については、命を大切にする・いじめはゆるさないという視点で人権学活や教育相談を充実させることができた。次年度はさらに人権学習の時数や時期を確立させていく。</li> <li>・「自己有用感の育成」については、あいさつや清掃活動といった小中連携・地域へ出ていく取組が、誰かの、何かの役に立っているという機会となり、自己有用感の向上につながっている。しかし、教職員との目的の共有などには不十分さが残ったため、事前準備をしっかりと行いたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が落ち着いた反面、おとなしくなってきた印象がある。あいさつは家庭教育の部分もあるので、各家庭でもあいさつができるように発信していければと思う。</li> <li>・児童館や青少年活動センターなどのボランティア活動に中学生が参加してくれるようになった。地域で活躍する中学生を見ると大人も元気になりとても嬉しい。今後も地域の取組で交流を深めていきたい。</li> </ul>

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	心身の健康に関心を持ち、生涯にわたって健康を保持増進できる自己管理能力を身につける。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>*生活アンケートを実施し、生徒の実態を把握する。</li> <li>*保健指導の時間を確保し、健康教育の充実を図る。</li> <li>*生徒保健安全委員会による啓発活動を行う。</li> <li>*食物アレルギーの研修を行い、緊急時に迅速に対応できるようにしておく。</li> <li>*健康観察により生徒の欠席状態や心身の健康状態について把握し、必要に応じてスクールカウンセラーと連携し早期に対応する。</li> <li>*性教育についての研修を実施し、性教育の内容の充実を図る。</li> </ul>
(取組結果を検証する)各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童及び保護者アンケートの結果。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもと一緒に食事(朝・夕)をとること(保)</li> <li>② 子どもが8時間程度の睡眠をとること(保)</li> <li>③ パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使うときは、家の人と決めた約束により使用すること。(生)</li> </ol> </li> <li>・生徒会保健安全委員会による啓発活動を行う。</li> <li>・食物アレルギーのある子どもの学校生活を安心安全なものにするため、研修の機会を充実させる。</li> <li>・健康観察により生徒の欠席状況や心身の健康状態について把握し、必要に応じてスクールカウンセラーと連携し早期に対応する。</li> </ul>
中間評価	各種指標結果
自己評価	<p>・子どもと一緒に食事(朝・夕)をとること 保護者 重要度6.4/7 実現度5.0/7</p> <p>・子どもが8時間程度の睡眠をとること 保護者 重要度6.0/7 実現度3.4/7</p> <p>・パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使うときは、家の人と決めた約束により使用すること</p> <p>3年 重要度5.4/7 実現度3.5/7 2年 重要度5.7/7 実現度3.6/7</p> <p>1年 重要度5.8/7 実現度4.1/7</p> <p><b>分析(成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会でエビペンの使い方やアナフィラキシーショックについて学習し、生徒への対応を教職員全体で共有できた。</li> <li>・食事を朝夕家族で一緒に摂ることや、睡眠時間の確保について実現度が低い。パソコンやスマホ、ゲームの使用時間について家庭でルール化し、睡眠や家庭学習の時間を確保できるように呼びかけていきたい。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保健だより」等を通じて、睡眠と合わせ基本的な生活習慣の確立、テレビ・DVD視聴・スマホ・ゲーム等の使用について発信していく。また、アンケートなどで実態調査を行って結果を分析し、継続的な指導も行うようにしていく。</li> </ul> <p><b>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>アンケートの実現度を0.5ポイントアップさせる。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ・ゲーム・スマホは、家庭の中でのルールが一番肝心であるが、地域でも夜間のパトロールで外出している子どもがいれば声をかけるなど、生活習慣を整えるのに協力したい。</li> <li>・子どもたちの授業で実施されている「薬物乱用防止教室」などは、地域も一緒に聞けるといいと思います。</li> </ul>

最終評価

自己評価	<p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと一緒に食事(朝・夕)をとること 保護者 重要度6.3/7↓ 実現度5.1/7↑</li> <li>・子どもが8時間程度の睡眠をとること 保護者 重要度6.3/7↑ 実現度3.8/7↑</li> <li>・パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使うときは、家の人と決めた約束により使用すること</li> </ul> <p>3年 重要度5.7/7↑ 実現度3.9/7↑ 2年 重要度5.7/7→ 実現度3.8/7↑</p> <p>1年 重要度5.9/7↑ 実現度4.0/7↓</p> <p><b>分析(成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健だよりで家庭に健康面について随時発信することができた。また教職員用の保健だよりも発信し気になることへの周知徹底を行うことができた。</li> <li>・各アンケートの実現度は上昇したが、家庭への協力依頼や、基本的な生活習慣の大切さについて、情報提供を続けていくことが重要だと考える。</li> <li>・携帯やスマートフォンの扱いでトラブルが起きやすいので、学校からも注意喚起を続けるとともに、正しい活用の仕方、正しく活用できる能力を伸ばしていく必要がある。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>携帯やスマートフォンの扱いについて、集会や授業で正しい活用を呼びかけ続けていく。</p>
------	---

	<p><b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b> 睡眠や食事の大切さの実現度の数値は上昇しているので、心身の健康に関心を持つことができたといえる。しかしながら睡眠を妨げる要素として、携帯やスマートフォンの扱いについては引き続き家庭との連携が必要である。ちょっとしたことが犯罪につながったり、危険に巻き込まれたりすることがあるので、正しい知識を提供して情報の怖さを伝えていきます。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b> ・小学校高学年でほぼ携帯を持っている傾向があります。以前は携帯は禁止だったが、今では認める方向に進んでいます。学校も対応の仕方が難しいと思います。学校・保護者・関係機関が連携していく必要がありますね。 ・地域パトロールでは、夜間、外で遊んでいる生徒はほとんどいないのですが、家でゲーム等で遊んでいるのではないかと心配しています。</p>

(4) 学校独自の取組(「小中一貫教育」における9年間の教育目標と目指す子ども像)

<p><b>9年間の教育(重点)目標</b> 「規範意識」「自立・自律の心」「自己有用感」を高め、小中連携を通して校下の児童・生徒の心を育む。</p>	
<p><b>具体的な取組</b> 目指す子ども像(中学校ブロックの小・中学校で共有すること) ・いのちを大切に、人権を尊重する心をもつ子 ・他者とともによりよく生きるために、お互いの生き方や価値観の違いを認め合うことができる子 ・自立心、自己有用感、責任感、公共心、公德心を高めようとする子 自校の具体的な取組 ・よりよい縦割り活動を実践するための企画・立案。(小中合同挨拶運動、小中合同清掃活動) ・年4回の小中合同研修会の開催と、それに伴う教職員間の授業交流。 ・中学生による児童の自由研修鑑賞を通じて、異世代の活動を知る。 ・児童会と生徒会とで交流。リーダーの育成と相互理解を図る。</p>	
<p><b>(取組結果を検証する)各種指標</b> ・小中4校の学校評価共通項目の分析結果。 ・小中合同の取り組んでいる「七条エリアのルールとマナー」の分析結果。 ①児童・生徒が「子どもの本気」を自覚し、実践できるようにしている。(生) ②機会あるごとに、保護者・地域の大人の方に、「大人の本気」について呼びかけようとしている。(保) ・小中主任会や小中合同の教職員の取組状況。 ・学校からの情報発信状況。</p>	

中間評価

<p><b>各種指標結果</b> ・学校評価共通項目の「家庭学習 1H以上」 3年 重要度6. 2/7 実現度4. 5/7      2年 重要度6. 1/7 実現度3. 8/7 1年 重要度6. 2/7 実現度4. 3/7 ・「ルールを守り、マナーを心がけること」 3年 重要度6. 5/7 実現度5. 5/7      2年 重要度6. 6/7 実現度5. 0/7 1年 重要度6. 5/7 実現度5. 2/7 ・七条中ブロック4校が連携して、いじめや暴力を許さない学校づくりに努めていること 保護者 重要度6. 7/7 実現度3. 7 ・自分から進んで気持ちの良いあいさつをすること 3年 重要度6. 3/7 実現度5. 3/7      2年 重要度6. 4/7 実現度4. 9/7 1年 重要度6. 2/7 実現度5. 0/7 保護者 重要度6. 4/7 実現度4. 1/7 ・「自己有用感」 保護者 重要度6. 0/7 実現度3. 2/7 ・小中主任会等については、月1回の校長会の内容を受けて教務主任会を中心に各主任会を適宜実施。教頭会も実施できた。 ・小中合同研修会や参観授業等も計画どおり開催。 ・学校評価アンケート、保護者の回答は55.2%。</p>	
自己評価	<p><b>分析(成果と課題)</b> ・主体的にあいさつができるようになり、ルールやマナーを守ることの重要性が浸透している。 ・七条中ブロック4校で連携している、自己有用感を育む取組について理解を得られていないこと。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b> ・あいさつ運動を軸に、自らあいさつできる生徒の育成を小中連携を通して発展させていきたい。 ・すべての生徒に自己有用感を高めるための取組を理解してもらうために、たて割り活動や挨拶運動等の取組・情報を発信していく。</p>
	<p><b>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</b> アンケートの実現度を0. 5ポイントアップさせる。</p>

学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を歩いている生徒の態度がよくなったと思う。少し前は横に広がったりする姿を見かけたが今はほとんど見なくなった。</li> <li>・地域の行事に参加して活躍してくれている。今後も主体的に参加してくれることを期待している。</li> <li>・大人が本気を出して見本を見せないと、子どもも同じようにあいさつができない。七条中エリアの大人の本気・子どもの本気を実践できるように呼びかけていく必要がある。</li> </ul>
---------	--

### 最終評価

学校関係者評価	<p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価共通項目の「家庭学習 1H 以上」  3年 重要度 6. 1 / 7 ↓ 実現度 4. 2 / 7 ↓ 2年 重要度 5. 9 / 7 ↓ 実現度 3. 8 / 7 →  1年 重要度 6. 0 / 7 ↓ 実現度 3. 7 / 7 ↓</li> <li>・「ルールを守り、マナーを心がけること」  3年 重要度 6. 6 / 7 ↑ 実現度 5. 4 / 7 ↓ 2年 重要度 6. 6 / 7 → 実現度 5. 3 / 7 ↑  1年 重要度 6. 6 / 7 ↑ 実現度 5. 2 / 7 →</li> <li>・七条中ブロック 4校が連携して、いじめや暴力を許さない学校づくりに努めていること  保護者 重要度 6. 8 / 7 ↑ 実現度 4. 5 ↑</li> <li>・自分から進んで気持ちの良いあいさつをすること  3年 重要度 6. 2 / 7 ↓ 実現度 4. 9 / 7 ↓ 2年 重要度 6. 2 / 7 ↓ 実現度 4. 8 / 7 ↓  1年 重要度 6. 1 / 7 ↓ 実現度 4. 8 / 7 ↓  保護者 重要度 6. 0 / 7 ↓ 実現度 5. 0 / 7 ↑</li> <li>・「自己有用感」  保護者 重要度 6. 1 / 7 ↑ 実現度 4. 0 / 7 ↑</li> </ul> <p>・学校評価アンケート、保護者の回答は 78.4%。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ルールを守り、マナーを心がけること」の重要度と実現度は高い水準となった。保護者アンケートからは七条中ブロック 4校が連携していじめや暴力を許さない学校が評価されている。</li> <li>・生徒が自らあいさつすることや自己有用感が高まる取組を行っていることも実現度が高くなっている。学校の取組が評価されていると考える。</li> <li>・生徒会と児童会の連携があまり機能していなかったため、行事レベルで小中の取組を行った。一定の効果があつたが、児童生徒が主体性に取り組めるようにすることが課題である。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>小中合同の行事を生徒が主体的に活動できるように工夫する。小中連携してのあいさつ運動や清掃活動の取組で自己有用感を高めるだけでなく、地域を大切にしている児童生徒の育成につなげていきたいと考えます。</p> <p><b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>小中連携の行事を通して児童・生徒の「規範意識」「自立・自律の心」「自己有用感」の育成には少しずつ成果が見られますが、教職員の共通理解と児童生徒の主体性を伴わないと、形だけの行事となってしまう可能性がある。次年度は生徒会・児童会をうまく連携させて、小中の行事で力をつける取組にしていく。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>今後も七条中ブロックの 4校が連携して、地域の活性化の中心となってもらいたい。前期でもとりあげたが、大人が本気を出して見本を見せないと、子どもも同じようにあいさつができない。七条中エリアの大人の本気・子どもの本気を実践できるように呼びかけ続けていく必要がある。</p>